

平成 16 年度

日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究

台湾アンケート調査集計結果報告書

平成 17 年 3 月

独立行政法人

国立国語研究所

本報告書について

日本語教育の多様化が進んでいる。具体的には、学習目的、分野、母語等の学習者の特性や、各国・地域における日本語の社会的位置付け、日本語教育機関の設備・環境、教師の教育観や日本語能力等の多様化である。そのことについての認識は定着しつつあり、それぞれの教育現場において独自の対応がなされてきている。一方、インターネットをはじめとする様々な情報流通の在り方の変化や、学習者及び教師の地球規模での移動・交流はますます加速しており、日本語教育の各領域全体の様相をとらえ、連携体制を整え、必要な支援を行うことが日本語教育推進のために求められている。そこで、日本語教育の振興を図るための適切な支援、連携体制整備を進めるためには、まず国内外で日本語を学習し、あるいは教えている人々がどのような環境で、さらにはどのような手段で日本語を学習し、あるいは教えているのかについて広く情報収集し、「多様化」と言われる現状を把握する必要がある。

このような必要にかんがみ、国立国語研究所日本語教育部門では、国内外の地域を対象に各地域と連携しながら平成12年度より5年計画で「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を実施している。その一環として、平成15～16年度は日本語教育支援のための基礎研究として、台湾での日本語教育の学習環境と学習手段に関する実態把握のための調査を行った。

本報告書は、その中の「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究：台湾アンケート調査」の集計結果について、概略をまとめたものである。本集計結果については、本調査に併せて実施したインタビュー調査結果との関係等、様々な観点からの分析を現在進めている。その詳細な分析結果については、現在同時並行で調査実施・結果分析をしている他地域（タイ（バンコック）、韓国、オーストラリア（ヴィクトリア州）、マレーシア）との比較を含め、改めて報告する予定である。

本報告書は、5章から構成されている。第1章で台湾アンケート調査の概要、第2章で機関調査票（アンケート協力機関における学習者数等の基礎的情報）の集計結果、第3章で学習者の集計結果、第4章で教師の集計結果、第5章で今後作成予定の最終報告書に向けた課題としてまとめを行った。なお、本報告書の中心である集計結果の概略について簡単に把握できるよう、第2・3・4章の最初の部分には要約を載せてある。本報告書の作成・編集は、巻末に掲げた担当者のうち、主に金田智子（日本語教育部門第一領域主任研究員）が担当した。

本調査は、財団法人交流協会台北事務所の御協力、巻末に掲げた先生方の御尽力なくしてはなし得なかった。アンケート調査実施当時、同事務所の日本語教育専門家でいらっしゃった藤井彰二氏、本調査の海外委員である台湾・東海大学の工藤節子氏をはじめ、多くの先生方にお世話になった。ここに改めて感謝申し上げる。そして何より、本調査に御協力くださった現地の多くの日本語教育関係の方々に深くお礼申し上げます。

本報告書は、「集計結果報告書」として刊行するが、今後の日本語教育方策や日本語教育の内容・方法の検討に際しての一助となれば幸いである。

平成17年3月

独立行政法人国立国語研究所
日本語教育部門長 杉戸 清樹

目次

第1章 台湾アンケート調査実施概要	1
1-1. 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」概要	1
1-2. 調査目的	2
1-3. 調査地域	2
1-4. 調査対象	2
1-5. 調査期間	3
1-6. 調査方法	3
1-7. 調査票（アンケート）	3
1-8. 調査票の配布・回収	4
1-9. 分析対象	5
参考文献	6
本調査に関わる既刊報告書	6
第2章 集計結果：機関調査票	7
概要と要約	7
〔要約〕：2-1. 日本語教師数について	7
〔要約〕：2-2. 学習者数について	7
〔要約〕：2-3. 利用設備について	8
〔要約〕：2-4. 実施、または参加している日本語関係行事について	8
2-1. 日本語教師数について	9
2-1-1. 常勤教師数	9
2-1-2. 非常勤教師数	9
2-1-3. 常勤と非常勤の割合、台湾人と日本人の割合	9
2-2. 学習者数について	11
2-3. 利用設備について	11
2-3-1. コンピュータの利用	11
2-3-2. インターネットの利用	12
2-3-3. テレビ・ビデオ視聴	13
2-3-4. LL	13
2-3-5. OHP	14
2-3-6. テープレコーダー・CDプレーヤー	14

2-3-7. 日本語関係図書	14
2-4. 実施, または参加している日本語関係行事について	15
2-4-1. ビジター・セッション	15
2-4-2. 日本旅行	16
2-4-3. 日本との交換留学制度	16
2-4-4. スピーチコンテスト	17
2-4-5. 日本にある姉妹校との交流	18
2-4-6. その他	19
第3章 集計結果: 学習者	20
概要と要約	20
〔要約〕: 3-1. 学習者について	21
〔要約〕: 3-2. 日本語を使つてのやりとりについて	21
〔要約〕: 3-3. 日本語が使われているものとの接触について	22
〔要約〕: 3-4. 授業時間外の教科書等の使用について	22
〔要約〕: 3-5. 利用経験のある機会や場所について	22
〔要約〕: 3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて	23
〔要約〕: 3-7. 今後の充実を希望するものについて	23
3-1. 学習者について	24
3-1-1. 性別	24
3-1-2. 年齢	24
3-1-3. 母語	25
3-1-4. 日本語学習開始時期	25
3-1-5. 日本語の学習場所	25
3-1-6. 訪日経験	26
3-1-7. 訪日目的	26
3-1-8. 日本語学習動機	26
3-1-9. 日本語力 ((1)「読むこと」(2)「書くこと」(3)「聞くこと」(4)「話すこと」)	27
3-2. 日本語を使つてのやりとりについて	30
3-2-1. 日本語を使つてのやりとりの有無	30
3-2-2. やりとりの相手とその方法	31
3-2-3. 最もよくやりとりをする相手	32
3-2-4. やりとりをする相手の国籍 (最もよくやりとりをする相手)	33
3-2-5. やりとりをする相手の性別 (最もよくやりとりをする相手)	33
3-2-6. やりとりを始めた頃の日本語力 (最もよくやりとりをする相手)	33

3-2-7. やりとりをする頻度 (最もよくやりとりをする相手)	34
3-2-8. やりとりをする手段 (最もよくやりとりをする相手)	34
3-2-9. やりとりをするときの日本語の割合 (最もよくやりとりをする相手)	35
3-2-10. やりとりの内容 (最もよくやりとりをする相手)	35
3-2-11. 日本語でやりとりをする理由 (最もよくやりとりをする相手)	35
3-2-12. 授業以外で日本語を使わない理由	36
3-3. 日本語が使われているものとの接触について	37
3-3-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無	37
3-3-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無	37
3-3-3. 見聞きするもの	38
3-3-4. 最もよく見聞きするもの	39
3-3-5. 見聞きする頻度 (最もよく見聞きするもの)	39
3-3-6. 見聞きするものの所有者 (最もよく見聞きするもの)	40
3-3-7. 見聞きするものの内容 (最もよく見聞きするもの)	40
3-3-8. 見聞きする理由 (最もよく見聞きするもの)	41
3-3-9. 授業以外で日本語のものを見聞きしない理由	42
3-4. 授業時間外の教科書等の使用について	43
3-4-1. 使用の有無	43
3-4-2. 授業時間外の利用方法	43
3-4-3. 授業時間外に教科書などを利用しない理由	44
3-5. 利用経験のある機会や場所について	45
3-5-1. 利用経験の有無	45
3-5-2. 利用経験のある機会や場所	46
3-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無	48
3-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所	48
3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて	50
3-6-1. 日本語学習のために現在使っている学習参考書・問題集	50
3-7. 今後の充実を希望するものについて	51
3-7-1. 今後の充実を希望する学習参考書・問題集	52
3-7-2. 今後の充実を希望する辞書	53
第4章 集計結果：教師	54
概要と要約	54
〔要約〕：4-1. 教師について	54
〔要約〕：4-2. 授業について	55

〔要約〕：4-3. 日本語を使つてのやりとりについて (以下, 台湾人教師対象)……………	57
〔要約〕：4-4. 日本語が使われているものとの接触について……………	58
〔要約〕：4-5. 利用経験のある機会や場所について……………	59
4-1. 教師について……………	60
4-1-1. 性 別……………	60
4-1-2. 年 齢……………	60
4-1-3. 母 語……………	61
4-1-4. 日本語学習歴……………	61
4-1-5. 訪日経験……………	62
4-1-6. 訪日目的……………	62
4-1-7. 日本語教育経験……………	63
4-1-8. 日本語以外の教育経験の有無……………	63
4-1-9. 日本語力 ((1)「読むこと」(2)「書くこと」(3)「聞くこと」(4)「話すこと」)……………	64
4-1-10. 日本語教育を始めた理由……………	66
4-1-11. 日本語教育に関する学会等への参加について……………	67
4-1-12. 日本語教育に関する研修の経験について……………	67
4-1-13. 日本語教育に関する研修を受けた回数……………	68
4-2. 授業について……………	69
4-2-1. 授業で使うもの……………	69
4-2-2. 生教材について……………	70
4-2-3. 生教材を使う理由……………	72
4-2-4. 自作教材について……………	73
4-2-5. 授業での使用機材について……………	75
4-2-6. 授業での日本語の使用……………	76
4-2-7. 授業準備に利用するもの……………	79
4-2-8. 日本語教師としての能力に対する意識……………	81
4-2-9. 日本語教師の資質・能力向上のためにするもの……………	82
4-2-10. コンピュータ利用の有無及び方法……………	83
4-2-11. 日本語教育へのコンピュータ利用の必要性……………	85
4-2-12. 日本語教師の資質・能力向上のために充実を希望するもの……………	85
4-2-12-1. 充実を希望するもの：文法解説書……………	88
4-2-12-2. 充実を希望するもの：辞書……………	88
4-2-12-3. 充実を希望するもの：漢字字典……………	89
4-2-12-4. 充実を希望するもの：教師用指導参考書……………	89
4-2-12-5. 充実を希望するもの：コンピュータソフト……………	89
4-2-12-6. 充実を希望するもの：Web 日本語学習プログラム……………	90

4-3. 日本語を使つてのやりとりについて (以下, 台湾人教師対象)	91
4-3-1. 日本語を使つてのやりとりの有無	91
4-3-2. やりとりの相手とその方法	92
4-3-3. 最もよくやりとりをする相手	93
4-3-4. やりとりをする相手の国籍 (最もよくやりとりをする相手)	94
4-3-5. やりとりをする相手の性別 (最もよくやりとりをする相手)	94
4-3-6. やりとりを始めた頃の日本語力 (最もよくやりとりをする相手)	95
4-3-7. やりとりをする頻度 (最もよくやりとりをする相手)	95
4-3-8. やりとりをする手段 (最もよくやりとりをする相手)	95
4-3-9. やりとりをするときの日本語の割合 (最もよくやりとりをする相手)	96
4-3-10. やりとりの内容 (最もよくやりとりをする相手)	96
4-3-11. 日本語でやりとりをする理由 (最もよくやりとりをする相手)	97
4-3-12. 授業以外で日本語を使わない理由	97
4-4. 日本語が使われているものとの接触について	98
4-4-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無	98
4-4-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無	98
4-4-3. 見聞きするもの	99
4-4-4. 最もよく見聞きするもの	99
4-4-5. 見聞きする頻度 (最もよく見聞きするもの)	100
4-4-6. 見聞きするものの所有者 (最もよく見聞きするもの)	100
4-4-7. 見聞きするものの内容 (最もよく見聞きするもの)	101
4-4-8. 見聞きする理由 (最もよく見聞きするもの)	101
4-5. 利用経験のある機会や場所について	102
4-5-1. 利用経験の有無	102
4-5-2. 利用経験のある機会や場所	103
4-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無	104
4-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所	105
 第5章 課 題	 106

資料

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 —台湾アンケート調査—」調査票 ・機関調査票 (日本語版・中国語版)	3
・学習者用調査票 (日本語版・中国語版)	7
・教師用調査票 (日本語版・中国語版)	17

* 「台湾」という語は、調査対象地域を表す用語として用いている。

第1章 台湾アンケート調査実施概要

1-1. 「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」概要

学習目的、分野、母語等、学習者の特性や、各国・地域における日本語の社会的位置づけ、日本語教育機関の設備・環境、教師の教育観や日本語能力等、日本語教育の多様性についての認識は定着しつつあり、それぞれの教育現場において独自の対応がなされてきている。一方、学習者及び教師の地球規模での移動・交流はますます加速しており、日本語教育の各領域全体の様相を捉え、連携体制を整え、必要な支援を行うことが日本語教育推進のために求められている。

そこで、本調査研究では日本語教育の振興を図るための適切な支援、連携体制整備を進めるため、国内及び海外の各地域における多様化した日本語教育の実態を学習環境と学習手段の両側面から明らかにすることを目的とする。

本調査研究の特色は以下の3点である。

(1) 国内と海外の両方を視野においた調査研究である。

国内外の社会状況や教育制度、学習環境等の異なる地域を比較することで世界の日本語教育の状況全体を把握することができる。

具体的には、国外では学習者数・学習環境面での多様性や調査協力体制等の観点から、タイ（バンコック）、オーストラリア（ヴィクトリア州）、韓国、マレーシア、台湾の5地域において、実施または実施中である。タイ（バンコック）調査に関しては、『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 タイ（バンコック）アンケート調査集計結果報告書』を平成15年3月に、韓国調査に関しては、『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 韓国アンケート調査集計結果報告書』を平成16年3月に刊行した。他地域についても順次刊行及び公開予定である。

国内では、全国的なアンケート調査を実施し、結果報告書を刊行予定である。また、いくつかの地域においてインタビュー調査等を実施中である。

(2) 微視的・巨視的視野の両面からの研究である。

各国・地域の一般的な教育観、言語教育政策、日本との経済・文化等の交流関係等、それぞれの社会環境の中で日本語教育がどのような位置づけにあるかというマクロな視野を持ちつつ、同時に学習者・教師の具体的な行動や意識、教材等、個々の日本語学習／教育の実態というマイクロレベルでの調査を行う。

(3) 学習者と教師の両面からアプローチする研究である。

各国・地域における初・中・高等教育機関、民間日本語教育機関、ボランティア教室（国内）などにおける学習者及び教師を対象に、アンケートとインタビューの手法を用いて行う。

1-2. 調査目的

1-1で示した「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」の一環として、台湾での日本語教育の学習環境と学習手段に関する実態について、全体的な傾向を把握し、新たな観点から日本語教育の改善・支援のための基礎資料を作成する。あわせて、今後の学習環境と学習手段に関する調査研究における調査方法のあり方、アンケートやインタビュー調査の内容・技術に関する検討のための基礎資料とする。

1-3. 調査地域

台湾は、学習者数が海外で5番目に多く（国際交流基金，2005）、日本語教育が非常に盛んである。本調査では、台湾全土を視野に入れて調査を行った。調査地域ごとにアンケートの回答を得た学習者と教師の所属内訳数は以下の表1-1、1-2のとおりである。機関の分類については、1-9を参照されたい。

〈表1-1：地域別学習者数〉（ ）内は%

	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計
北部	340 (36.7)	686 (33.1)	237 (53.1)	1,263 (36.6)
中部	333 (36.0)	513 (24.7)	31 (7.0)	877 (25.4)
南部	129 (13.9)	661 (31.9)	36 (8.1)	826 (24.0)
東・島嶼部	66 (7.1)	63 (3.0)	0 (0.0)	129 (3.7)
不明	58 (6.3)	152 (7.3)	142 (31.8)	352 (10.2)
合計	926 (100.0)	2,075 (100.0)	446 (100.0)	3,447 (100.0)

〈表1-2：地域別教師数〉（ ）内は%

	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計
北部	19 (45.2)	53 (39.8)	29 (59.2)	101 (45.1)
中部	12 (28.6)	21 (15.8)	0 (0.0)	33 (14.7)
南部	8 (19.0)	47 (35.3)	3 (6.1)	58 (25.9)
東・島嶼部	2 (4.8)	4 (3.0)	0 (0.0)	6 (2.7)
不明	1 (2.4)	8 (6.0)	17 (34.7)	26 (11.6)
合計	42 (100.0)	133 (100.0)	49 (100.0)	224 (100.0)

なお、地域間の比較については本調査結果をもとに今後の課題とする。

1-4. 調査対象

台湾で日本語教育を実施している機関における日本語学習者と日本語教師を対象とした。インタビュー調査では、いわゆる教育機関には属さない日本語学習者や、日本語を学習する児童・生徒の保護者も対象としている。

1-5. 調査期間

平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月（アンケート調査期間）

1-6. 調査方法

アンケート調査票を用い、中等教育機関、高等教育機関、学校教育以外の機関に属する調査対象者に対しアンケート調査を行った。それと並行してインタビュー調査も実施した。インタビュー結果については別途、報告する予定である。

1-7. 調査票（アンケート）

調査票（アンケート）は、学習者用と教師用があり、それぞれ中国語版と日本語版のものを用意した。

学習者用では、学習者が日本語を学習する際には何らかの物、人、情報といった対象に接触すると考えられることから、学習者がどのような対象にどのように接触しているのかについて質問する項目が中心になっている。なお、これらの質問項目は比較のため、台湾人教師にも一部同様に尋ねている。教師用では、日本語の授業及び授業準備の際にどのような物、人、情報といった対象にどのように接触しているのかについて質問する項目が中心になっている。

また、それらの接触の対象や方法等に影響すると考えられる項目として、学習者については日本語学習歴、学習動機等、教師については日本語教育歴、日本語教育を始めた理由等の属性についてもあわせて尋ねている。

主な調査項目は以下のとおりである。詳細については、巻末資料の「学習者用調査票」「教師用調査票」を御覧いただきたい。

〔学習者用〕

属性

- ・ 性別、居住地域、年齢、母語、身分、日本語学習の開始学年、日本語学習の場所、訪日経験、日本語学習動機、4 技能別日本語力自己評価等

質問項目

- ・ 日本語使用状況（相手、頻度、手段、内容、理由等）
- ・ 日本語接触状況（物、頻度、内容、理由等）
- ・ 授業で使用する日本語教材の授業外使用状況
- ・ 日本語接触状況（機会）
- ・ 日本語学習のためのリソース（物）
- ・ 日本語学習のために充実を希望するもの

〔教師用〕

属性

- ・ 性別, 居住地域, 年齢, 母語, 日本語学習歴, その他の外国語学習歴, 訪日経験, 日本語教育経験, 日本語以外の教育経験, 4 技能別日本語力自己評価, 日本語教育を始めた理由, 学会・研究会への参加, 日本語教育に関する研修等

質問項目

I : 授業及び授業準備に関する質問 (台湾人教師及び日本人教師対象)

- ・ 授業での使用教材, 使用生教材の種類, 使用自作教材の種類
- ・ 授業での使用機材
- ・ 授業での日本語使用状況
- ・ 授業準備のためのリソース (物, 人)
- ・ 日本語教師に必要な能力に関する意識
- ・ 資質・能力向上のためにしていること, 役に立つと思うこと
- ・ コンピュータ使用状況
- ・ コンピュータ使用に関する意識
- ・ 資質・能力向上のために充実を希望するもの

II : 日本語力向上のための環境に関する質問 (台湾人教師対象)

- ・ 日本語使用状況 (相手, 頻度, 手段, 内容, 理由等)
- ・ 日本語接触状況 (物, 頻度, 内容, 理由等)
- ・ 日本語接触状況 (機会)

1-8. 調査票の配布・回収

財団法人交流協会台北事務所のご協力を得て, 調査協力校の選定, 調査票の配布及び回収を行った。

回収結果は以下の表 1-3 のとおりである。「フェイス数」とは「機関調査票」の回収部数を示す。「機関調査」は機関名, 住所, 日本語教師数, 学習者数, 使用設備等を把握するために各機関を対象に行った。調査票サンプルを巻末資料に示した。なお, 以下の集計に際しては個人や機関を特定する記述についてはすべて省略する。

〈表 1-3 : 回収結果〉

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
機関数	110	35	58	17
学習者数	3,447	926	2,075	446
教師数	224	42	133	49
フェイス数	86	33	45	8

財団法人交流協会 (2004) によれば, 2003 年の台湾全体における日本語教育機関数, 学習者数, 教師数は以下に示すとおりである。

〈表 1-4：台湾全体における日本語教育機関数・教師数・学習者数〉（ ）内は%

	合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
機 関 数	435 (100.0)	175 (40.2)	145 (33.3)	115 (26.4)
学習者数	128,641 (100.0)	36,597 (28.4)	75,242 (58.5)	16,802 (13.1)
教 師 数	2,496 (100.0)	522 (20.9)	1,304 (52.2)	670 (26.8)

1-9. 分析対象

有効回答数は学習者 3,447 名，教師 224 名である。

本調査研究では，当該地域だけではなく，諸外国における学習手段・環境の比較検討までを視野に入れている。しかし，各国の教育制度・学校体系は国によって異なるため，第 2 章からの集計・分析には国際交流基金日本語国際センター（2000）を参考に，調査対象機関を以下の 3 つに分類して，比較・集計を進める。

- ①「中等教育機関」：国民中学（日本の中学校に相当し，義務教育である），高級中学（普通高校に相当），高級職業学校（職業高校に相当）。日本の中学校及び高等学校にあたる学校教育機関。
- ②「高等教育機関」：大学，大学院，技術学院（高級職業学校や専科学校の修了者が進学する教育機関），専科学校（専修学校＜専門課程＞や高等専門学校に相当）。日本の大学院・大学・短期大学にあたる教育機関。
- ③「学校教育以外の機関」：上記①②に含まれない機関

なお，台湾には 2 年制と 5 年制の専科学校がある。前者は高等教育機関であるが，後者は後期中等教育機関の 3 年間と高等教育機関の 2 年間をあわせたものであり，日本における高等専門学校に類する。本調査では，この 5 年制専科学校は機関としては高等教育機関に，所属する学習者については，1～3 年生は中等教育，4，5 年生は高等教育に属することとした。他の高等教育機関及び学校教育以外の機関で回収された学習者用調査票についても，身分が中等教育機関の生徒となっている場合は，中等教育機関に属するものとした。また，少数ではあるが，中学校（機関調査票回収数 1）及び中学生（39 名）も，中等教育機関に含めてある。

その結果，分析対象は，表 1-5 のとおりである。なお，調査項目によって，設問の意図を理解していないと思われる回答箇所は，集計上は無回答とした。そのため，第 2 章以降の集計結果では，調査項目によって回答者数に違いがある。

〈表 1-5：分析対象〉（ ）内は%

	合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
学習者数	3,447 (100.0)	926 (26.9)	2,075 (60.2)	446 (12.9)
教 師 数	224 (100.0)	42 (18.8)	133 (59.4)	49 (21.9)

参考文献

財団法人交流協会（2004）『台湾における日本語教育事情調査報告書 平成 15 年度』

国際交流基金日本語国際センター（2000）『海外の日本語教育の現状－日本語教育機関調査・1998 年－』

国際交流基金（2005）『海外の日本語教育の現状－日本語教育機関調査・2003 年－概要』

本調査に関わる既刊報告書

国立国語研究所（2002）『平成 13 年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究－タイ（バンコック）アンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所（2003）『平成 13 年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究－タイ（バンコック）アンケート調査集計結果報告書<タイ語版>』

国立国語研究所（2004）『平成 15 年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究－韓国アンケート調査集計結果報告書』

国立国語研究所（2004）『平成 15 年度 日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究－韓国アンケート調査集計結果報告書<韓国語版>』

第2章 集計結果：機関調査票

概要と要約

本章では、「機関調査票」の集計結果について報告する。「機関調査」とは、前述のとおり、機関名、住所、日本語教師数、学習者数、使用設備等の情報を把握するために、アンケート調査協力機関を対象に行ったものである。本章の構成は4節からなるが、具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。各節の詳細については、2-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「〈機関F1〉」は「機関調査票の項目番号F1」を示す。

本調査における機関調査票の機関種別有効回答数とその内訳は表2-1のとおりである。上記のとおり、本調査対象機関は本アンケート調査協力機関のみであり、全数調査ではない。よって、以下のデータは本調査対象機関の範囲内に限定されるものであり、特に、学校教育以外の機関は8機関と少ないことから、以下のデータの解釈には注意を要する。また、機関調査票の回収数は本調査における実際の協力機関数よりも少ない。

〈表2-1：機関調査票の回答数・内訳〉（ ）内は%

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答数	86 (100)	33 (38.4)	45 (52.3)	8 (9.3)

(要約)：2-1. 日本語教師数について

- ・常勤教師数：中等教育では全ての学校が5人以下、高等教育では1～5人が42.2%で最も高いが、11人以上も35.6%と高い。学校教育以外では0人、6～10人がそれぞれ37.5%で、11人以上のところはない。
- ・非常勤教師数：中等教育と高等教育では、1～5人が66.7%・44.4%で最も高い。学校教育以外では、11人以上が半数を占める。
- ・常勤と非常勤の割合：高等教育では常勤と非常勤がほぼ同数であるが、他は非常勤のほうが多い。常勤のうち、中等教育では台湾人が大多数を占めるが、高等教育では日本人が増え(25.5%)、学校教育では日本人の方が多い(90.0%)。非常勤の場合、中等・高等教育では台湾人のほうがそれぞれ77.8%・87.8%と多いが、学校教育以外では台湾人と日本人の差が小さい。

(要約)：2-2. 学習者数について

- ・学習者数：
中等教育では、「200人未満」が48.5%と多い。高等教育では、「200人未満」～「1,000人以上」までの間に分散している。学校教育以外では、回答数8のうち、7校が600人未満(87.5%)の規模。

(要約)：2-3. 利用設備について

- ・コンピュータの利用：中等教育約8割，高等教育約9割，学校教育以外約6割の機関で，利用可能。
- ・コンピュータの利用可能台数：
教師用は中等教育と学校教育以外で「1～10台」(44.4%・80.0%)が最も多い。高等教育では「1～10台」(39.0%)，「11～30台」(34.1%)が同程度に多い。学習者用としては，中等教育・高等教育では「1～50台」「51～100台」「101～200台」「200～500台」に分散している。
- ・インターネットの利用：中等教育・高等教育では，利用不可のところは少ない(9.1%・2.2%)。利用者については，高等教育ではすべて教師と学習者の両方が利用可能だが，中等教育や学校教育以外の場合には，利用が「主に教師」に限られる場合もある。
- ・テレビ・ビデオ視聴：どの機関でもほぼ利用可能。教師と学習者の「両方が利用」なのが，高等教育は75.6%，中等教育は69.7%である。
- ・LLの利用：利用可能が，高等教育で80.0%，中等教育で48.5%，学校教育以外で37.5%。
- ・OHPの利用：利用可能が，高等教育で64.4%，学校教育以外で50.0%で比較的高く，中等教育では33.3%と下がる。
- ・テープレコーダー・CDプレーヤー：全体的にどの機関でもほぼ利用可能。
- ・日本語関係図書：全体的にどの機関でもほぼ利用可能。

(要約)：2-4. 実施，または参加している日本語関係行事について

- ・ビジター・セッション：
中等教育では「あり」が36.4%だが，高等教育では66.7%，学校教育以外では50.0%。
- ・日本旅行：
学校教育以外では「あり」が25.0%だが，中等教育では39.4%，高等教育では40.0%と多少高くなる。
- ・日本との交換留学制度：
中等教育・学校教育以外では「あり」が12.1%・25.0%とわずかだが，高等教育では46.7%とほぼ半数にのぼる。「あり」の場合，「主催」と「(主催と他機関が主催の)両方」を合わせると，中等教育では75.0%，高等教育では71.4%で，自ら留学制度を有する機関は多い。学校教育以外は，「主催」と「他機関が主催」が50.0%ずつ。
- ・スピーチコンテスト：
中等教育・学校教育以外では「なし」のほうが多い(54.5%・62.5%)が，高等教育では「あり」のほうが多い(77.8%)。「あり」の場合，中等教育・学校教育以外では「他機関が主催」がいずれも66.7%であるのに対し，高等教育では「自らの機関で主催」と「両方」を合わせると，68.6%となり，自ら主催している機関が多い。
- ・日本にある姉妹校との交流：
中等教育・学校教育以外では「なし」が63.6%・87.5%だが，高等教育では「あり」が62.2%。交流の具体的な内容は，中等教育・高等教育で「学校訪問受け入れ」や「相手校訪問」が多い。

2-1. 日本語教師数について

ここでは、本調査に回答した機関の日本語教師数について尋ねた結果を報告する。

2-1-1. 常勤教師数

常勤教師数は、中等教育では「0人」が42.4%、「1~5人」が57.6%で、6人以上、常勤教師がいる学校はない。高等教育では「1~5人」が42.2%で最も高いが、「11人以上」も35.6%となっている。学校教育以外では、「0人」、「6~10人」が37.5%、「1~5人」が25.0%である（図2-1）。 <機関F1>

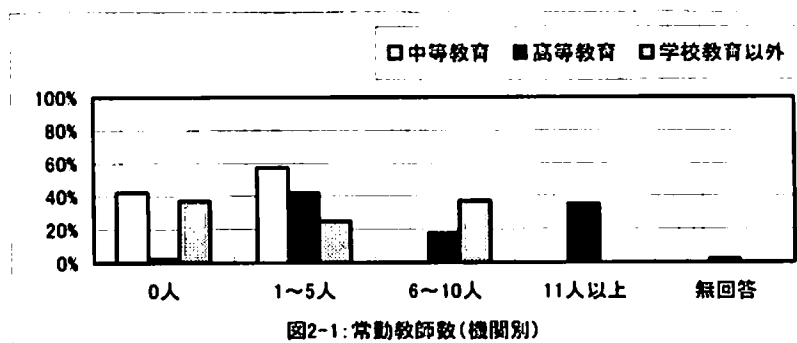


図2-1: 常勤教師数(機関別)

2-1-2. 非常勤教師数

非常勤教師数は、中等教育と高等教育では「1~5人」が最も多く（66.7%・44.4%）、学校教育以外では「11人以上」が50.0%で最も多い（図2-2）。 <機関F1>

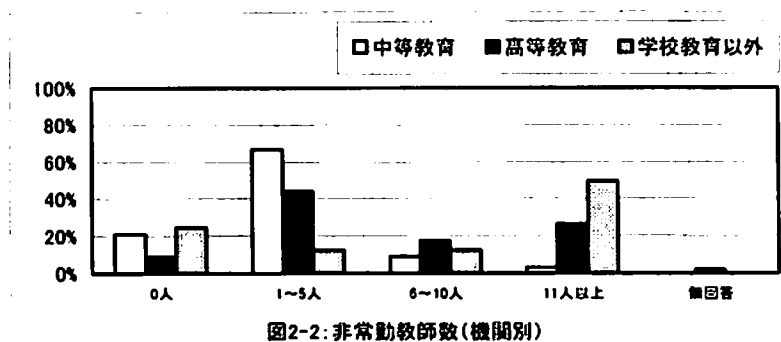


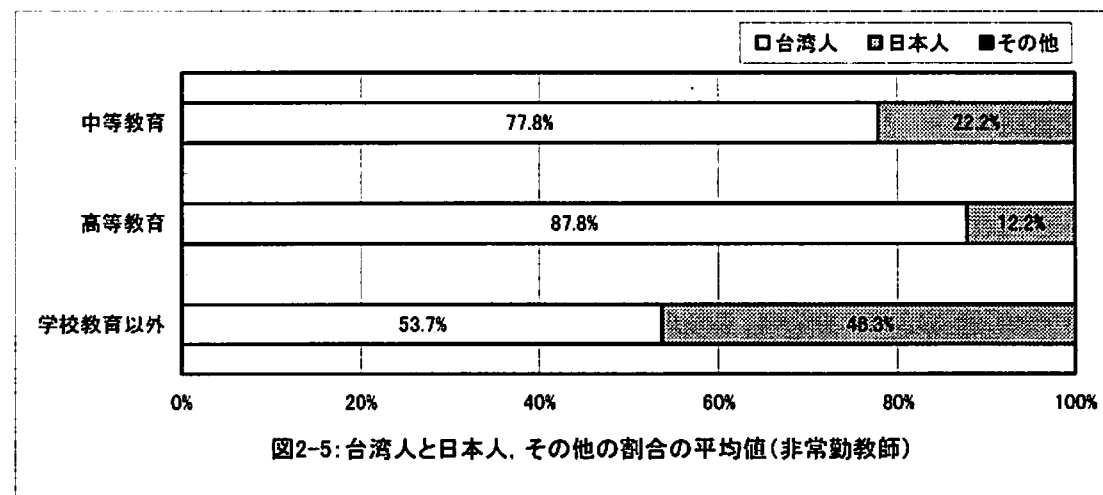
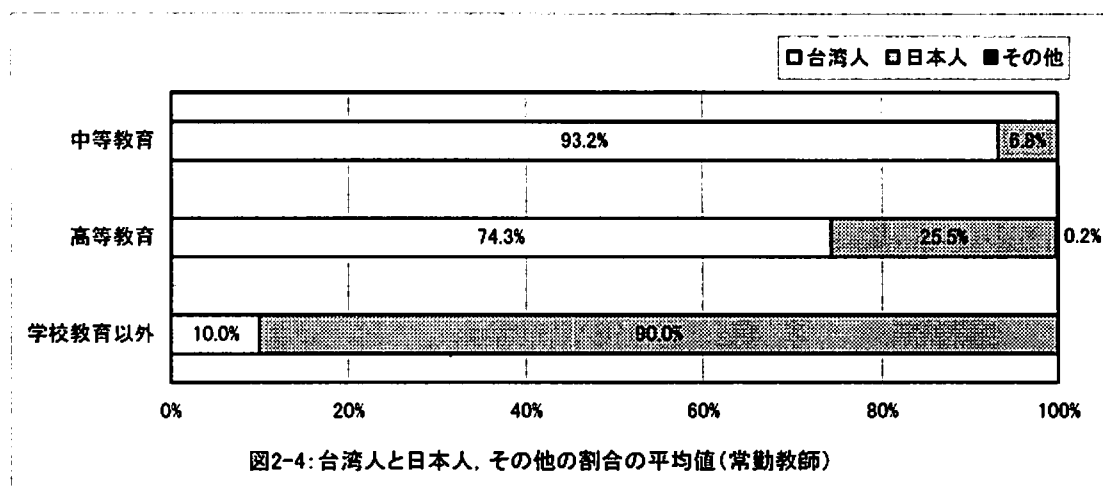
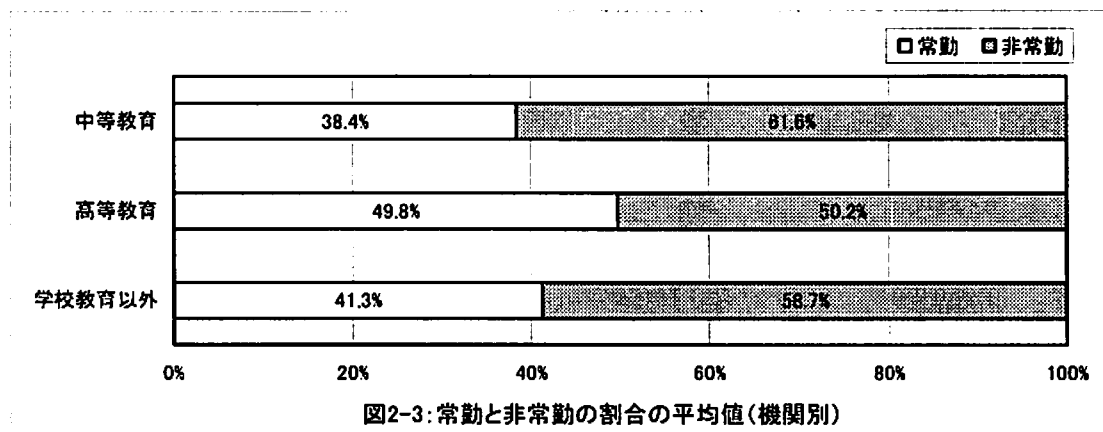
図2-2: 非常勤教師数(機関別)

2-1-3. 常勤と非常勤の割合、台湾人と日本人の割合

機関種別に関わらず、常勤よりも非常勤のほうが多いが、高等教育ではほぼ同数である（図2-3）。常勤教師の中で、台湾人と日本人の占める割合を比べると、中等教育では台湾人が大多数を占め、日本人はわずか（6.8%）だが、高等教育では、日本人の占める割合が増し（25.5%）、学校教育以外では日本人の方

が多数（90.0%）を占める。非常勤教師の場合、中等教育・高等教育では、台湾人のほうがかなり多い（77.8%・87.8%）が、学校教育以外では台湾人 53.7%、日本人 46.3%と大きな差はない（図 2-4・2-5）。

〈機関別〉



2-2. 学習者数について

ここでは、学習者数について尋ねた結果を報告する。

中等教育では、「200 人未満」が 48.5%を占める。高等教育では、「200 人未満」が 13.3%、「200～400 人」が 22.2%、「400～600 人」が 11.1%、「600～800 人」が 17.8%、「800～1,000 人」が 11.1%、「1,000 人以上」が 20.0%と分散している。学校教育以外では、回答数 8 のうち、7 校は 600 人より小さい規模である (87.5%) (図 2-6)。

〈機関 F2〉

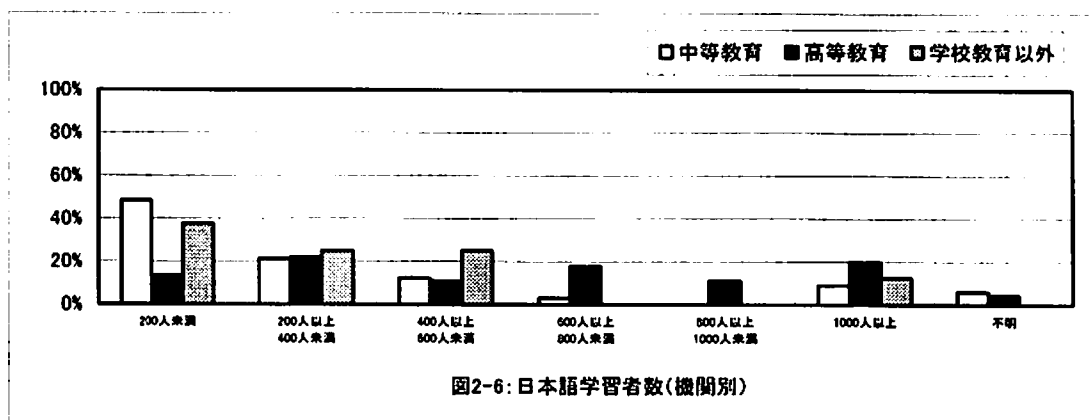


図2-6: 日本語学習者数(機関別)

なお、学習者の所属・学年等、詳しい内訳については、第3章表 3-1 (p. 20) にまとめた。

2-3. 利用設備について

ここでは、コンピュータ等の利用設備について尋ねた結果を報告する。

2-3-1. コンピュータの利用

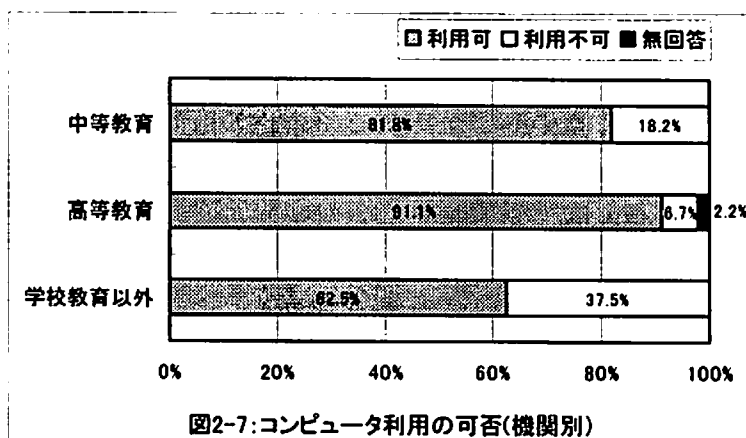


図2-7: コンピュータ利用の可否(機関別)

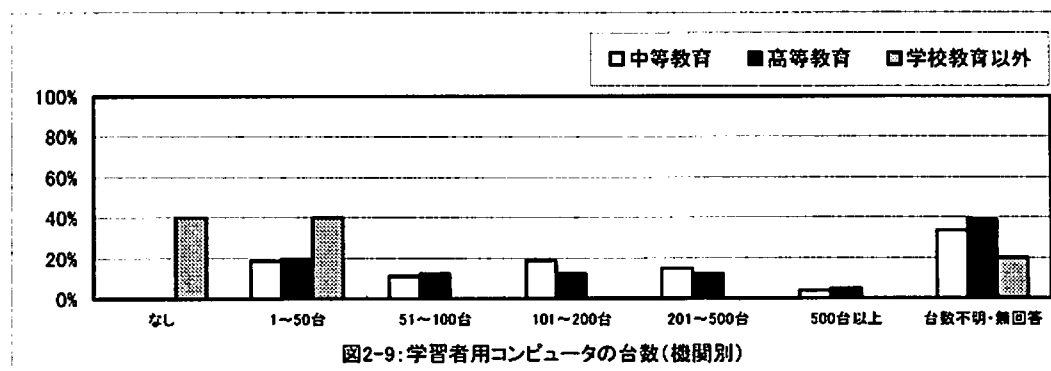
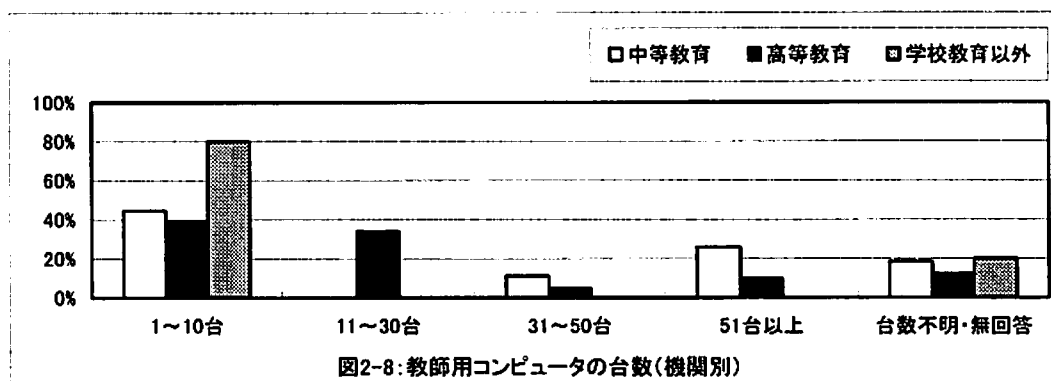
日本語関係の教師や学習者が利用できるコンピュータがあるかどうかについて尋ねた。中等教育では 81.8%、高等教育では 91.1%で利用可能となっているが、学校教育以外では、約 62.5%と多少下がる (図 2-7)。

〈機関 F3-1〉

利用可能台数について尋ねたところ、まず教師用は、中等教育の場合、「1～10台」が44.4%で最も多い。高等教育の場合、「1～10台」が39.0%、「11～30台」が34.1%となっている。学校教育以外の場合は、「1～10台」が80.0%で最も多い。

学習者用としては、中等教育・高等教育では「1～50台」「51～100台」「101～200台」「200～500台」に分散している。学校教育以外では「なし」と「1～50台」がそれぞれ40.0%となっている（図2-8、2-9）。

（機関 F3-1）



2-3-2. インターネットの利用

インターネットを利用できるかどうかについて尋ねたところ、中等教育では9.1%、高等教育では2.2%、学校教育以外では25.0%の機関が利用不可であった。

さらに、主な利用者について尋ねたところ、高等教育機関は学習者と教師の両方が利用可能なところがほとんど（97.8%）であるが、中等教育の場合、両方が可能な機関は75.8%にとどまる。また、学校教育以外の場合は、「主に教師が利用」が、50.0%を占める（図2-10）。

（機関 F3-2）

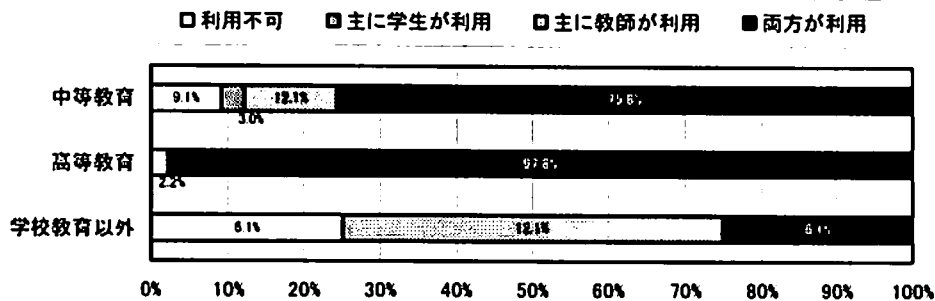


図2-10: インターネットの主な利用者(機関別)

2-3-3. テレビ・ビデオ視聴

テレビ・ビデオ視聴について尋ねたところ、どの種別の機関でもほぼ利用可能となっている。

主な利用者について尋ねたところ、教師と学習者の「両方が利用」なのが、高等教育が75.6%、中等教育が69.7%、と多数を占めるが、学校教育以外では、「両方が利用」と「主に教師が利用」がそれぞれ半数ずつを占めている(図2-11)。

〈機関 F3-3〉

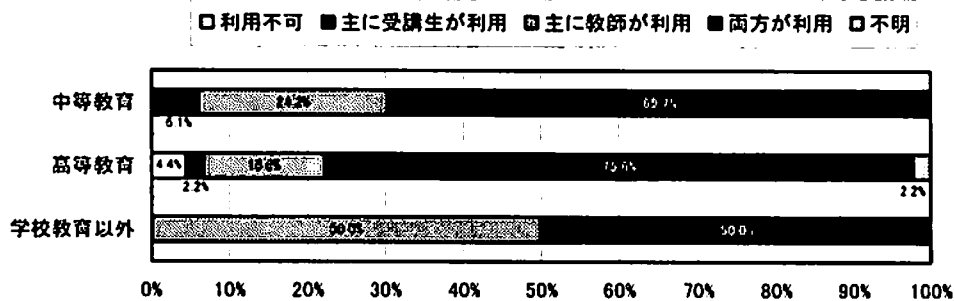


図2-11: テレビ・ビデオの主な利用者(機関別)

2-3-4. LL

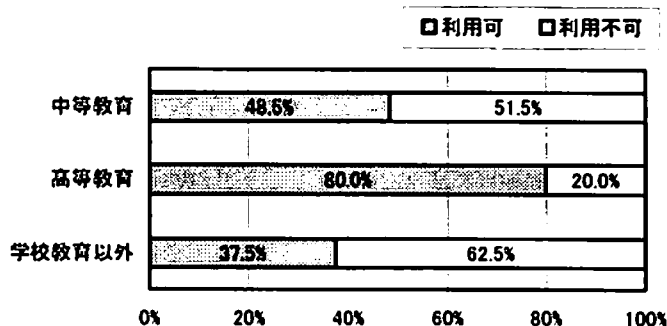
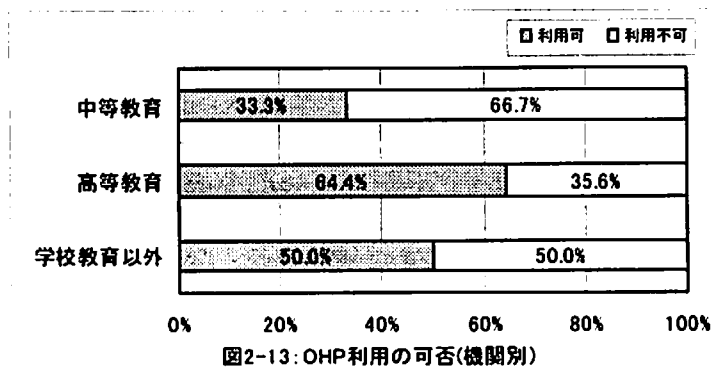


図2-12: LL利用の可否(機関別)

LLを利用できるかどうかについて尋ねたところ、高等教育の80.0%、中等教育の約半数(48.5%)は利用可能である。学校教育以外では、37.5%と下がる(図2-12)。

〈機関 F3-4〉

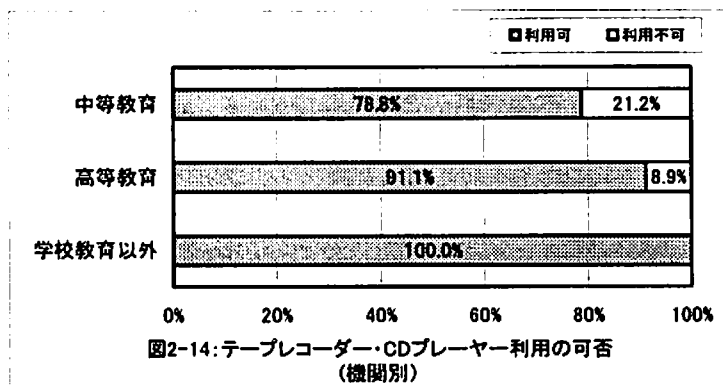
2-3-5. OHP



OHPを利用できるかどうかについて尋ねたところ、高等教育では64.4%と高く、学校教育以外で利用可と不可が半数ずつ、中等教育では利用可が33.3%と低い(図2-13)。

〈機関 F3-5〉

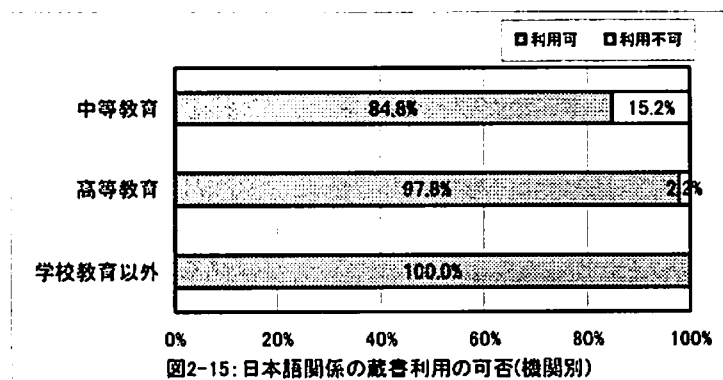
2-3-6. テープレコーダー・CDプレーヤー



テープレコーダー・CDプレーヤーを利用できるかどうかについて尋ねたところ、どの種別の機関でもほとんどが利用可能となっている(図2-14)。

〈機関 F3-6〉

2-3-7. 日本語関係図書



日本語関係図書を利用できるかどうかについて尋ねたところ、どの種別の機関でもほぼ利用可能となっている(図2-15)。

主な利用者は、高等教育ではほとんどが学生と教師の両方(88.6%)であるが、中等教育では、学生か教師に利用が限定されている学校も少なくない。

学校教育以外では、「教師」もしくは「両方」のいずれかである(図2-16)。

〈機関 F3-7〉

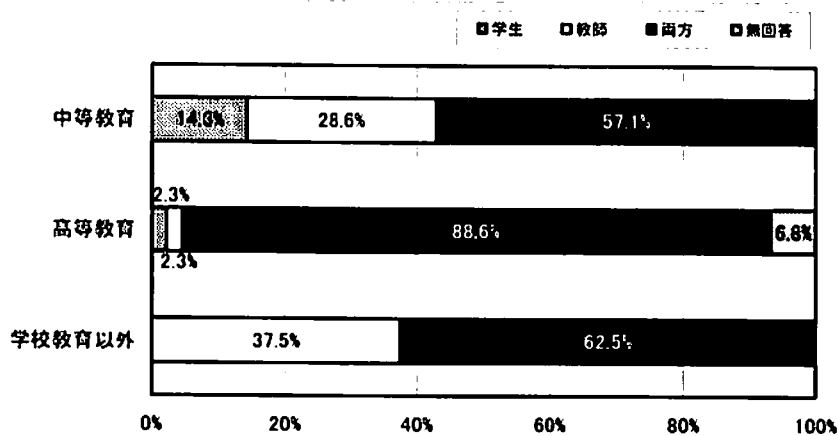


図2-16: 日本語関係蔵書の主な利用者(機関別)

2-4. 実施、または参加している日本語関係行事について

ここでは、留学制度等の実施、または参加している日本語関係行事について尋ねた結果を報告する。

2-4-1. ビジター・セッション

まず、ビジター・セッション（学外からゲストを招き、日本・日本語に関する話をしてもらったり、会話相手になってもらったりすること）を実施しているかどうかについて尋ねた。実施しているところは、中等教育では36.4%であるが、学校教育以外では半数、高等教育機関では過半数を占めている（図2-17）。

〈機関 F4-1〉

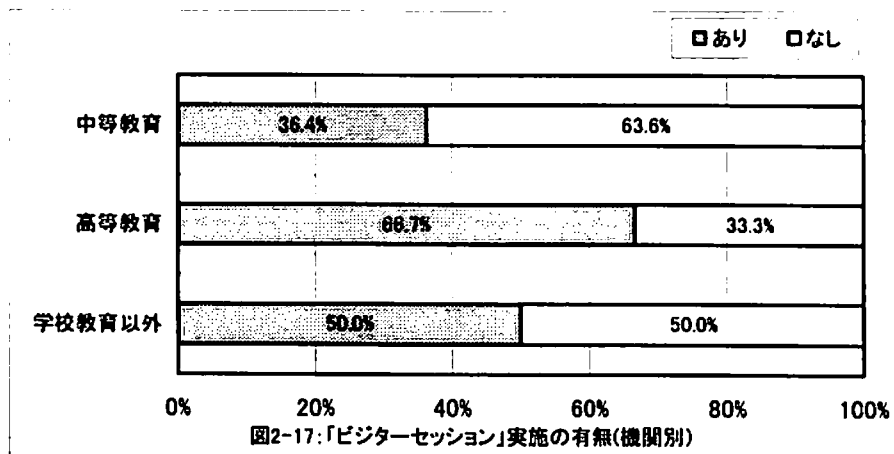
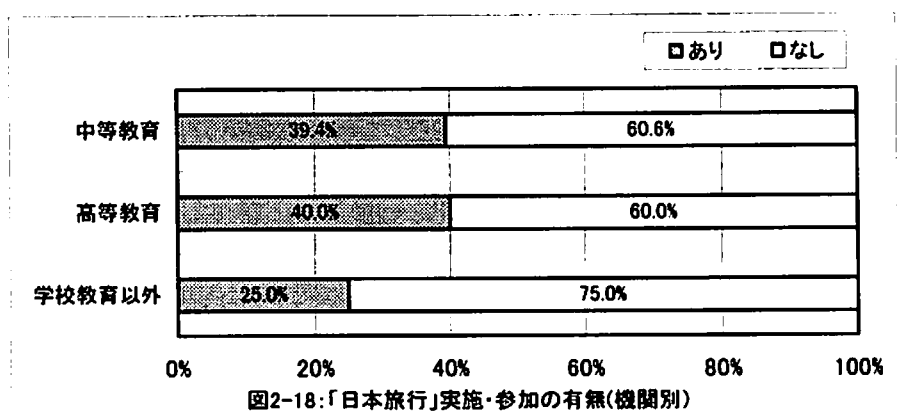


図2-17: 「ビジターセッション」実施の有無(機関別)

2-4-2. 日本旅行

日本旅行を実施・参加しているかどうかについて尋ねたところ、学校教育以外では、「あり」が25.0%にとどまるのに対し、中等教育・高等教育では、それぞれ39.4%、40.0%と多少多くなっている（図2-18）。

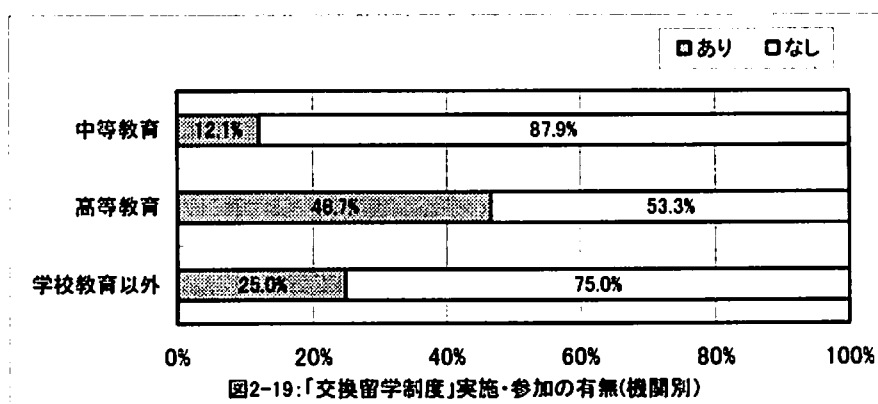
〈機関 F4-2〉



2-4-3. 日本との交換留学制度

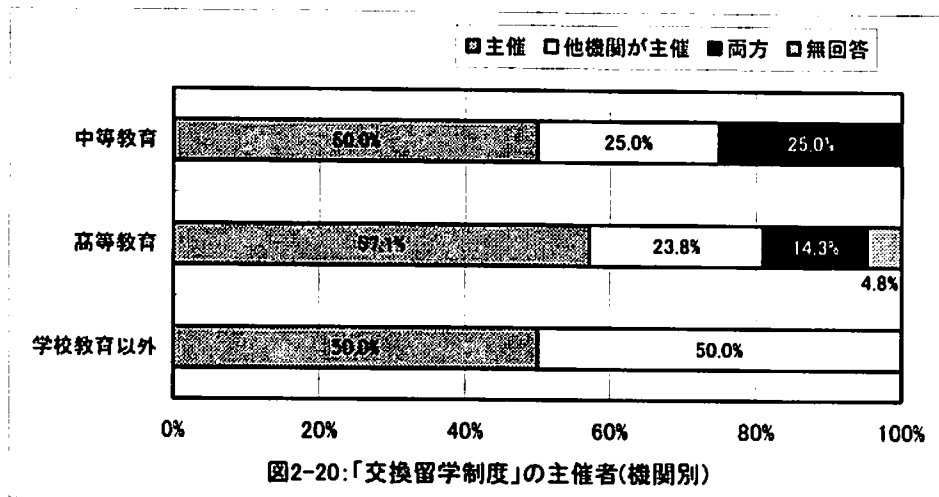
日本との交換留学制度を機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では「なし」が87.9%となっているのに対して、高等教育では「あり」と「なし」がほぼ二分される（46.7%・53.3%）。学校教育以外では「あり」が25.0%にとどまる（図2-19）。

〈機関 F4-3〉



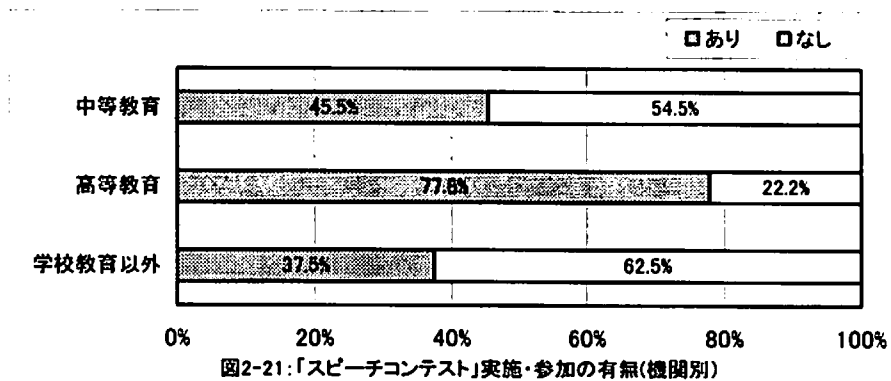
交換留学制度を自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育では、「主催」および（「主催」と「他機関が主催」の）「両方」をあわせると、75.0%、高等教育では71.4%であり、何らかの交換留学制度を持つ学校が多いことがわかる。学校教育以外の場合は、「主催」と「他機関が主催」がそれぞれ50.0%ずつである（図2-20）。

〈機関 F4-3〉



2-4-4. スピーチコンテスト

スピーチコンテストを機関で実施している、または参加しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育・学校教育以外では「なし」が54.5%・62.5%となっているのに対して、高等教育では逆に「あり」が77.8%と多くなっている(図2-21)。(機関 F4-4)



スピーチコンテストを自ら主催しているかどうかについて尋ねたところ、中等教育・学校教育以外では「他機関が主催」が66.7%・66.7%であるのに対して、高等教育では「主催」および(「主催」と「他機関が主催」の)「両方」をあわせると、68.6%となり、自ら主催している機関が多いことがわかる(図2-22)。(機関 F4-4)

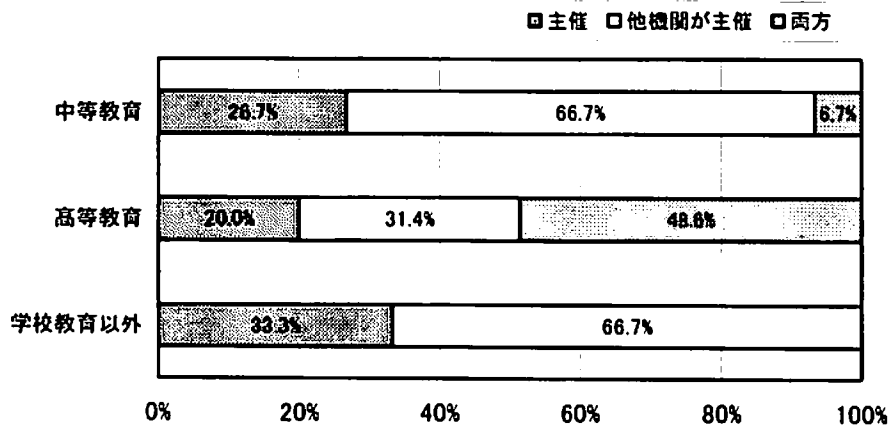


図2-22:「スピーチコンテスト」の主催者(機関別)

2-4-5. 日本にある姉妹校との交流

日本の学校と姉妹校の交流をしているかどうかについて尋ねたところ、中等教育・学校教育以外では、「なし」(63.6%・87.5%)のほうが多いが、高等教育では、「あり」のほうが62.2%と多くなっている(図2-23)。

また、交流の具体的な内容は、中等教育・高等教育で「学校訪問受け入れ」(83.3%・75.0%)と「相手校訪問」(66.7%・75.0%)が多い(図2-24)。 (機関 F4-5)

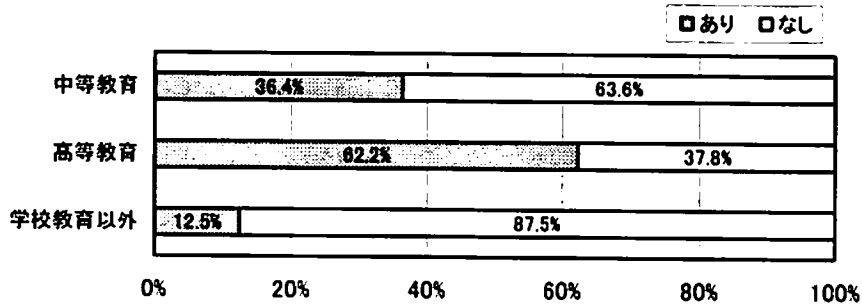
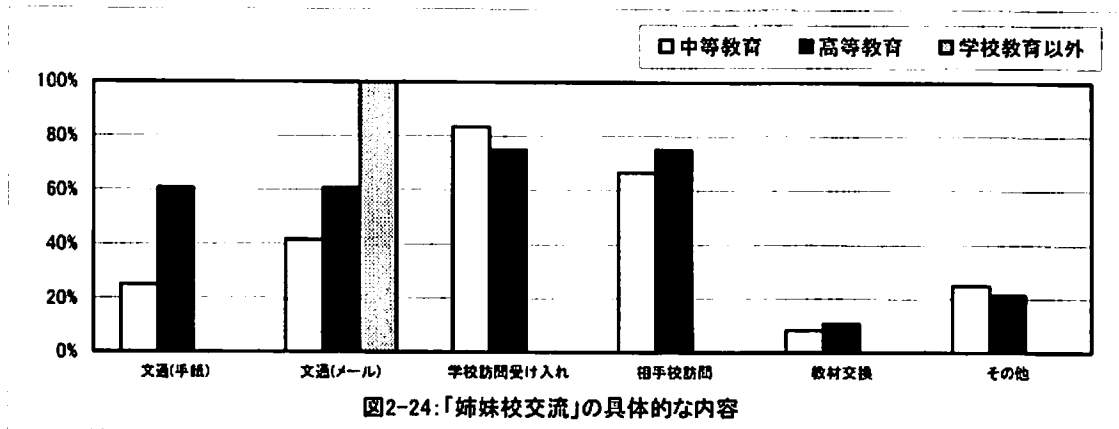


図2-23:「姉妹校交流」の有無(機関別)



2-4-6. その他

選択肢以外に実施している活動として、「朗読コンテスト」「日本語の歌を歌うコンテスト」「作文コンテスト」などが中等教育・高等教育では挙げられていた。また、高等教育の場合、中学校や高校での日本語授業の支援を行っているところがある。 (機関 F4-6)

第3章 集計結果：学 習 者

概要と要約

本章では、「学習者」の集計結果について報告する。本章の構成は7節からなるが、具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。各節の詳細については、3-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかがわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「学F1」は「学習者用調査票の項目番号F1」を示す。

本調査における学習者の所属別有効回答数とその内訳は表3-1のとおりである。分析対象は1-9、表1-5(p.5)に示したとおりである。

〈表3-1：回答者数・内訳〉（ ）内は%

	合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	3,447 (100)	926 (100)	2,075 (100)	446 (100)
〈内訳〉				
中 学 校	39 (1.1)	38 (4.1)	0 (0.0)	1 (0.2)
高 校	757 (22.0)	720 (77.8)	0 (0.0)	37 (8.3)
専科学校	641 (18.6)	166 (17.9)	411 (19.8)	64 (14.3)
二年制技術学院	268 (7.8)	0 (0.0)	247 (11.9)	21 (4.7)
四年制技術学院	196 (5.7)	0 (0.0)	192 (9.3)	4 (0.9)
大 学	1,219 (35.4)	0 (0.0)	1,120 (54.0)	99 (22.2)
大 学 院	103 (3.0)	0 (0.0)	70 (3.4)	33 (7.4)
そ の 他	146 (4.2)	1 (0.1)	11 (0.5)	134 (30.0)
無回答	78 (2.3)	1 (0.1)	24 (1.2)	53 (11.9)

なお、後期中等教育と高等教育にまたがる5年制の「専科学校」については、1～3年生は中等教育に、4,5年生は高等教育に含めた。

(要約)：3-1. 学習者について

- ・性別：女性 75.4% > 男性 23.2% ・母語：中国語 91.9%、台湾語 5.9%
- ・年齢：中等教育では10代 (89.7%)、高等教育・学校教育以外では20代 (74.6%・49.1%) が最も多い。
- ・学習開始時期：中等教育では高校 (70.8%)、高等教育では大学 (43.0%)、学校教育以外では「その他」 (43.4%) が最も多い。
- ・日本語学習場所：高等教育では所属先以外でも学習している人が11.8%。学校教育以外では大学でも学習している人が15.0%いる。
- ・訪日経験：学習者全体の33.6%は訪日経験がある。
- ・訪日目的：①「観光」(87.2%) が圧倒的に高く、②「親族訪問」(10.6%)、③「短期留学 (6ヶ月未満)」(9.4%) と続いている。
- ・日本語学習動機：所属に共通して、①「日本語に興味がある」、②「日本のものが好きだ」が多い。
- ・日本語力
読むこと：中等教育では、「ひらがなとカタカナが読める」(33.6%)、高等教育・学校教育以外では「簡単な文章ならだいたい理解できる」(40.1%・42.4%) が最も多い。
書くこと：中等教育では「ひらがなで知っている言葉が書ける」(58.1%)、高等教育・学校教育以外では「簡単な短い文を書くことができる」(35.8%・37.7%) が最も多い。
聞くこと：所属に共通して、「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(47.8%・42.5%・41.9%) が最も多い。
話すこと：所属に共通して「簡単な自己紹介ができる」(46.4%・37.3%・43.5%) が最も多い。

注：括弧内に、数値が3つ並ぶ場合、「中等教育」「高等教育」「学校教育以外」の数値が順に示してある。

(要約)：3-2. 日本語を使っのやりとりについて

- ・日本語を使っのやりとりの有無：
全体で1,560人 (45.3%) が「はい」、1,882人 (54.6%) が「いいえ」。所属別に見ると、中等教育よりも高等教育・学校教育以外で「はい」の割合が多い。
- ・やりとりの相手：①「学校の友人」(995人)、②「日本語の教師」(970人)、③「知り合い」(763人)
- ・やりとりの方法：
所属に共通して相手が「日本語の教師」の場合は、直接の「会話」によるやりとりが多いが、相手が「学校の友人」「知り合い」の場合は「電子メール」「チャット」など別の方法でのやりとりも見られる。
- ・最もよくやりとりをする相手：
所属に共通して、「日本語の教師」が最も多い。以下、「最もよくやりとりをする相手」について。
- ・やりとりをする相手の国籍：
中等教育では台湾人 (67.7%)、高等教育・学校教育以外では日本人 (49.5%・54.3%) が多い。
- ・やりとりをする相手の性別：全体で女性が58.3%。
- ・やりとりを始めた頃の日本語力：
中等教育・学校教育以外では「少しできた」(63.3%・51.0%) が、高等教育では「日常会話程度できた」(51.0%) が最も多い。
- ・やりとりをする頻度：所属に共通して「週に2,3回」(全体37.9%) が最も多い。
- ・やりとりをする手段：直接相手と「会って話す」(全体74.7%) が所属に共通して多い。
- ・やりとりをするときの日本語の割合：
「日本語と他の言語が半々」(全体43.8%) が共通して多い。高等教育・学校教育以外では「全部日本語」「主に日本語」も比較的多い。

・やりとりの内容：

「生活について」(64.0%)が圧倒的に多い。続く内容として、中等教育・学校教育以外が「日本語について」(41.4%・33.3%)、高等教育が「趣味について」(39.9%)。

・日本語でやりとりをする理由：

全体で「日本語能力向上や維持のため」「日本語を使うのは楽しいから」「日本語の母語話者と話したいから」が比較的高い。

・授業以外で日本語を使わない理由：

全体で「日本語を使う相手がいないから」(49.5%)、「自分の日本語力が充分ではないから」(33.2%)が多い。

(要約)：3-3. 日本語が使われているものとの接触について

・身の回りで日本語が使われているものの有無：「はい」2,867人(83.2%)、「いいえ」521人(15.1%)。

・日本語の授業以外での見聞きの有無：「はい」2,683人(93.6%)、「いいえ」184人(6.4%)。

・見聞きするもの：共通して、「テレビ番組」(82.3%・88.0%・86.5%)が最も多い。「CD」「マンガ・アニメ」が比較的多い。

・最もよく見聞きするもの：中等・高等教育では①「テレビ番組」、②「CD」、③「マンガ・アニメ」、学校教育以外は①「テレビ番組」、②「雑誌」/「CD」。以下、「最もよく見聞きするもの」について。

・見聞きする頻度：

中等教育では「週に2,3回」(38.6%)が多いが、高等教育・学校教育以外では「毎日」(37.6%・40.3%)見聞きする学習者が多い。

・見聞きするものの所有者：「自分」が67.2%で最も多い。

・見聞きするものの内容：全体として、「社会・生活」(44.1%)、「スポーツ・趣味」(32.1%)、「文化・芸術」(29.3%)が多く、これらは所属別で順位は異なるが、上位3位に挙がる。

・見聞きする理由：

共通して「楽しいから」の評価が高い。「日本語に触れたいから」「日本語能力の向上や維持のため」も評価が高く、所属による差はほとんどない。

・授業以外で日本語のものを見聞きしない理由：

「自分の日本語力が充分でないから」が45.1%で最も多い。

(要約)：3-4. 授業時間外の教科書等の使用について

・使用の有無：

「はい」2,471人(71.7%)、「いいえ」926人(26.9%)。所属別に見ると、学校教育以外(79.8%)、高等教育(72.2%)、中等教育(66.5%)の順で「はい」が多い。

・授業時間外の使用方法：①「語句の意味を調べる」(79.0%)、②「暗記、暗唱する」(57.4%)、③「漢字にふりがなをふる」(51.1%)。

・授業時間外に教科書などを使用しない理由：

全体で①「どうやって使ったらいいかわからないから」(44.7%)が最も多く、続いて②「授業以外の時間に日本語の勉強をしないから」(24.0%)。

(要約)：3-5. 利用経験のある機会や場所について

・利用経験の有無：

「はい」1,357人(39.4%)、「いいえ」2,029人(58.9%)。所属別では、中等・高等教育では「いいえ」

(65.6%・59.0%)が多く、学校教育以外では「はい」(53.6%)が多い。

・利用経験のある機会や場所（台湾において）：

全体では①「日本語のカラオケ」(48.0%)、②「日本・日本語に関するイベント」(36.8%)、③「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(22.2%)の順になっている。「日本語のカラオケ」は所属を通じて最も多い。所属別では、中等・高等教育では「日本・日本語に関するイベント」、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」が2番目に多い。

・利用経験のある機会や場所（日本において）：

①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(67.2%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(44.2%)、③「日本人との交流会」(27.7%)。

・再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無：「ある」85.8%、「ない」9.7%。

・再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所：

①「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(18.2%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(17.6%)、③「日本・日本語に関するイベント」(11.7%)。

〔要約〕：3－6. 日本語学習のために現在使っているものについて

・現在使っているもの：全体では①「学習参考書・問題集」(79.0%)が最も多い。続いて、②「日本語のテレビ番組」(71.1%)、③「日本語の歌」(69.1%)となっている。中等教育では、「日本語の歌」(77.4%)が最も多い。

・現在使っている学習参考書・問題集：①「文法」(64.0%)、②「語彙」(53.1%)、③「会話」(52.6%)。

〔要約〕：3－7. 今後の充実を希望するものについて

・充実を希望するもの：①「日本語のテレビ番組」(64.0%)、②「日本人との交流」(58.5%)、③「留学の機会」(54.9%)、④「学習参考書・問題集」(53.5%)、⑤「日本語の映画」(49.3%)。

・充実を希望する学習参考書・問題集：「会話」(57.7%)が多く、「文法」(57.6%)が続く。

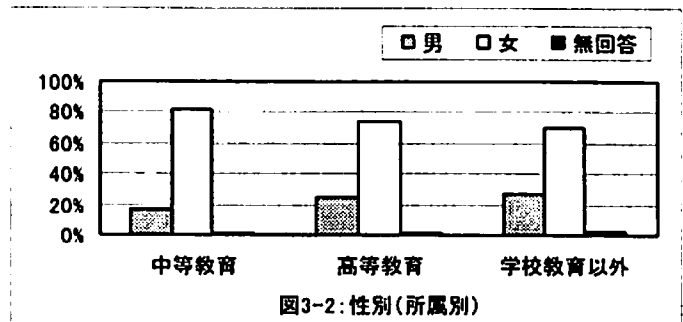
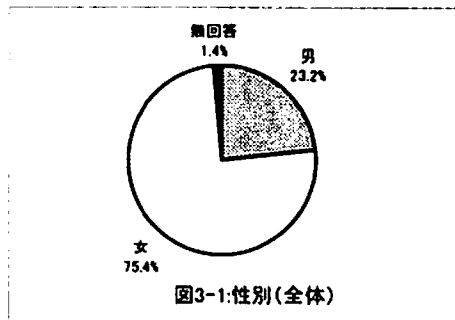
・充実を希望する辞書：所属の別なく、「日中辞典」の方が「中日辞典」よりも希望がわずかに多い。

3-1. 学習者について

ここでは、本調査に回答した学習者の性別、年齢、訪日経験とその目的、日本語学習動機、日本語力等の基礎的情報について尋ねた結果を報告する。

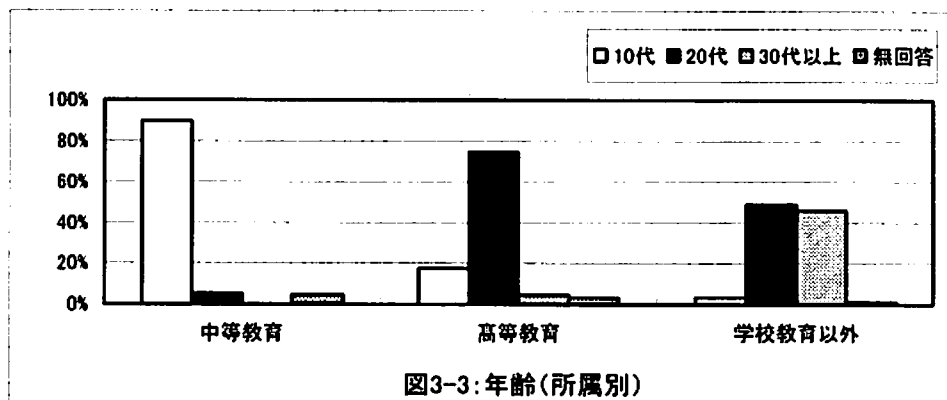
3-1-1. 性別

学習者全体の性別は、女性が75.4%、男性が23.2%で女性が多い(図3-1)。この傾向は、所属別でも変わらない(図3-2)。(学F1)



3-1-2. 年齢

学習者の年齢は、中等教育では10代が89.7%、高等教育では20代が74.6%と最も多い。学校教育以外では、20代が49.1%と最も多いが、30代以上が半数近くを占めている(図3-3)。(学F3)

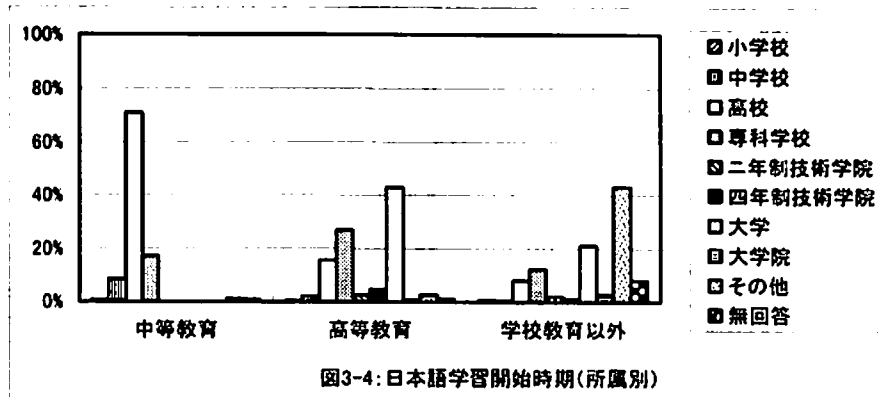


3-1-3. 母 語

調査対象となった学習者の母語は、中国語が 91.9%、台湾語が 5.9%であった。 (学 F4)

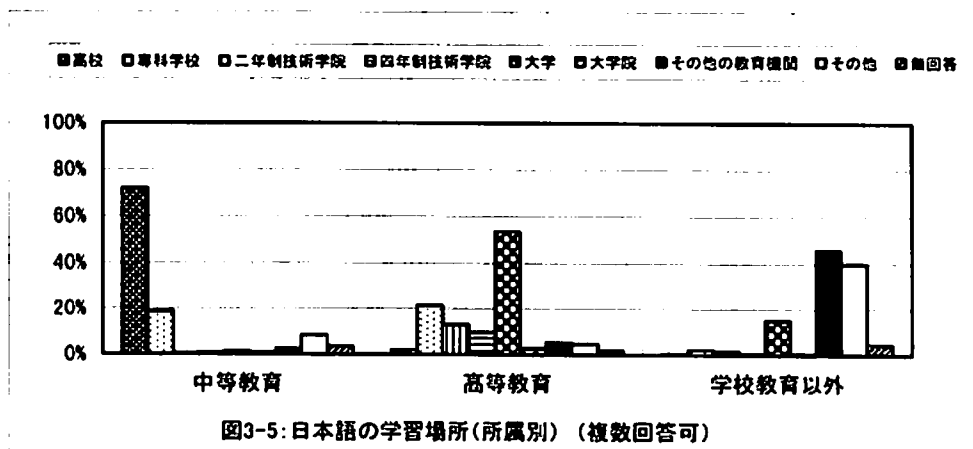
3-1-4. 日本語学習開始時期

中等教育では「高校から開始」が 70.8%、高等教育では「大学から開始」が 43.0%、学校教育以外では「その他」が 43.4%で最も高い (図 3-4)。また学校教育以外の「その他」としては「就職後」「卒業後」が多く挙げられた。なお、中等教育の「その他」には、「子供のころから (幼稚園)」という回答も見られた。 (学 F6)



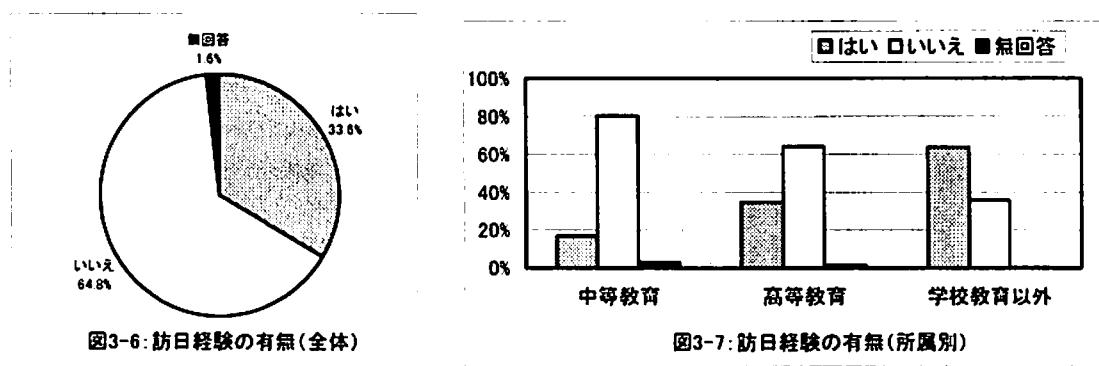
3-1-5. 日本語の学習場所

中等教育では「高校」が 72.0%、「専科学校」が 18.7%であり、所属先以外の場所でも学習する人は少ない。高等教育では所属先以外、つまり「高校」、「その他の教育機関」等で学習している人が 11.8%いることがわかった。学校教育以外では各自の所属する学校教育以外の機関とは別に「大学」でも学習する人が 15.0%いる (図 3-5)。 (学 F7)



3-1-6. 訪日経験

学習者全体の33.6%は訪日経験がある(図3-6)。所属別に見ると、中等教育では訪日経験がある学習者は16.7%にすぎないが、高等教育では34.7%、学校教育以外では63.9%となっている。(学F8)



3-1-7. 訪日目的

訪日の目的は、表3-2のとおりである。全体では、①「観光」(87.2%)が圧倒的に高く、②「親族訪問」(10.6%)③「短期留学(6ヶ月未満)」(9.4%)が続いている。所属別では、学校教育以外で「企業研修」(6.3%)が3位に入っている。「その他」の内容としては、高等教育では「買い物」「遊学」、学校教育以外では「展示会を見に」「遊びに」という回答が複数見られた。

(学F8)

〈表3-2: 訪日目的〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	観 光 (87.2)	観 光 (91.6)	観 光 (86.1)	観 光 (87.7)
2位	親族訪問 (10.6)	親族訪問 (13.5)	短期留学 (6ヶ月未満)(12.7)	親族訪問 (10.9)
3位	短期留学 (6ヶ月未満)(9.4)	国際交流 (9.0)	親族訪問 (9.9)	企業研修 (6.3)

(複数回答可)

3-1-8. 日本語学習動機

日本語学習を始めた理由や動機については、各項目について1位を3点、2位を2点、3位を1点として合計得点を順位付けしたところ、表3-3のようになった。所属別を見ても、全てを通じて「日本語に興味がある」が最も多かった。

「その他」としては、中等教育で「好きな芸能人がいる」、高等教育で「受験の結果、入試の成績で」などが挙げられていた。少数ではあるが、高等教育・学校教育以外で「家族や周りの影響」が挙げられている。

(学 F9)

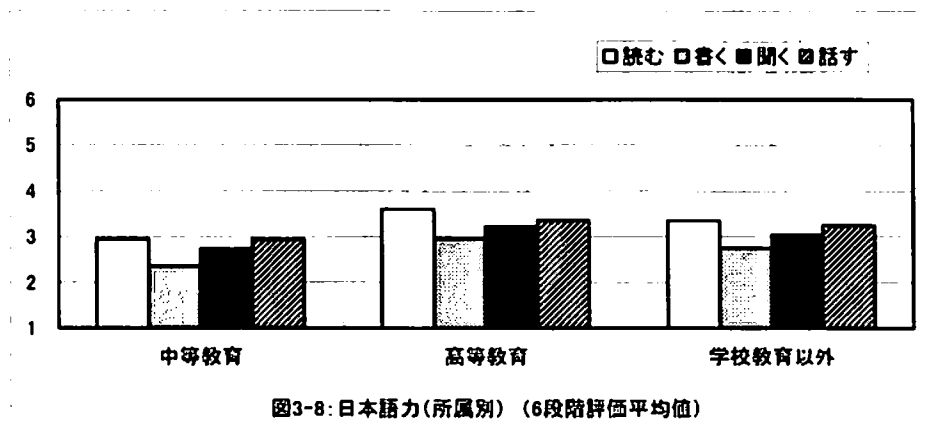
〈表 3-3：日本語学習動機〉()内は合計得点

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語に興味がある (3,023)	日本語に興味がある (850)	日本語に興味がある (1,806)	日本語に興味がある (367)
2位	日本のものが好きだ (2,551)	日本のものが好きだ (717)	日本のものが好きだ (1,592)	日本のものが好きだ (242)
3位	日本に行きたい (1,737)	日本に行きたい (690)	学校の授業にある (1,044)	日本に行きたい (216)
4位	学校の授業にある (1,675)	学校の授業にある (588)	日本語に興味がある (983)	就職に有利だ (186)
5位	日本語に興味がある (1,672)	日本語に興味がある (506)	就職に有利だ (919)	日本語に興味がある (183)

(複数回答可)

3-1-9. 日本語力

現在、どれくらい日本語力があると思うか、4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)について6段階で自己評価してもらった。技能別全体の結果は図 3-8 のとおりである。数値の意味は各技能で異なるが、数値が高いほど、自己評価が高いことを示す(図 3-9~3-12 参照)。(学 F10)



〈表 3-4：日本語力〉

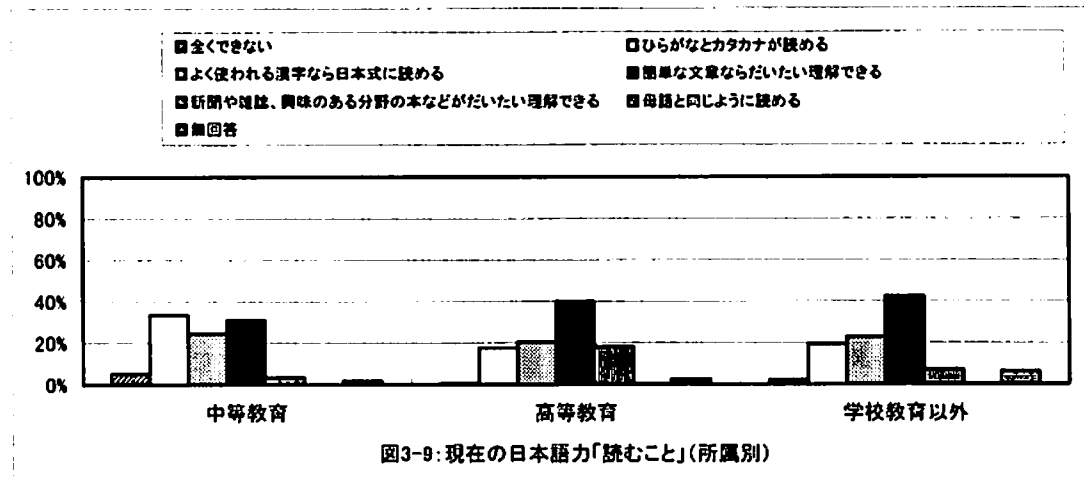
4技能	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
読 む	3.4	2.9	3.6	3.4
書 く	2.8	2.4	3.0	2.7
聞 く	3.1	2.7	3.2	3.0
話 す	3.2	2.9	3.4	3.3

(6段階評価平均値)

技能別の結果は以下のとおりである。

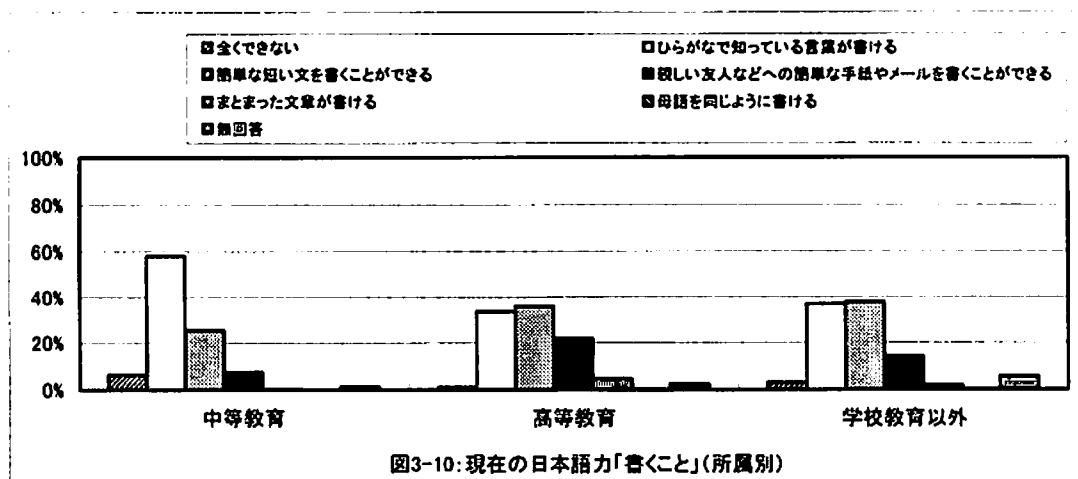
(1) 「読むこと」

中等教育では、「ひらがなとカタカナが読める」(33.6%)、「簡単な文章ならだいたい理解できる」(31.1%)が多い。高等教育・学校教育以外では「簡単な文章ならだいたい理解できる」がそれぞれ40.1%、42.4%と最も多い(図3-9)。 (学F10-1)



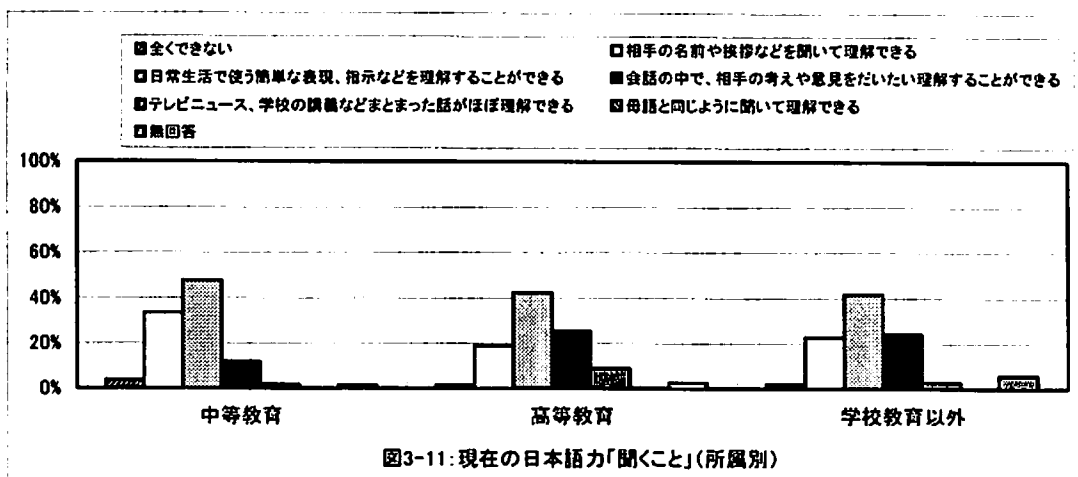
(2) 「書くこと」

中等教育では、「ひらがなで知っている言葉が書ける」(58.1%)、「簡単な短い文を書くことができる」(25.7%)の順に多い。高等教育・学校教育以外では、「簡単な短い文を書くことができる」(35.8%・37.7%)「ひらがなで知っている言葉が書ける」(33.5%・37.0%)の順に多い(図3-10)。 (学F10-2)



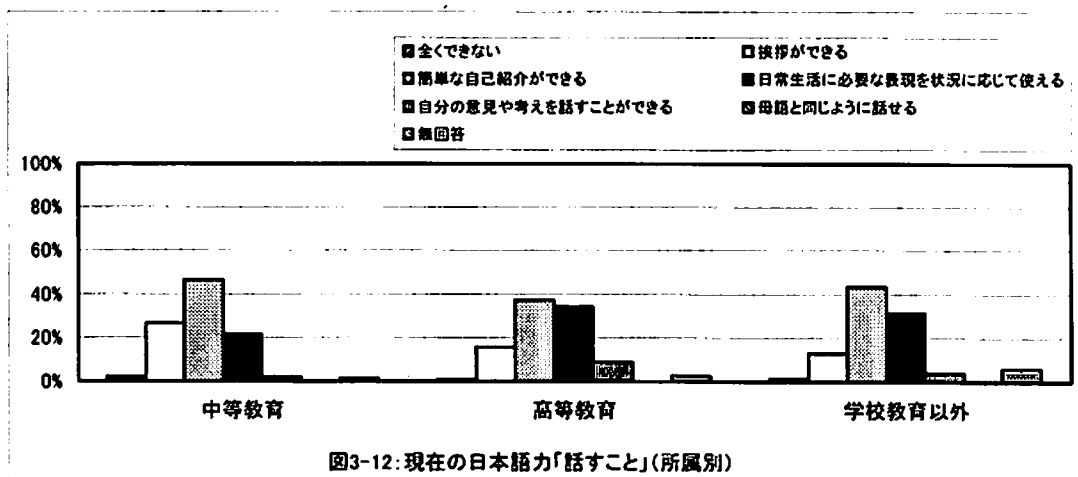
(3) 「聞くこと」

中等教育では、「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(47.8%)「相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる」(33.5%)の順に多い。高等教育・学校教育以外では、「日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる」(42.5%・41.9%)「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」(25.5%・24.4%)の順に多い(図3-11)。(学F10-3)



(4) 「話すこと」

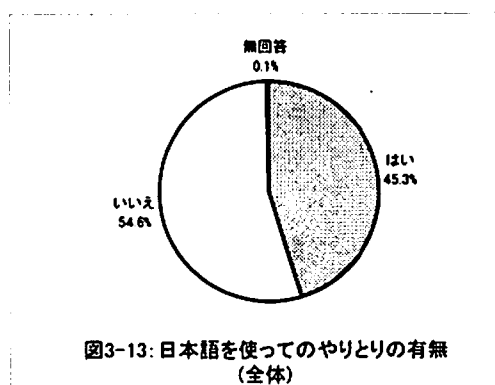
所属に関わらず、「簡単な自己紹介ができる」が最も多い(46.4%・37.3%・43.5%)。続くレベルとしては、中等教育では「挨拶ができる」(26.6%)、高等教育・学校教育以外では、「日常生活に必要な表現を状況に応じて使える」(34.5%・31.6%)となっている(図3-12)。(学F10-4)



3-2. 日本語を使つてのやりとりについて

ここでは、日本語の授業以外で学習者が実際に日本語を使つてどのようなやりとりをするのか、やりとりの有無、相手、頻度、手段、内容、理由等について尋ねた結果をまとめる。

3-2-1. 日本語を使つてのやりとりの有無



日本語の授業以外における日本語でのやりとりの有無については、全体で 1,560 人 (45.3%) が「はい」、1,882 人 (54.6%) が「いいえ」と答え、やりとりがない学習者の方が多い (図 3-13)。

所属別に見ても、やりとりをしていない学習者の方がやりとりをしている学習者より多い。中等教育では、やりとりをしている学習者は 39.4% と、4 割に満たないが、高等教育・学校教育以外では 47.5%・47.1% と、約半数に近い。

<学 Q1>

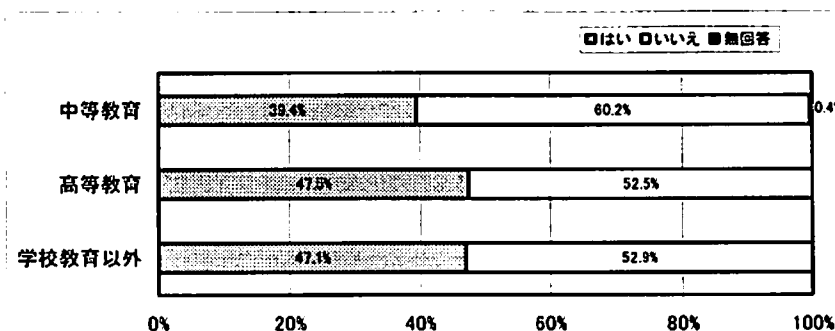


図3-14: 日本語を使つてのやりとりの有無 (所属別)

<表 3-5: 日本語を使つてのやりとりの有無 () 内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	1,560 (45.3)	365 (39.4)	985 (47.5)	210 (47.1)
	いいえ	1,882 (54.6)	557 (60.2)	1,089 (52.5)	236 (52.9)
	無回答	5 (0.1)	4 (0.4)	1 (0.0)	0 (0.0)

3-2-2. やりとりの相手とその方法

3-2-1でやりとりをしていると回答した学習者に対して、やりとりの相手について尋ねたところ、表3-6のようになった。上位に挙げられているのは、「学校の友人」「日本語の教師」「知り合い」「塾や語学学校等のクラスメート」であり、日本語を学習する場に関係する人とのやりとりが多いことがうかがえる。

〈学 Q1-1〉

〈表 3-6：やりとりの相手〉（ ）内は回答数

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	学校の友人 (995)	学校の友人 (252)	学校の友人 (676)	日本語の教師 (121)
2位	日本語の教師 (970)	日本語の教師 (227)	日本語の教師 (622)	塾や語学学校等の クラスメート (91)
3位	知り合い (763)	知り合い (199)	知り合い (485)	知り合い (79)

(複数回答可)

やりとりの方法としては、表3-6で示した、やりとりの多い相手上位3位(全体)における、やりとりの手段を図3-15、3-16、3-17にまとめる。所属に共通して相手が「日本語の教師」の場合は、直接の「会話」によるやりとりが多いが、相手が「学校の友人」「知り合い」の場合は「電子メール」「チャット」など、別の方法も用いていることがわかる。中でも、高等教育の場合、「チャット」を通信手段として用いる人が「電子メール」を上回っているのが目立つ(図3-15~3-17)。

〈学 Q1-1〉

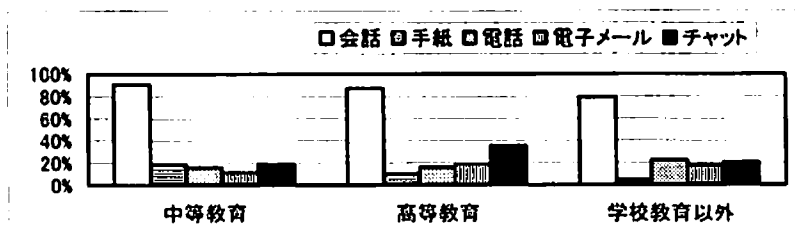


図3-15: やりとりの相手「学校の友人」(所属別)

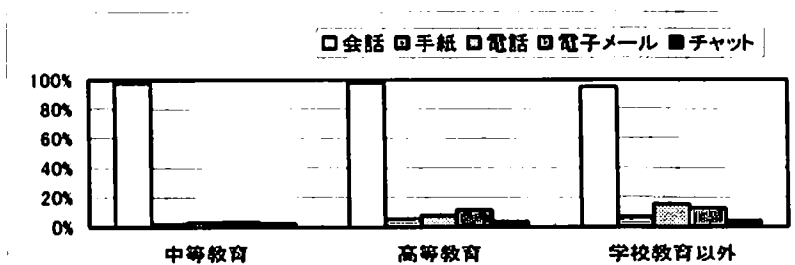


図3-16: やりとりの相手「日本語の教師」(所属別)

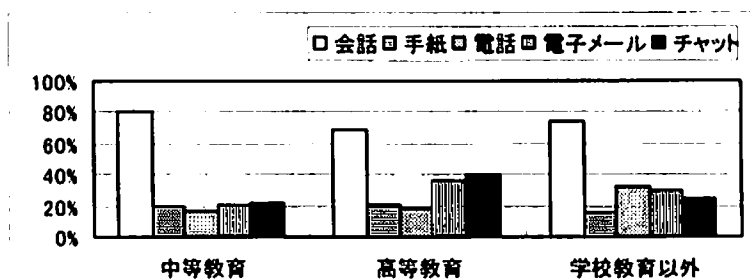


図3-17: やりとりの相手「知り合い」(所属別)

3-2-3. 最もよくやりとりをする相手

3-2-2の日本語でやりとりをする相手の中で、最もよくやりとりをする相手について尋ねたところ、表 3-7 のようになった。全体では①「日本語の教師」(33.3%)、②「学校の友人」(25.2%)、③「知り合い」(13.5%)の順で、3-2-2と比べると、1位と2位が入れ替わっている。

所属別に見ると、所属にかかわらず「日本語の教師」が最も多い。それに続くのは、中等教育・高等教育の場合、「学校の友人」「知り合い」だが、学校教育以外では「塾や語学学校のクラスメート」「知り合い」となっている。

(学 Q1-2)

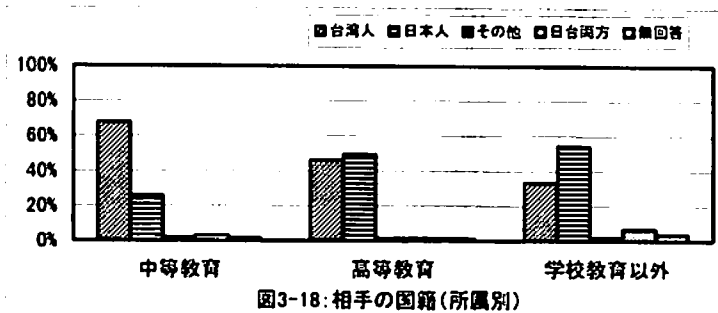
〈表 3-7: 最もよくやりとりをする相手〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語の教師 (33.3)	日本語の教師 (35.1)	日本語の教師 (33.6)	日本語の教師 (29.0)
2位	学校の友人 (25.2)	学校の友人 (28.5)	学校の友人 (27.9)	塾や語学学校のクラ
3位	知り合い (13.5)	知り合い (13.2)	知り合い (14.5)	スメート/知り合い (9.5)

以下、3-2-11まで、この最もやりとりをする相手を対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよくやりとりする相手ごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して、別途詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

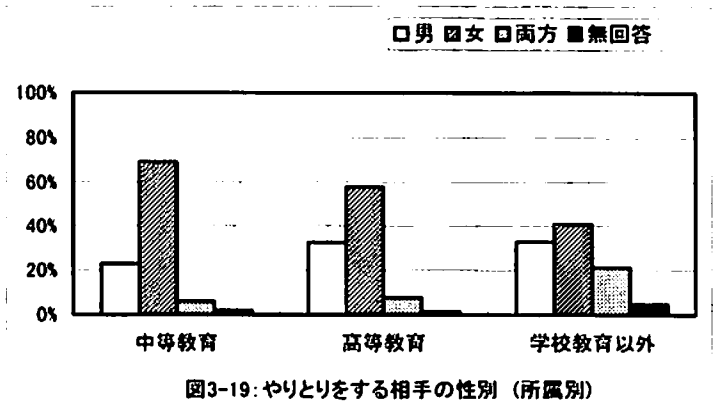
3-2-4. やりとりをする相手の国籍（最もよくやりとりをする相手）



やりとりをする相手の国籍は、中等教育では「台湾人」(67.7%)、高等教育・学校教育以外では「日本人」(49.5%・54.3%)が多い(図3-18)。

〈学 Q1-2〉

3-2-5. やりとりをする相手の性別（最もよくやりとりをする相手）



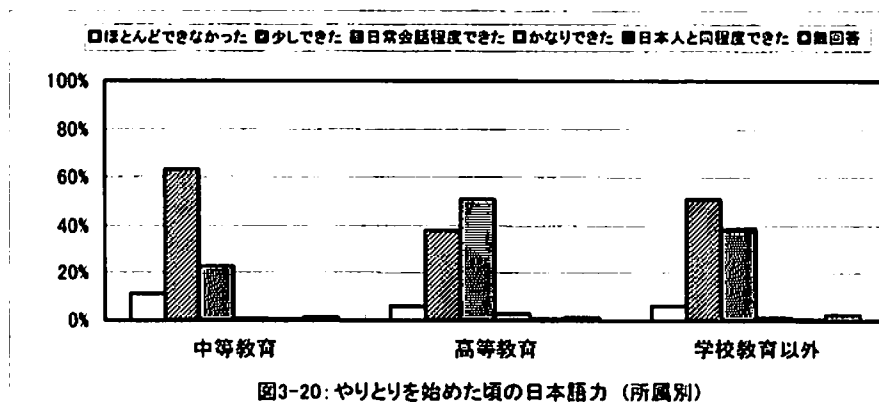
やりとりをする相手の性別は、全体的に「女性」が多い(図3-19)。

〈学 Q1-2〉

3-2-6. やりとりを始めた頃の日本語力（最もよくやりとりをする相手）

やりとりをするようになった頃の日本語力について自己評価してもらったところ、中等教育・学校教育以外では「少しできた」が63.3%・51.0%と最も多いが、高等教育では、「日常会話程度できた」が最も多く、51.0%を占めている(図3-20)。

〈学 Q1-2〉



3-2-7. やりとりをする頻度（最もよくやりとりをする相手）

日本語でやりとりをする頻度は、所属に共通して「週 2,3 回」(37.9%) が最も多く、「週 1 回」(22.2%) が続いている (図 3-21)。

〈学 Q1-2〉

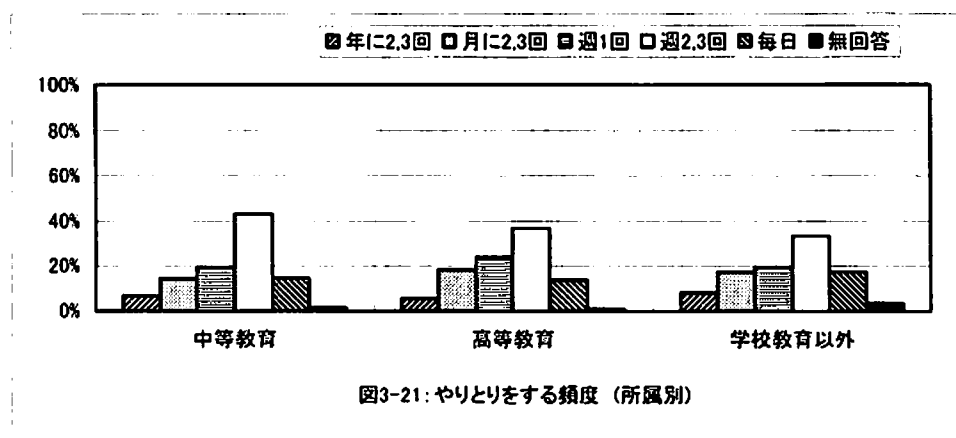


図3-21: やりとりをする頻度 (所属別)

3-2-8. やりとりをする手段（最もよくやりとりをする相手）

やりとりをするときの手段は、直接相手と「会って話す」学習者が全体で 74.7% で、所属に共通して最も多い (図 3-22)。中等教育・高等教育では、「会って話す」について「チャット」が多い (14.5%・19.3%)。

〈学 Q1-2〉

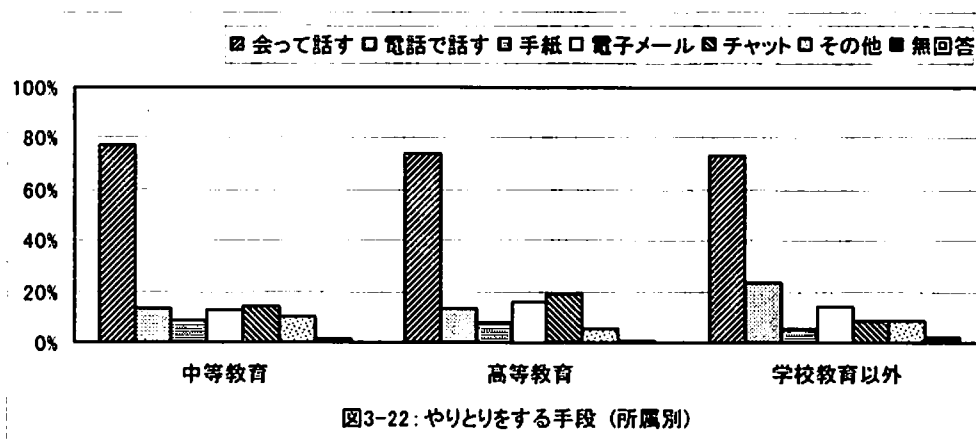
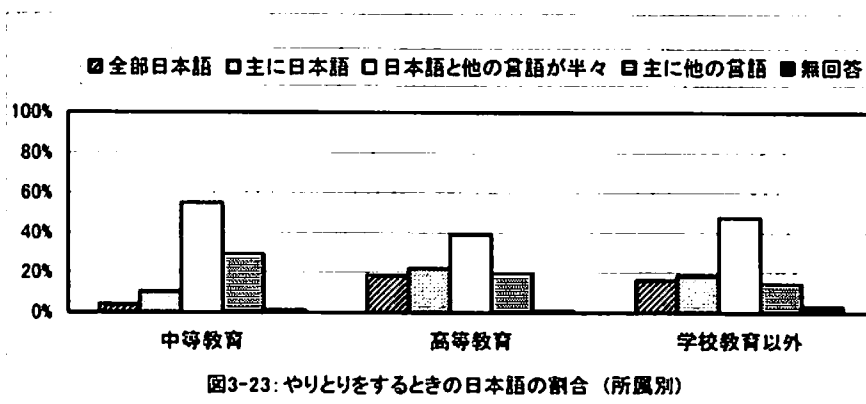


図3-22: やりとりをする手段 (所属別)

3-2-9. やりとりをするときの日本語の割合（最もよくやりとりをする相手）

やりとりをするときに日本語を使用する割合はどのぐらいか尋ねたところ、「日本語と他の言語が半々」という学習者が全体で43.8%で所属に共通して最も多いが、高等教育では、「全部日本語」「主に日本語」の割合も高い（図3-23）。〈学 Q1-2〉



3-2-10. やりとりの内容（最もよくやりとりをする相手）

やりとりの内容については、所属に共通して「生活について」（全体 64.0%）が最も多い（表3-8）。続く内容としては、中等教育・高等教育では「日本語について」（41.4%・38.9%）、「趣味について」（41.1%・39.9%）が多く、学校教育以外では、「日本語について」（33.3%）、「仕事について」（31.9%）が続く。〈学 Q1-2〉

〈表3-8：やりとりの内容〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	生 活 (64.0)	生 活 (59.5)	生 活 (66.1)	生 活 (62.4)
2位	日 本 語 (38.7)	日 本 語 (41.4)	趣 味 (39.9)	日 本 語 (33.3)
3位	趣 味 (38.4)	趣 味 (41.1)	日 本 語 (38.9)	仕 事 (31.9)

（複数回答可）

割合は低いですが、「その他」の内容としては、「挨拶」「授業について」「ゲーム」「ドラマ」などが挙げられていた。

3-2-11. 日本語でやりとりをする理由（最もよくやりとりをする相手）

日本語でやりとりをする理由について各項目について5段階（「5. 全くそう思う」－「1. 全くそう思わない」、以下同様）で尋ねたところ、図3-24のように全体的に「日本語能力向上や維持のため」「日本語を使うのは楽しいから」「日本語の母語話者と話したいから」が高い。所属別でも、いずれも「日本語能力向上や維持のため」がもっとも高く、ついで「日本語を使うのは楽しいから」が高い。〈学 Q1-2〉

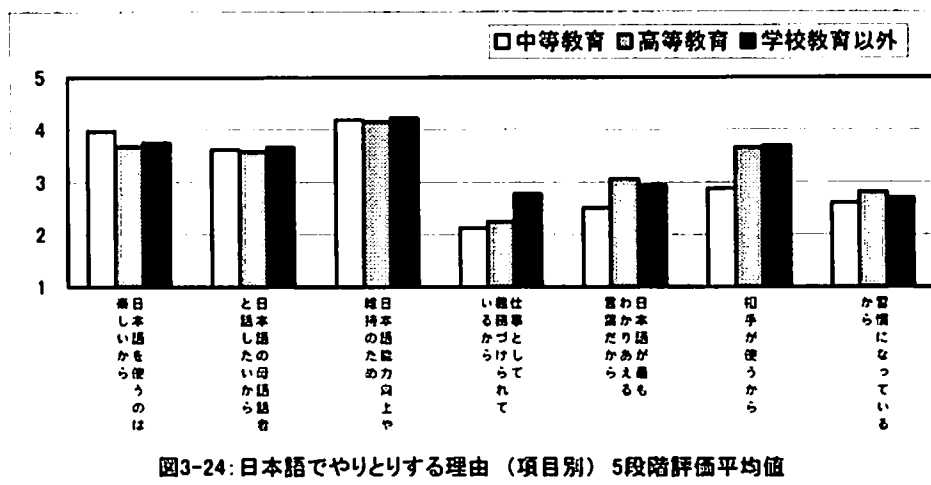


図3-24: 日本語でやりとりする理由 (項目別) 5段階評価平均値

〈表 3-9: 日本語でやりとりをする理由〉

	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語を使うのは楽しいから	3.76	3.96	3.68	3.76
日本語の母語話者と話したいから	3.60	3.63	3.58	3.67
日本語能力向上や維持のため	4.17	4.19	4.15	4.22
仕事として義務付けられているから	2.28	2.12	2.24	2.77
日本語が最もわかりあえる言葉だから	2.91	2.50	3.06	2.93
相手が使うから	3.48	2.87	3.66	3.69
習慣になっているから	2.74	2.60	2.80	2.70

(5段階評価平均値)

3-2-12. 授業以外で日本語を使わない理由

3-2-1 (p.30 参照) で見たように、全体で見ると日本語の授業以外で日本語でのやりとりをしない学習者が 54.6%で、やりとりをする学習者 (45.3%) よりも多かった。では、なぜ授業以外で日本語を使わないのか、やりとりをしていない学習者にその理由を尋ねたところ、全体では「日本語を使う相手がないから」(49.5%)、「自分の日本語力が充分ではないから」(33.2%) の 2つの理由が多かった。

所属別では、中等教育で「自分の日本語力が充分ではないから」が 42.9%と最も多いが、高等教育・学校教育以外では「日本語を使う相手がないから」が 50.7%・71.2%と最も多い (図 3-25)。 (学 Q1-3)

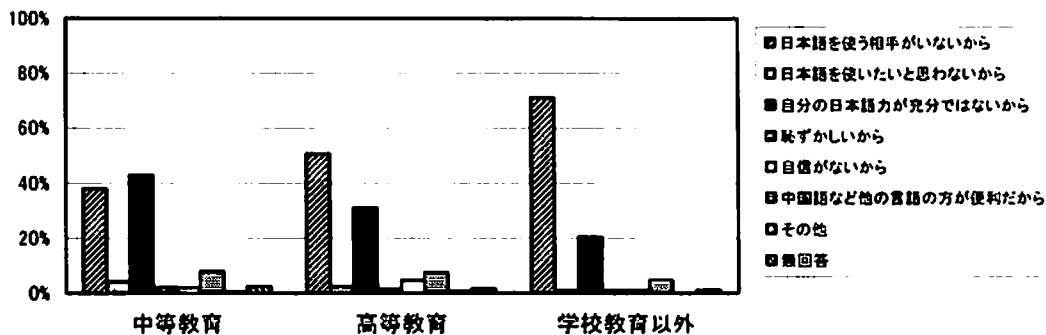


図3-25: 授業以外で日本語を使わない理由(所属別)

3-3. 日本語が使われているものとの接触について

ここでは、日本語の授業以外で学習者が日本語で書かれたものや日本語が使われているものの中で、どのようなものをどのように見たり聞いたりしているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

3-3-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無

まず、学習者の身の回りに、日本語で書かれたものや日本語が使われているものがあるかどうかを尋ねたところ、表 3-10 のように 2,867 人 (83.2%) の学習者が「はい」と答えている。一方、「いいえ」と答えている学習者は 521 人 (15.1%) であった。 (学 Q2)

〈表 3-10: 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無〉 () 内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	2,867 (83.2)	738 (79.7)	1,743 (84.0)	386 (86.5)
	いいえ	521 (15.1)	168 (18.1)	301 (14.5)	52 (11.7)
	無回答	59 (1.7)	20 (2.2)	31 (1.5)	8 (1.8)

3-3-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無

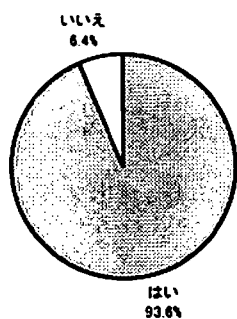


図3-26: 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無 (全体)

3-3-1 で「はい」と答えた学習者に、特に日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりすることがあるかについて尋ねたところ、2,683 人 (93.6%) の学習者が「はい」と答え、「いいえ」と答えた人は 184 人 (6.4%) であった (図 3-26)。所属による違いはあまり見られない (表 3-11)。 (学 Q2-1)

〈表 3-11：日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無〉（ ）内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	2,683 (93.6)	684 (92.7)	1,637 (93.9)	362 (93.8)
	いいえ	184 (6.4)	54 (7.3)	106 (6.1)	24 (6.2)

3-3-3. 見聞きするもの

どのようなものを見聞きするのか尋ねたところ、表 3-12 のようになった。所属を通じて、テレビ番組が最も多い。CD も所属に共通して多い。中等教育・高等教育では、「マンガ・アニメ」が第三位となっているが、学校教育以外では、②「雑誌」(55.8%)、③「CD」(44.8%)となっている。(図 3-27)。

(学 Q2-2)

〈表 3-12：見聞きするもの〉（ ）内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	テレビ番組 (86.3)	テレビ番組 (82.3)	テレビ番組 (88.0)	テレビ番組 (86.5)
2位	CD (61.6)	CD (67.7)	CD (62.7)	雑誌 (55.8)
3位	マンガ・アニメ (59.4)	マンガ・アニメ (66.7)	マンガ・アニメ (61.8)	CD (44.8)

(複数回答可)

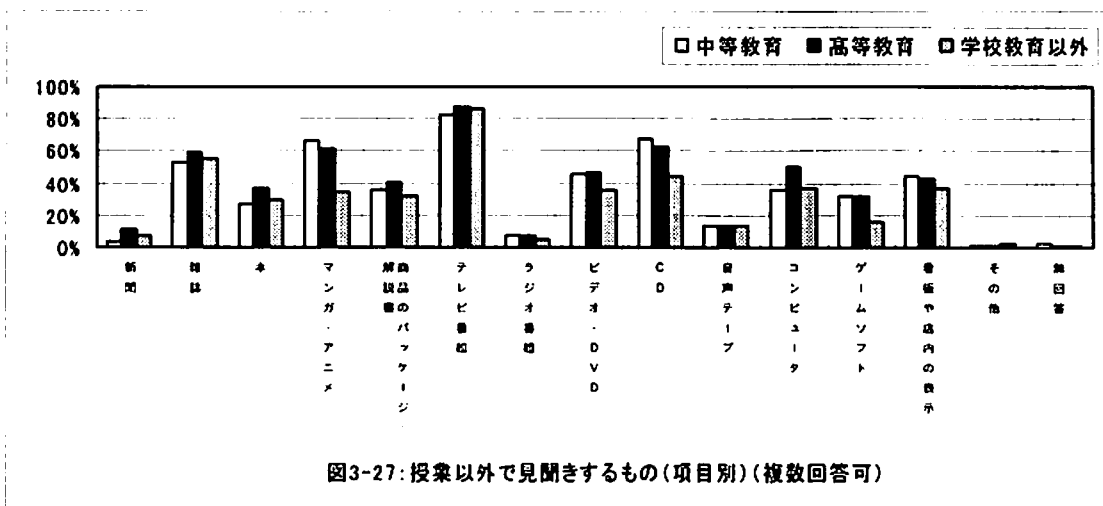


図3-27: 授業以外で見聞きするもの(項目別)(複数回答可)

「その他」としては、数は少ないが、「電子辞書」「歌」「映画」「ダイレクトメール」「服」「レストランのメニュー」などが挙げられた。

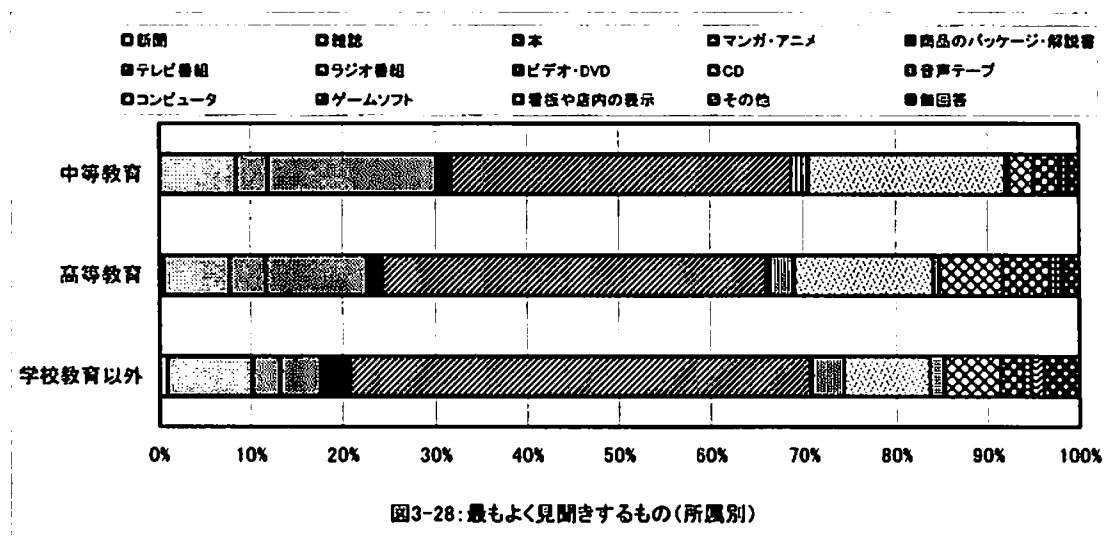
3-3-4. 最もよく見聞きするもの

3-3-3の見聞きするものの中でも、特に最もよく見聞きするものについては、表3-13のとおりである。全体では①「テレビ番組」(41.6%)、②「CD」(16.0%)、③「マンガ・アニメ」(12.0%)の順になっている。〈学Q2-3〉

〈表3-13：最もよく見聞きするもの〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	テレビ番組 (41.6)	テレビ番組 (37.0)	テレビ番組 (41.7)	テレビ番組 (50.0)
2位	CD (16.0)	CD (21.3)	CD (15.2)	雑誌/CD (9.4)
3位	マンガ・アニメ (12.0)	マンガ・アニメ (18.4)	マンガ・アニメ (10.9)	

所属別では、図3-28のように中等教育・高等教育は共通して①「テレビ番組」、②「CD」、③「マンガ・アニメ」の順で、学校教育以外では①「テレビ番組」、②「雑誌」「CD」の順になっている。

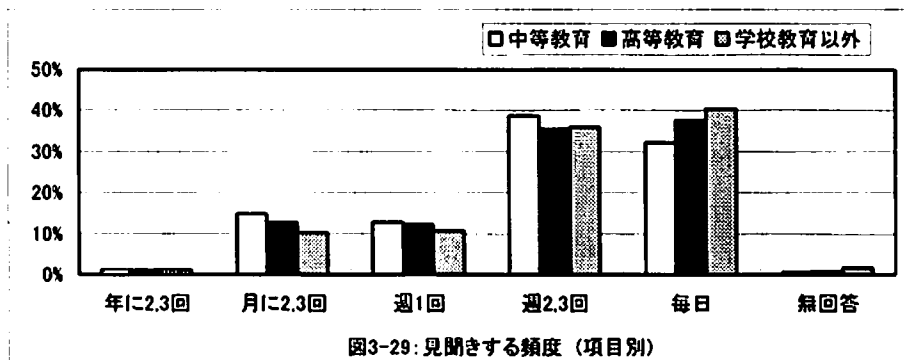


以下、3-3-8まで、この最もよく見聞きするものを対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよく見聞きするものごとの集計結果については、他の項目との関係性を考慮して、別途詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

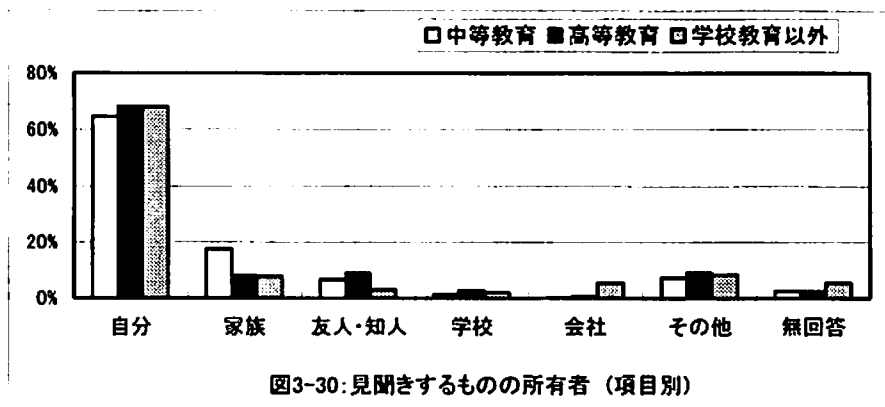
3-3-5. 見聞きする頻度 (最もよく見聞きするもの)

日本語のものを見聞きする頻度は、中等教育では「週に2,3回」(38.6%)、高等教育・学校教育以外では「毎日」(37.6%・40.3%)が最も多い(図3-29)。 〈学Q2-3〉



3-3-6. 見聞きするものの所有者 (最もよく見聞きするもの)

見聞きするものの所有者は、「自分」が全体で67.2%となり、かなりの割合を占めている。「その他」としては、「テレビ局」「インターネット」「レンタル店」などが挙げられている。 (学 Q2-3)



3-3-7. 見聞きするものの内容 (最もよく見聞きするもの)

見聞きするものの内容については、全体では、「社会・生活」(44.1%)、「スポーツ・趣味」(32.1%)、「文化・芸術」(29.3%)の順で多く、所属別に見ても、この3種は上位3位までに挙がっている。しかし、その順位は異なり、「社会・生活」は高等教育・学校教育以外では半数に近い割合を占めているが(47.9%・48.9%)が、中等教育においては3割程度にとどまっている(表3-14)。「その他」としては、「音楽」「ドラマ」「歌」等、内容的に「文化・芸術」に含まれると思われるものが挙げられた。

(学 Q2-3)

〈表 3-14: 見聞きするものの内容〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	社会・生活 (44.1)	スポーツ・趣味 (33.1)	社会・生活 (47.9)	社会・生活 (48.9)
2位	スポーツ・趣味 (32.1)	文化・芸術 (32.6)	スポーツ・趣味 (33.7)	文化・芸術 (23.8)
3位	文化・芸術 (29.3)	社会・生活 (32.5)	文化・芸術 (29.1)	スポーツ・趣味 (22.4)

(複数回答可)



図3-31: 見聞きするものの内容 (項目別)

3-3-8. 見聞きする理由 (最もよく見聞きするもの)

日本語のものを見たり聞いたりする理由をいくつか挙げ、それぞれについて5段階で尋ねたところ、図3-32・表3-15のように共通して「楽しいから」の評価が高い。ついで、「日本語に触れたいから」も共通して評価が高い。「日本語能力の向上や維持のため」は、いずれの所属においても、3番目に評価が高い。「その他」としては、共通して「(歌やアイドルなどが)好きだから」が挙げられ、中等教育・高等教育では、「(音楽が)とてもいいから」「興味があるから」なども挙げられている。また、高等教育では、少数ではあるが、「習慣になっている」「情報源を増やすため」なども記されている。(学Q2-3)

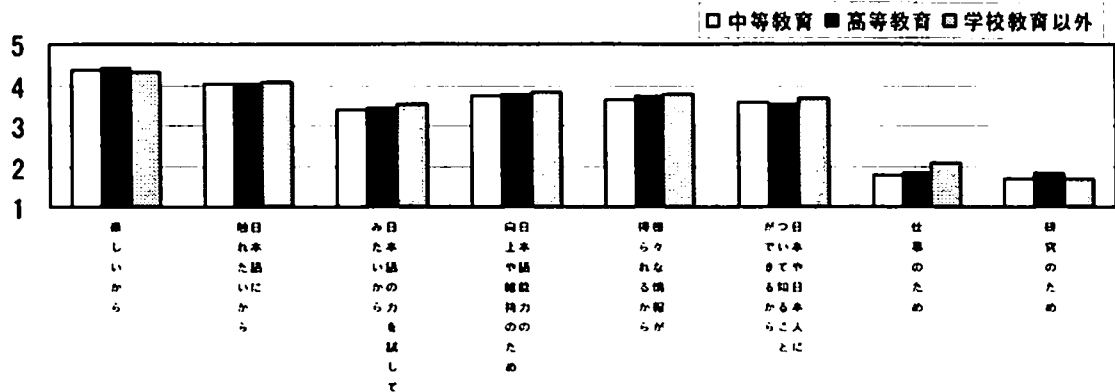


図3-32: 見聞きする理由(項目別) (5段階評価平均値)

〈表 3-15: 見聞きする理由〉

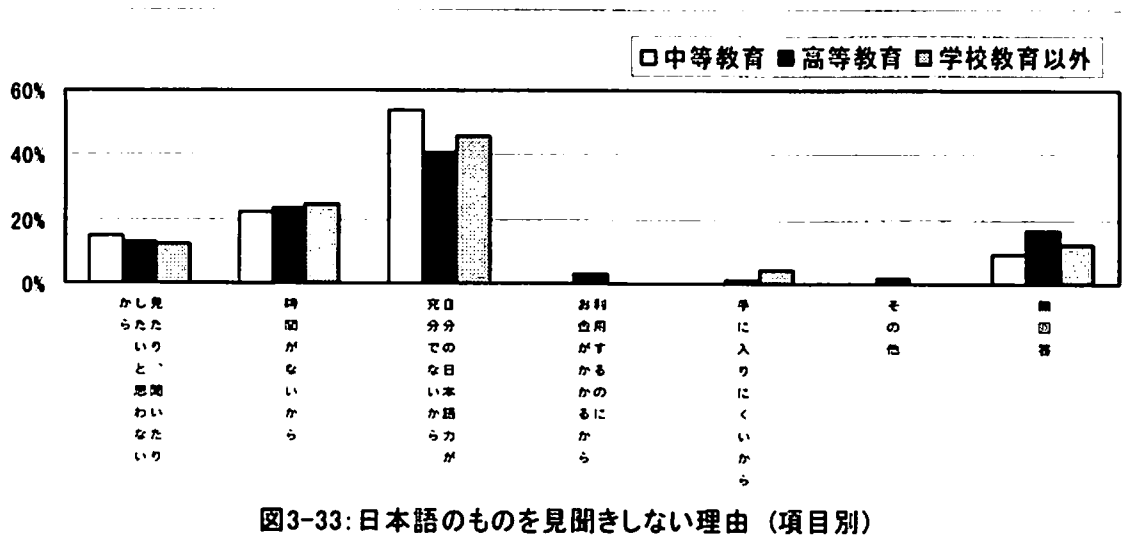
	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
楽しいから	4.4	4.4	4.4	4.3
日本語に触れたいから	4.0	4.0	4.0	4.0
日本語の力を試してみたいから	3.1	3.4	3.4	3.5
日本語能力の向上や維持のため	3.8	3.7	3.8	3.8
様々な情報が得られるから	3.7	3.6	3.7	3.8
日本や日本人について知ることができるから	3.6	3.6	3.6	3.7
仕事のため	1.9	1.8	1.9	2.1
研究のため	1.8	1.7	1.8	1.7

(5段階評価平均値)

3-3-9. 授業以外で日本語のものを見聞きしない理由

3-3-2 (p.37 参照) で見たように、全体で見ると日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりしない学習者は184人(6.4%)であった。なぜ授業以外で日本語のものを見聞きしないのかその理由を尋ねたところ、「自分の日本語力が充分でないから」が全体では45.1%と半数近くを占め、所属を通じて最も多く選ばれている(図3-33)。「時間がないから」「見たり、聞いたりしたいと思わないから」がそれに続く。

(学Q2-4)



3-4. 授業時間外の教科書等の使用について

ここでは、学習者が現在使っている日本語の教科書や授業で教師から渡されるものを授業以外の時間にもどのように利用しているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

3-4-1. 使用の有無

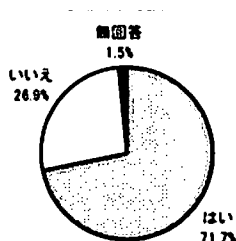


図3-34. 教科書・学習資料の使用の有無 (全体)

まず、学習者が現在使っている日本語の教科書や授業で教師から渡されるものを授業以外の時間にも何らかの形で利用しているかどうかについて尋ねたところ、図3-34のように全体では2,471人(71.7%)の学習者が「はい」と答え、「いいえ」と答えた学習者は926人(26.9%)であった。所属別に見ると、学校教育以外が「はい」と答えている人が最も多く(72.2%)、高等教育・中等教育の順で、使用者の割合が減っている。 (学Q3)

〈表3-16：使用の有無〉()内は%

		合 計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	2,471 (71.7)	619 (66.5)	1,499 (72.2)	356 (79.8)
	いいえ	926 (26.9)	293 (31.6)	551 (26.6)	82 (18.4)
	無回答	50 (1.5)	17 (1.8)	25 (1.2)	8 (1.8)

3-4-2. 授業時間外の利用方法

3-4-1で利用していると答えた2,471人に対して、具体的にどのように利用しているのか、その方法について尋ねたところ、表3-17のようになった。全体では①「語句の意味を調べる」(79.0%)、②「暗記・暗唱する」(57.4%)、③「漢字にふりがなをふる」(51.1%)が多い。所属別では、中等教育では「母語に訳す」(57.8%)が2位に、学校教育以外では「練習問題を解く」が3位に入っている(図3-35)。

(学Q3-1)

〈表3-17：授業時間外の利用方法〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	語句の意味を調べる (79.0)	語句の意味を調べる (75.8)	語句の意味を調べる (82.0)	語句の意味を調べる (71.9)
2位	暗記・暗唱する (57.4)	母語に訳す (57.8)	暗記・暗唱する (59.3)	暗記・暗唱する (59.8)
3位	漢字にふりがなをふる (51.1)	漢字にふりがなをふる (54.7)	漢字にふりがなをふる (54.8)	練習問題を解く (53.9)

(複数回答可)

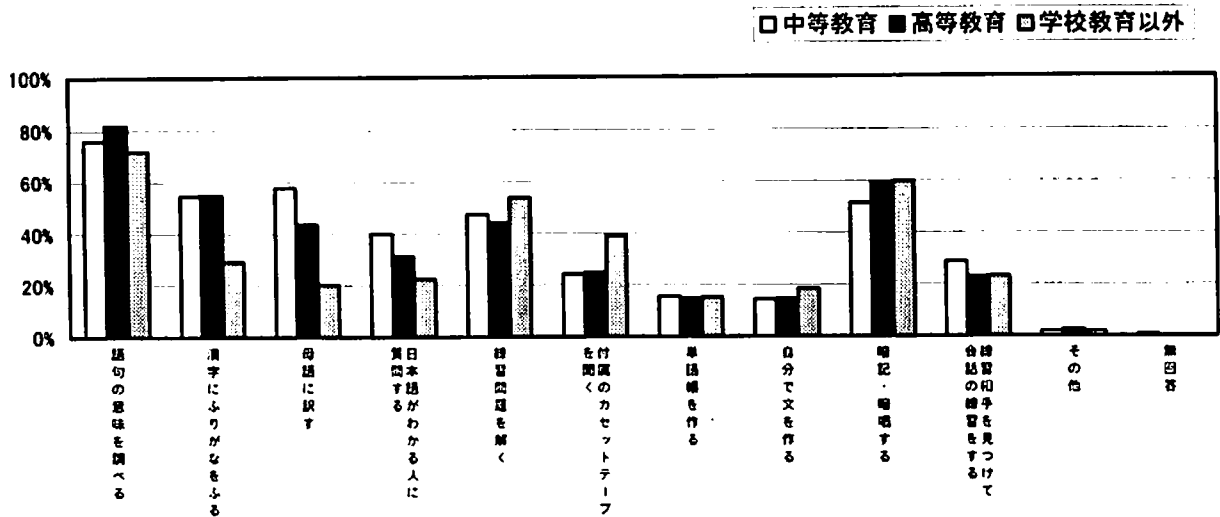


図3-35:教科書等の利用方法(項目別)

授業時間外に「よくする」ものを選んでもらったところ、図3-36のようになった。各数値は減少するが、全体的な傾向はあまり変わらず、「語句の意味を調べる」(39.9%)、「暗記、暗唱する」(23.4%)、「漢字にふりがなをふる」(16.9%)が多い。

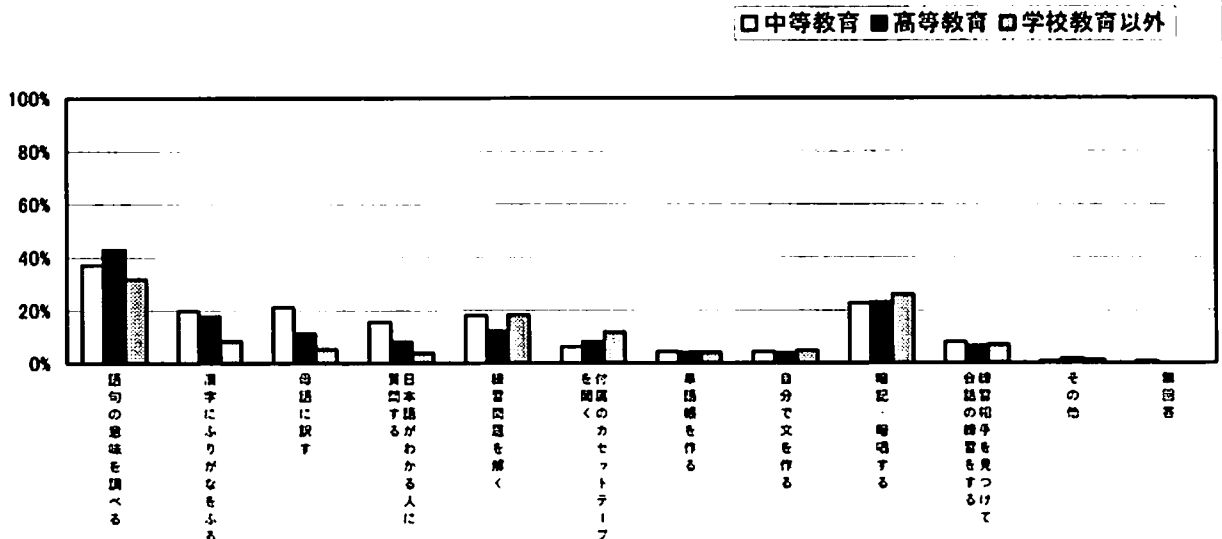


図3-36:教科書等の利用方法(「よくする」)

3-4-3. 授業時間外に教科書などを利用しない理由

3-4-1で利用しないと答えた926人の学習者に対して、その理由を尋ねたところ、全体で①「どうやって使ったらいいかわからないから」(44.7%)が最も多く、続いて②「授業以外の時間に日本語の勉強をしないから」(24.0%)となっている。所属別に見てもあまり違いは見られない(図3-37)。

「その他」としては、少数ではあるが「英語を強化してから日本語に力を入れたい」「機会がない」「日本語を使う相手がいない」「どこから着手して勉強したらいいかわからない」などが挙げられた。(学 Q3-2)

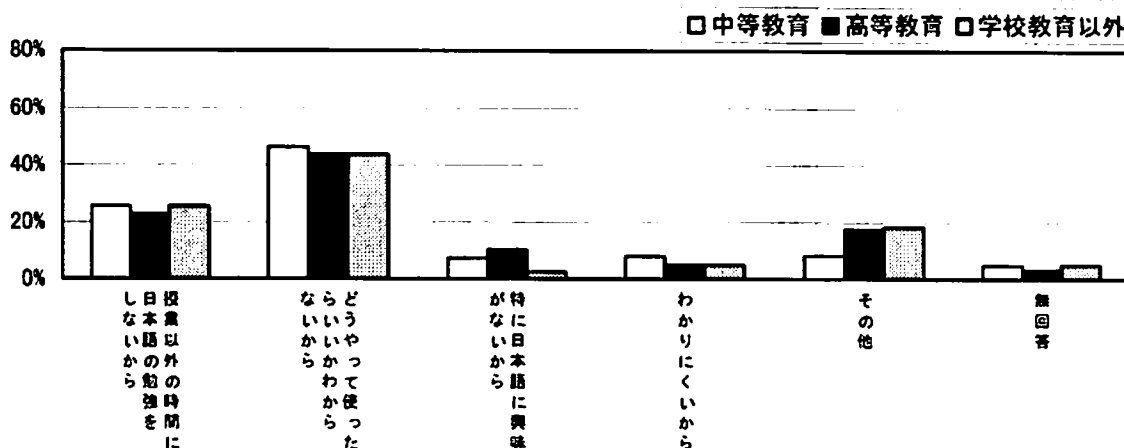


図3-37: 授業時間外に教科書などを利用しない理由(項目別)

3-5. 利用経験のある機会や場所について

ここでは、学習者が授業以外の様々な日本語学習の機会や場所をどれぐらい利用しているのか等について、学習者に尋ねた結果をまとめる。

3-5-1. 利用経験の有無

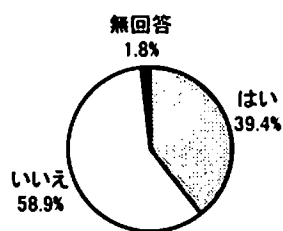
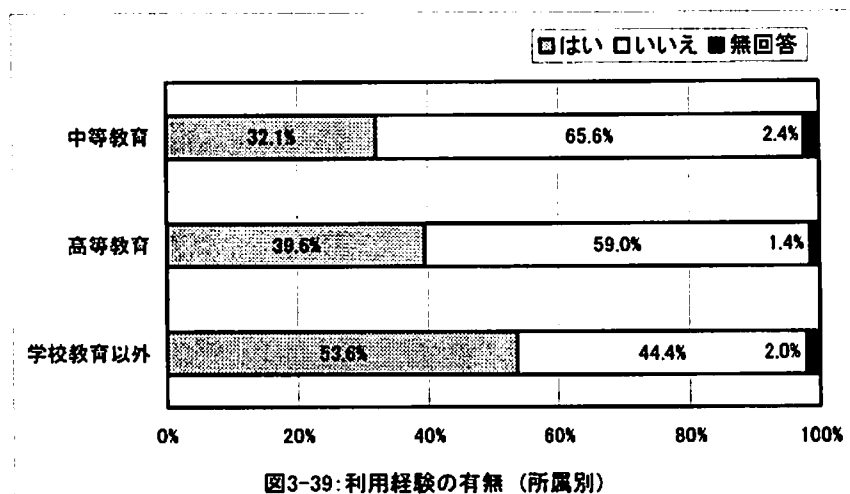


図3-38: 利用経験の有無(全体)

まず、これまでに何らかの日本語学習に関する機会や場所を利用した経験があるかどうかについて尋ねたところ、図3-38のように全体で1,357人(39.4%)の学習者に経験があり、経験したことがないと答えた学習者は2,029人(58.9%)となっている。所属別に見ると、表3-18・図3-39のように中等教育・高等教育では経験のない学習者の方が65.6%・59.0%と多く、学校教育以外では経験のある学習者の方が53.6%と多い。(学 Q4)

〈表3-18: 利用経験の有無〉()内は%

		合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	経験あり	1,357 (39.4)	297 (32.1)	821 (39.6)	239 (53.6)
	経験なし	2,029 (58.9)	607 (65.6)	1,224 (59.0)	198 (44.4)
	無回答	61 (1.8)	22 (2.4)	30 (1.4)	9 (2.0)



3-5-2. 利用経験のある機会や場所

利用経験のある学習者 1,357 人に対して、これまでに利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、1,155 人から台湾における経験があるという回答が得られた。表 3-19 のように全体では①「日本語のカラオケ」(48.0%)、②「日本・日本語に関するイベント」(36.8%)、③「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(22.2%)の順となっている。「日本語のカラオケ」は所属を通じて、最も多い(47.1%・49.6%・42.8%)。2番目に多いのは、中等教育・高等教育では「日本・日本語に関するイベント」(37.7%・37.7%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(29.9%)である。中等教育では、「日本人との交流会」が 33.2%で 3番目であるが、これは高等教育・学校教育以外に比べて高い。(図 3-40)。

「その他」としては、中等教育では「道、駅、観光地での日本人との出会い」「日本人の学校への訪問」「学校の日本語に関するコンテストへの参加」等、高等教育では「日本人との交流」「道、駅、観光地での日本人との出会い」「学校への日本人来訪」等、学校教育以外では「中日二か国語の幼稚園」等が挙げられた。

(学 Q4-1)

〈表 3-19：利用経験のある機会や場所－台湾－〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語のカラオケ (48.0)	日本語のカラオケ (47.1)	日本語のカラオケ (49.6)	日本語のカラオケ (42.8)
2位	日本・日本語に関する イベント (36.8)	日本・日本語に関する イベント (37.7)	日本・日本語に関する イベント (37.7)	日本語が使われている職 場でのアルバイト・仕事 (29.9)
3位	日本人のいる場所、 日本人が集まる場所 (22.2)	日本人との交流会 (33.2)	日本・日本語に関する 資料センター・図書館 (26.7)	日本・日本語に関する イベント (23.5)

(複数回答可)

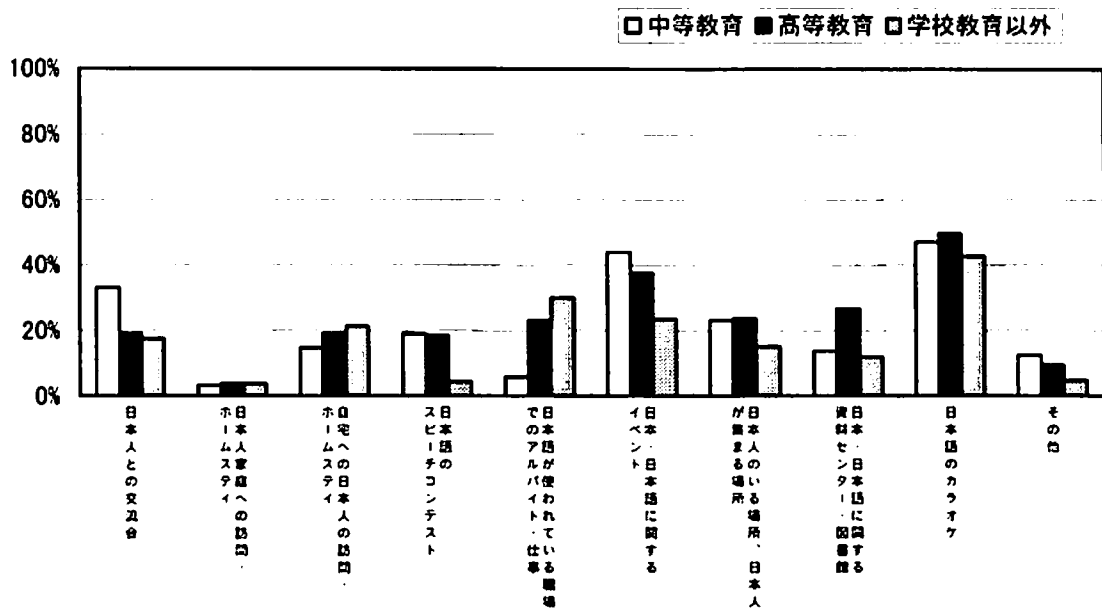


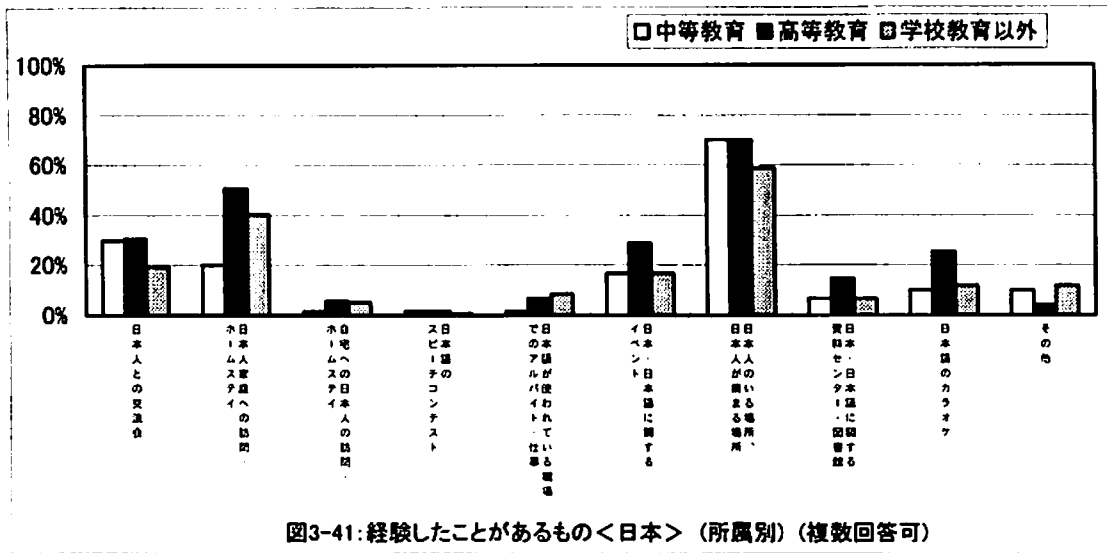
図3-40: 経験したことがあるもの<台湾> (所属別) (複数回答可)

続いて、利用経験のある学習者 1,357 人の中で、日本での経験であるとした回答者は、473 人であった。表 3-20 のように全体では①「日本人がいる場所、日本人が集まる場所」(67.2%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(44.2%)、③「日本人との交流会」(27.7%) の順となっている。所属別では、中等教育で「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(20.0%) が、他の所属と比べて少ない(図 3-41)。「その他」としては、「観光地」「旅行」「買い物」が複数挙げられた。(学 Q4-1)

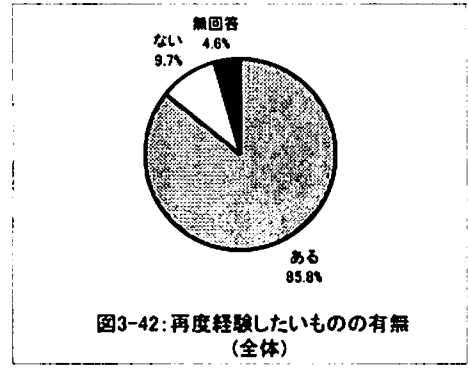
表 3-20: 利用経験のある機会や場所-日本-() 内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人がいる場所、日本人が集まる場所 (67.2)	日本人がいる場所、日本人が集まる場所 (70.0)	日本人がいる場所、日本人が集まる場所 (70.1)	日本人がいる場所、日本人が集まる場所 (58.8)
2位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (44.2)	日本人との交流会 (30.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (50.7)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (40.3)
3位	日本人との交流会 (27.7)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (20.0)	日本人との交流会 (30.6)	日本人との交流会 (19.3)

(複数回答可)



3-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無



利用した経験のあるものの中で、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したい機会や場所があるかどうかについて尋ねたところ、全体で85.8%が「ある」と答えている。所屬別で見ると、学校教育以外 (77.8%) に比べ、中等教育・高等教育のほうが「ある」の割合が高い (89.9%・86.6%) (図 3-42)。 (学 Q4-2)

〈表 3-21: 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無〉 () 内は%

回答者数		合 計		中等教育	高等教育	学校教育以外
		ある	ない			
	ある	1,164	(85.8)	267 (89.9)	711 (86.6)	186 (77.8)
	ない	131	(9.7)	26 (8.8)	76 (9.3)	29 (12.1)
	無回答	62	(4.6)	4 (1.3)	34 (4.1)	24 (10.0)

3-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所

もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思う機会や場所の中で、最も経験したいものについて尋ねたところ、表 3-22・図 3-43 のように、全体では①「日本人がいる場所、日本人が集まる場所」(18.2%)、②「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(17.6%)、③「日本・日本語に関するイベント」(11.7%)の順である。中等教育と高等教育は上位3位までは同じものが挙がっているが、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」のほうが「日本・日本語に関するイベント」よりも多い。 (学 Q4-2)

〈表 3-22：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (18.2)	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (18.7)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (18.8)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (19.4)
2位	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (17.6)	日本・日本語に関する イベント (14.2)	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (18.7)	日本人のいる場所, 日本人が集まる場所 (15.6)
3位	日本・日本語に関する イベント (11.7)	日本人家庭への訪問・ ホームステイ (13.1)	日本・日本語に関する イベント (11.3)	日本語が使われている 職場でのアルバイト・ 仕事 (12.4)

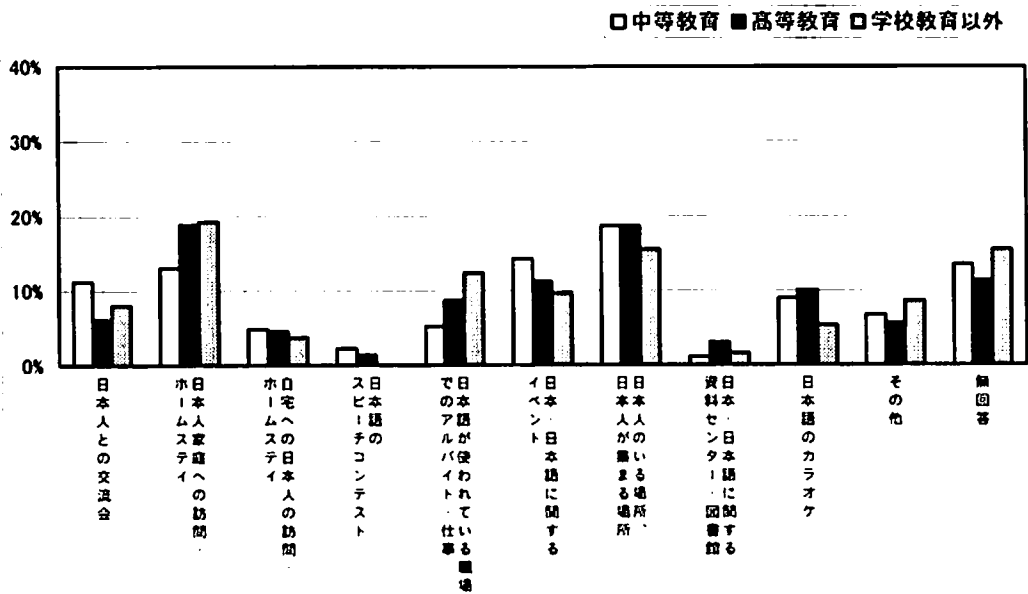
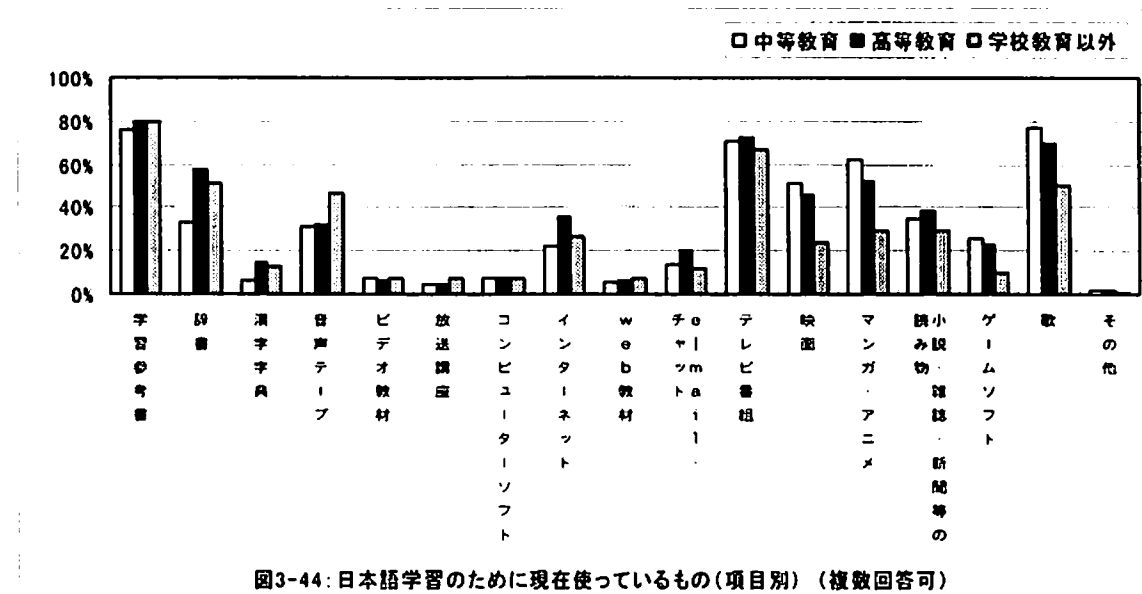


図3-43: 再度経験したいもの (所属別)

3-6. 日本語学習のために現在使っているものについて

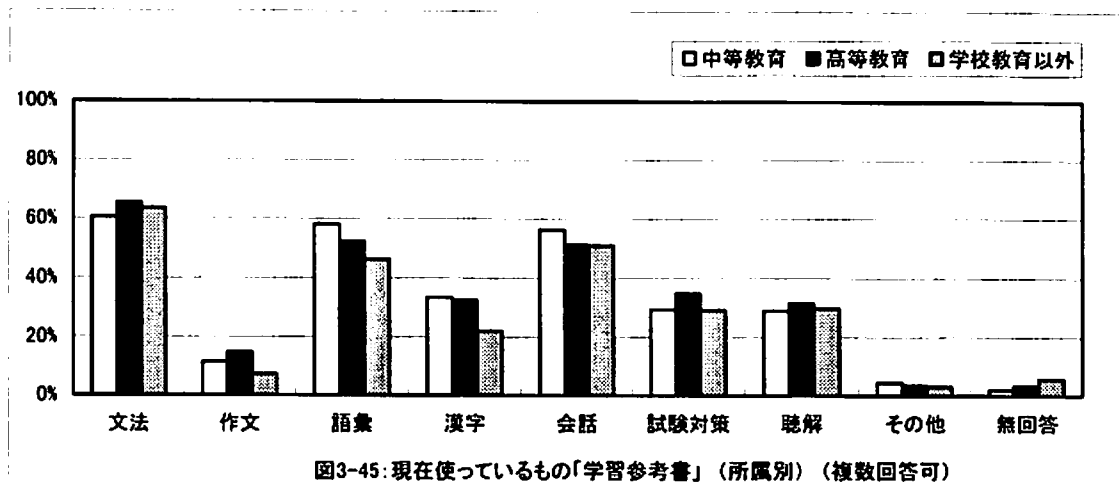
ここでは、日本語学習のために現在どのようなものを使っているのかについて、学習者に尋ねた結果をまとめる。

現在使っているものとして、全体では①「学習参考書・問題集」(79.0%)が最も多く、②「日本語のテレビ番組」(71.1%)、③「日本語の歌」(69.1%)がそれに続く。所属別にみると、図3-44のように中等教育では、「日本語の歌」が最もよく使われている(77.4%)。また、中等教育・高等教育では「日本語の映画」(51.3%・45.6%)、「日本語のマンガ・アニメ」(62.7%・52.4%)が比較的良好に使われているが、学校教育以外の場合、「日本語の映画」は23.6%、「日本語のマンガ・アニメ」は29.3%と使用率が低い。「その他」としては、「教科書」「ヒアリング教材」「プリント教材」などが挙げられた。(学Q5)



3-6-1. 日本語学習のために現在使っている学習参考書・問題集

3-6で、「学習参考書・問題集」と答えた2,672人に、具体的にどのようなものかを尋ねたところ、全体では①「文法」(64.0%)、②「語彙」(53.1%)、③「会話」(52.6%)の順になっている。図3-45に見られるように、「漢字」で、学校教育以外(22.0%)が中等教育・高等教育(33.2%・32.5%)より少ないが、どの参考書・問題集においても所属による差は小さい。(学Q5)



3-7. 今後の充実を希望するものについて

ここでは、日本語学習や日本理解のために、今後さらに充実を希望するものとしてどのようなものがあるのかについて、学習者に尋ねた結果をまとめる。

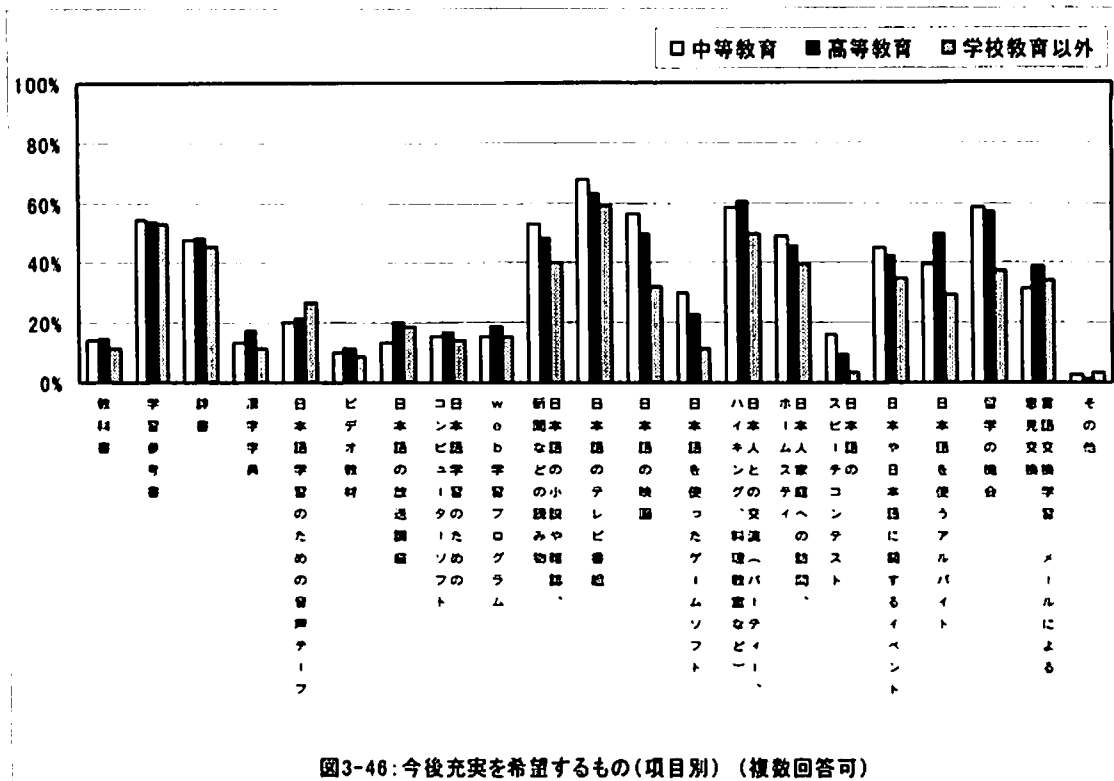
今後の充実を希望するものについて、全体としては①「日本語のテレビ番組」(64.0%)、②「日本人との交流」(58.5%)、③「留学の機会」(54.9%)、④「学習参考書・問題集」(53.5%)、⑤「日本語の映画」(49.3%)の順に高い(表3-23)。所属別にみても、図3-46のようにほぼ同様の傾向となっている。学校教育以外では、「日本語の映画」が32.3%、「留学の機会」が37.4%と、中等教育・高等教育に比べて低くなっている。「その他」としては、「日本語の歌」「日本人との出会い」「字幕付きの映画/テレビ番組/アニメ」などが記されている。

また、希望するものの中でも「特に希望するもの」について尋ねたところ、全体では「留学の機会」(27.8%)、「日本人との交流」(24.0%)、「日本語のテレビ番組」(19.6%)の順で多かった。この3つは所属に共通して多く、いずれの所属であっても3位までに入る。「留学の機会」は中等教育・高等教育において第1位であるが(34.2%・27.6%)、学校教育以外では第3位である(15.6%)。(学Q6)

〈表3-23: 今後の充実を希望するもの〉()内は%

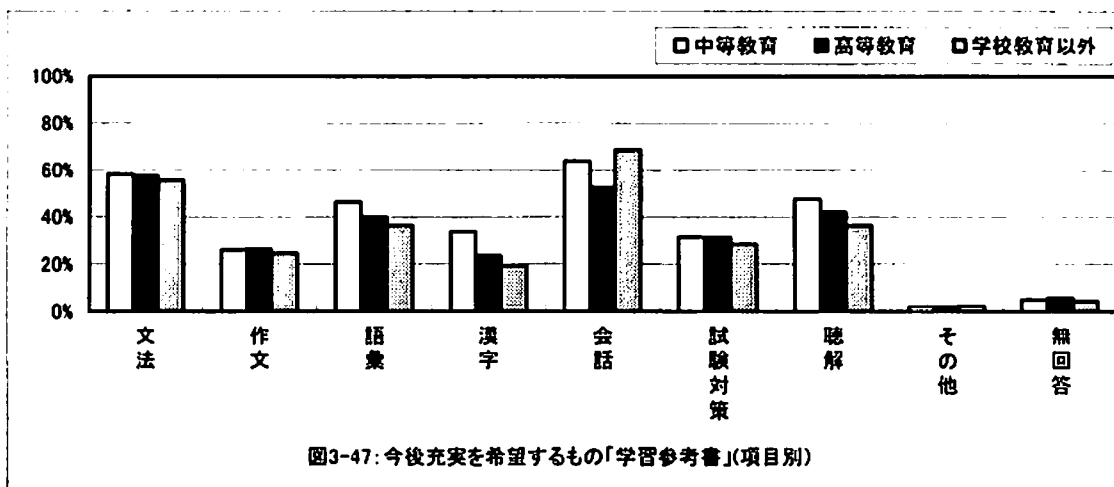
順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語のテレビ番組 (64.0)	日本語のテレビ番組 (67.8)	日本語のテレビ番組 (63.3)	日本語のテレビ番組 (59.2)
2位	日本人との交流 (58.5)	留学の機会 (58.6)	日本人との交流 (60.5)	学習参考書・問題集 (52.8)
3位	留学の機会 (54.9)	日本人との交流 (58.4)	留学の機会 (57.1)	日本人との交流 (49.5)
4位	学習参考書・問題集 (53.5)	日本語の映画 (56.1)	学習参考書・問題集 (53.4)	辞書 (45.6)
5位	日本語の映画 (49.3)	学習参考書・問題集 (54.2)	日本語の映画 (49.9)	日本語の小説や雑誌、新聞などの読み物 (40.6)

(複数回答可)

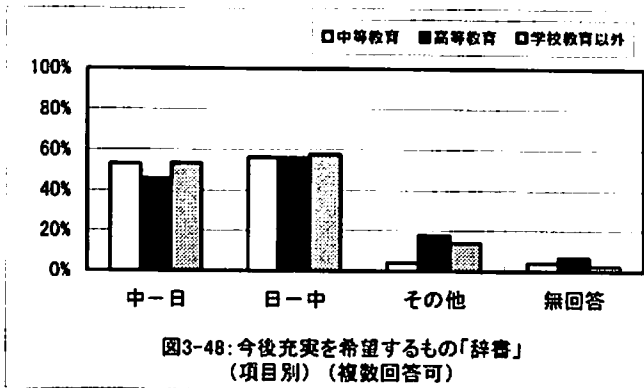


3-7-1. 今後の充実を希望する学習参考書・問題集

3-7で、「学習参考書・問題集」と答えた1,805人に、具体的にどのようなものを尋ねたところ、全体では「会話」(57.7%)が最も高く、「文法」(57.6%)がそれに続く。この2つは、所属に共通して多くの学習者によって希望されている。「その他」としては「すべて」などが挙げられている。(学Q6)



3-7-2. 今後の充実を希望する辞書



3-7で、「辞書」と答えた1,614人に、具体的にどのようなものかを尋ねたところ、所属に共通して、「日中辞典」の方が「中日辞典」よりも希望者が多かった(図3-48)。「その他」には「日日辞典」の希望が、所属機関に共通して多かった。

〈学 Q6〉

第4章 集計結果：教師

概要と要約

本章では、「教師」の集計結果について報告する。本章の構成は5節からなるが、第3章と同様に具体的な結果を報告する前に、ここでまず各節で取り上げる調査内容とその結果を要約してまとめ、本章全体の概要がわかるように示してある。詳細については、4-1以降の各節を参照されたい。なお、各節の集計結果が、実際に使用した調査票（巻末資料）の中のどの項目に対応するかがわかるように、各節の最後に項目番号を入れた。例えば、「(教F1)」は「教師用調査票の項目番号F1」を示す。

集計結果は以下の2つの観点でまとめている。

- (1) 国籍別：「台湾人教師」と「日本人教師」の2つに区分して比較・集計した。
- (2) 所属別：1-9 (p.5 参照) で述べたように、本報告書では「中等教育」「高等教育」「学校教育以外」の3つに区分して比較・集計した。

本調査における教師の所属別有効回答数とその内訳は表4-1のとおりである。中等教育の日本人教師の回答者数が1人と少ないため、4-1以降のデータの解釈には注意を要する。

(表4-1：回答者数・内訳) () 内は%

	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	224 (100.0)	42 (18.8)	133 (59.4)	49 (21.9)
〈内訳〉				
台湾人教師	165 (73.7)	41 (97.6)	107 (80.5)	17 (34.7)
日本人教師	59 (26.3)	1 (2.4)	26 (19.5)	32 (65.3)

(要約)：4-1. 教師について

- ・性別：女性 74.1% > 男性 25.9%
- ・年齢：台湾人教師も日本人教師も30代 (46.7%・50.8%) が多い。
- ・母語：台湾人教師「台湾語」もしくは「中国語」が98.8%、日本人教師「日本語」100%。
- ・日本語学習歴 (台湾人教師対象)：
全体では「7～10年」(27.2%)と「4～7年」(26.6%)が多い。所属別では、中等教育・学校教育以外では「4～7年」(48.8%・29.5%)、高等教育では「7～10年」(28.0%)が多い。
- ・訪日経験の有無 (台湾人教師対象)：全体で「はい」と答えた人が95.2%と所属に共通して多い。
- ・訪日目的 (台湾人教師対象)：
中等教育が「観光」(68.4%)「長期留学」(36.8%)の順、高等教育では「長期留学」(76.7%)「観光」(57.3%)の順、学校教育以外では「観光」(75.0%)「国際交流」(31.3%)の順に多い。
- ・日本語教育経験：
台湾人教師・日本人教師ともに所属に共通して「中堅 (3年以上20年未満)」の経験者が多い。
- ・日本語以外の教育経験の有無：
「いいえ」と答えた人が台湾で64.8%、日本で54.2%。高等教育の日本人の場合は、「はい」が69.2%と多い。

・日本語力（台湾人教師対象）

読むこと：共通して「辞書を使って新聞や雑誌，興味のある分野の本などがだいたい理解できる」（73.2%・51.4%・41.2%）⁴が最も多いが，高等教育・学校教育以外では「母語と同じように読める」（32.7%・35.3%）も多い。

書くこと：共通して「改まった手紙・レポートなど，まとまった文章が書ける」（46.3%・61.7%・47.1%）が最も多いが，中等教育では「友人や身近な人への手紙を書くことができる」も36.6%と比較的多い。

聞くこと：共通して「テレビニュース，学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる」（56.1%・56.1%・47.1%）が最も多い。中等教育では「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」（31.7%），高等教育と学校教育以外では「母語と同じように聞いて理解できる」（23.4%・17.6%）が2番目に多い。

話すこと：共通して「自分の意見や考えをまとめて話すことができる」（48.8%・59.8%・47.1%）が最も多い。中等教育では「日常生活に困らない程度の表現を使える」（43.9%）も多い。

・日本語教育を始めた理由：

台湾人教師は「（日本語・日本文化・日本語教育・日本語研究等に）興味があった」が多い。日本人教師には特別な傾向は見られない。

・日本語教育に関する学会等への参加の有無：

台湾人教師の63.6%，日本人教師の59.3%が「はい」。所属別では，台湾人教師は中等教育では「いいえ」（58.5%）のほうが多いが，高等教育・学校教育以外では「はい」（77.6%・52.9%）のほうが多い。日本人教師は高等教育では「はい」が76.9%と多いが，学校教育以外では「はい」（43.8%）と「いいえ」（46.9%）に分かれる。

・日本語教育に関する研修経験の有無：

台湾人教師「はい」55.2%，日本人教師「いいえ」50.8%。日本人教師は高等教育では「はい」（50.0%）のほうが多い。

・研修を受けた回数：「1～3回」程度が台湾人教師37.4%，日本人教師45.8%と最も多い。

注：括弧内に，数値が3つ並ぶ場合，「中等教育」「高等教育」「学校教育以外」の数値が順に示してある。

（要約）：4-2. 授業について

・授業で使うもの：

「市販の教科書」「プリント教材（自作）」「文字カード・フラッシュカード」「音声テープ（市販）」が多く使われ，「ビデオ（自作）」「音声テープ（自作）」はほとんど使われていない。所属別でも，全体と大きな違いは見られないが，「文字カード・フラッシュカード」がよく使われているのは学校教育以外であり，高等教育では利用が少ない。国籍別では，大きな違いは見られない。

・生教材：

全体では「テープ・CD」が多く使われている。台湾人教師の場合は「テープ・CD」，日本人教師の場合は「新聞」が最も多く使われている。「ビデオ」「テープ・CD」「テレビ番組」等，音声を伴うものにおいて，台湾人教師の使用率が日本人教師に比べ高い。所属別に見ると，台湾人教師は学校教育以外で「雑誌」「本」を他の機関に比べて多く使っている。所属による使用率の差が大きいのは「新聞」であり，高等教育で61.0%，学校教育以外で71.4%なのが，中等教育では25.0%だけ。高等教育では他の機関に比べ，「インターネット」「テレビ番組」の使用率が高い。

・生教材を使う理由：

「日本の物事や文化に触れさせるため」「学習者の興味・関心をひくため」「学習者に本物の日本語に触れさせるため」が多い。

・自作教材：

全体では「練習問題などのプリント」(67.6%)、「フラッシュカード」(61.5%)が多い。国籍別では台湾人教師は「読解用のプリント」(56.2%)や「音声教材(テープ)」(36.2%)を日本人に比べよく使い、日本人教師は「活動用補助シート」(71.2%)、「練習問題などのプリント」(82.7%)を台湾人に比べよく使っている。

・授業での使用機材：

全体の90.6%が何らかの機材を使用している。全体では、①「テープレコーダー」、②「ビデオ」が多い。国籍別では、いずれの機材も台湾人教師の方が日本人教師よりも使用率が高い。所属別でみると、台湾人教師は所属に共通して「テープレコーダー」「ビデオ」が多い。「コンピューター」「OHP」は、学校教育以外が中等・高等教育に比べ低い。日本人教師は、所属に共通して「テープレコーダー」の使用率が高い。学校教育以外では、「コンピューター」「OHP」の使用率が特に低い(7.4%・0.0%)。

・授業での日本語の使用(台湾人教師について)

初級レベル：

所属に関わらず、日本語の使用が「一部」であることが多いが、学校教育以外で「全て」も比較的多い(28.6%)。使われる場面は「あいさつ」「例文や本文を読む」。

中級レベル：

所属に関わらず、「一部」が多いが、学校教育以外では「全て」と「一部」が同数。使われる場面は、高等教育で「指示を出す」「言葉の意味や文法の説明」「アクティビティの説明」の割合が高くなる。

上級レベル：

同様に「一部」が多いが、学校教育以外では「全て」の割合の方が高い。使われる場面については、項目による差が小さい。学校教育以外でどの項目についても比較的日本語使用が多い。

・授業準備に利用するもの：

国籍別

〈台湾人教師〉

①「文法解説書」(80.0%)、②「教科書」(75.2%)、③「日本語辞書」(70.3%)

〈日本人教師〉

①「文法解説書」(79.7%)、②「他の日本人教師」(76.3%)、③「教科書」(67.8%)

国籍別で比較すると、「日本語学習のための音声テープ」「日本語の歌」「他の台湾人教師」において、台湾人教師の方が日本人教師よりも、利用率がかなり高い。

所属別

〈台湾人教師〉

中等教育

「日本語の歌」(85.4%)が最もよく使われる。他の機関に比べ、「教科書に付随した指導書」(80.5%)「参加した研修会での資料等」(41.5%)がよく使われている。逆に「参考書」(46.3%)「他の日本人教師」(53.7%)はあまり使われていない。

高等教育

他の所属に比べて「日本語学習のための音声テープ」(44.9%)「日本語の歌」(57.9%)が低い。

学校教育以外

「他の日本人教師」(82.4%)が他の機関に比べて利用率が高い。

〈日本人教師〉

高等教育

「教科書」(73.1%)が最もよく使われている。「他の台湾人教師」(34.8%)「映画」(26.9%)は、学校教育以外と比べて利用率が高い。

学校教育以外

高等教育で最もよく使われる「教科書」は、利用率4番目（63.5%）である。

・日本語教師として重視する能力：

台湾人教師は①「日本語運用能力」、②「言語教育能力」、③「日本語の知識」、日本人教師は①「言語教育能力」、②「日本語運用能力」、③「日本語の知識」。

・日本語教師の資質・能力向上のためにするもの

台湾人教師・日本人教師とも「参考書や専門書で勉強する」「他の教師と話す」「異なる指導法・教材を検討し、経験する」が多く、「他の教師の授業を見学する」「自分の授業を見てもらう」が低い。

・コンピュータの利用方法：

所属・国籍に関係なく「インターネットで情報収集」「電子メールの送受信」「ワープロで教材作成」の割合が高く、その他の項目についてはあまり利用されていない。

・日本語教育へのコンピュータ利用の必要性：国籍・所属に関係なく、必要性が高く評価されている。

・日本語教師の資質・能力の向上のために充実を希望するもの：

共通して「日本人との交流」（台湾人教師 73.3%・日本人教師 57.6%）が最も高く、「Web日本語学習プログラム」（台湾人教師 20.0%・日本人教師 1.7%）は低い。国籍別では、「教師間のネットワーク」以外の全ての項目において、台湾人教師の方が希望する率が高い。

所属別では、台湾人教師は高等教育で「日本人との交流」（66.4%）が第2位となっているが、これは他の機関に比べて、低い選択率である。学校教育以外で「日本語を使ったゲームソフト」（41.2%）「日本・日本語・日本語教育に関するイベント」（88.2%）「研修会」（76.5%）の割合が、他の機関に比べ高い。日本人教師は「辞書」「日本人との言語交換学習」「日本語講師養成・研修コース（大学・大学院）」において、所属による差が見られ、いずれも高等教育の方が学校教育以外よりも比較的多い。

・充実を希望する「文法解説書」のレベル：

全体的に、初級より中・上級のニーズが高い。特に高等教育の台湾人教師は上級のニーズが高い。

・充実を希望する「辞書」の種類：

所属・国籍を問わず「中ー日」「日ー中」の希望がほぼ半々。

・充実を希望する「漢字字典」の使用言語：

台湾人教師は所属を問わず、日本語を希望する割合の方が高い。日本人教師は「中国語」「日本語」の差がほとんどない。

・充実を希望する「教師用指導参考書」：

中等教育の台湾人教師から、「（文法、語彙等の）指導書」、高等教育の台湾人教師からは「教室活動集」「会話、聴解に関するもの」「（文法、語彙等の）指導書」が挙げられた。

・充実を希望する「コンピュータソフト」：

全体では「作文」の希望が高い。中等教育では「発音」の希望が多い。

（要約）：4-3. 日本語を使っのやりとりについて（以下、台湾人教師対象）

・日本語を使っのやりとりの有無：

全体で「はい」153人（92.7%）、「いいえ」6人（3.6%）。

・やりとりの相手：

全体で①「日本語の教師」（127人）、②「知り合い」（95人）が多く、所属を通じてこの順位は変わらない。

・やりとりの方法：

「日本語の教師」が相手の場合は、共通して直接会っの「会話」（96.9%）が多い。「知り合い」が相手の際、高等教育の場合は、「会話」「手紙」「電話」「電子メール」がほぼ同程度に使用されているが、

学校教育以外では、「会話」(88.9%)の次は「電話」(77.8%)となり、「電子メール」(33.3%)は比較的少ない。

・最もよくやりとりをする相手：

全体で①「日本語の教師」(48.4%)、②「知り合い」(22.9%)の順に多い。

以下、「最もよくやりとりをする相手」について。

・やりとりをする相手の国籍：「日本人」が77.1%で多く、所属による差はあまりない。

・やりとりをする相手の性別：全体では48.4%と女性が多い。

・やりとりを始めた頃の日本語力：

中等教育では、「日常会話程度できた」(58.8%)、高等教育では「かなりできた」(45.6%)、学校教育以外では「日常会話程度できた」「かなりできた」(共に37.5%)が最も多い。

・やりとりをする頻度：

全体で「週に2,3回」が32.0%で最も多いが、中等教育で「週に1回」(32.4%)、高等教育で「週に2,3回」(35.0%)、学校教育以外で「毎日」(31.3%)がそれぞれ最も多い。

・やりとりをする手段：

全体で、直接相手と「会って話す」(71.9%)「電話で話す」(52.4%)が多く、「電子メール」は35.9%となっている。

・やりとりをするときの日本語の割合：

所属に関わらず「全部日本語」が高く、高等教育はその割合が特に高い。

・やりとりの内容：

所属に関わらず①「生活について」(全体70.6%)、②「仕事について」(66.0%)、③「日本語について」(49.7%)の順に多い。

・日本語でやりとりをする理由：

全体で「相手を使うから」「日本語が最もわかりあえる言葉だから」が高い。

・授業以外で日本語を使わない理由：使わない6名の内、5名が「日本語を使う相手がいない」を挙げた。

(要約)：4-4. 日本語が使われているものとの接触について

・身の回りでの日本語が使われているものの有無：

「はい」(157人・95.2%)が多く、所属による差はない。

・日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無：「はい」と答えた人が98.7%と多い。

・見聞きするもの：

所属に共通して「テレビ」(86.1%・93.3%・86.7%)が最も多い。中等教育・高等教育では、「雑誌」(83.3%・79.8%)がそれに続き、学校教育以外では、「本」(86.7%)が「テレビ」と並んで1位である。中等教育で、「新聞」(27.8%)が他の機関に比べて低い。

・最もよく見聞きするもの：

所属に共通して「テレビ」(55.6%・51.0%・33.3%)が最も高い。

以下、「最もよく見聞きするもの」について。

・見聞きする頻度：

全体で「毎日」(60.6%)が最も多いが、中等教育では「毎日」(41.7%)と「週2,3回」(33.3%)の差が小さい。

・見聞きするものの所有者：共通して「自分」(全体80.0%)が最も多い。

・見聞きするものの内容：

全体で「社会・生活」(74.2%)が最も多く、「文化・芸術」(49.0%)がそれに続く。

・見聞きする理由：

全体では「様々な情報が得られるから」(4.63)が最も高く、高等教育・学校教育以外でも最も高い(4.67・4.92)が、中等教育では、「日本語に触れたいから」(4.71)が最も高い。学校教育の場合、「仕事のため」(4.58)「研究のため」(4.09)が他の機関に比べて高い。「楽しいから」は所属を通じて、第3位である。

(要約)：4-5. 利用経験のある機会や場所について

・利用経験の有無：授業以外の日本語学習の機会や場所を利用したことのある人は140人(84.8%)、ない人は12人(7.3%)。

・利用経験のある機会や場所(台湾において)：

中等教育・高等教育では「日本・日本語に関するイベント」(66.7%・61.7%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(68.8%)が最も多い。

・利用経験のある機会や場所(日本において)：

全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(47.9%)、②「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(41.1%)、③「日本人との交流会」(39.3%)の順となっている。所属別に見ると、中等教育・高等教育では1~3位は全体の順位と同じ。学校教育以外では、「日本人との交流会」(43.8%)が最も多い。所属による差は大きくないが、学校教育以外では、「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(25.0%)が他の機関に比べて低い。

・再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無：「ある」が90.0%で所属に共通して多い。

・再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所：

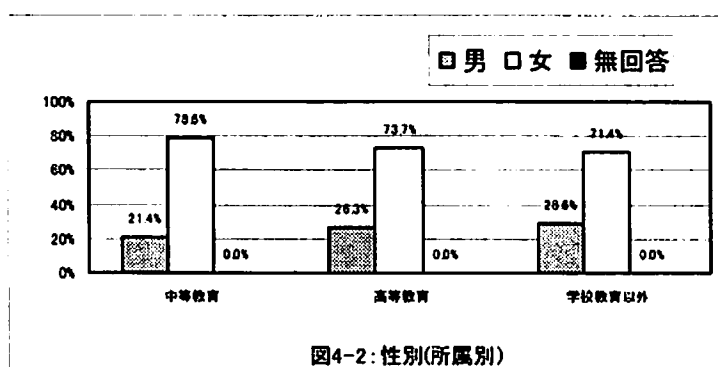
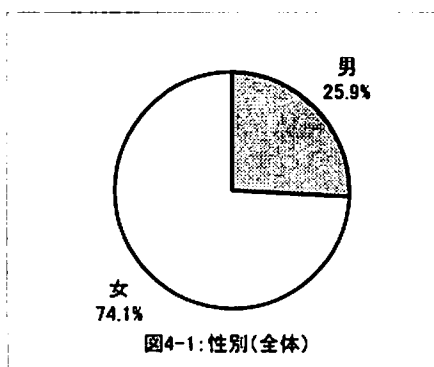
全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(23.0%)、②「日本・日本語に関するイベント」(21.4%)。

4-1. 教師について

ここでは、本調査に回答した教師の性別、年齢、母語、日本語学習歴、訪日経験とその目的、日本語教育経験、専門領域、日本語力、日本語教育動機、研修歴等の基礎的情報について尋ねた結果を報告する。

4-1-1. 性別

図4-1のように、全体で見ると女性教師が74.1%で、所属を通じて多い。ただし、高等教育の日本人の場合は、26名中16名(61.5%)が男性である。 (教F1)



4-1-2. 年齢

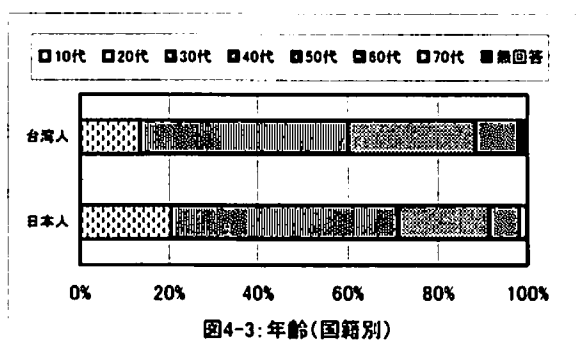
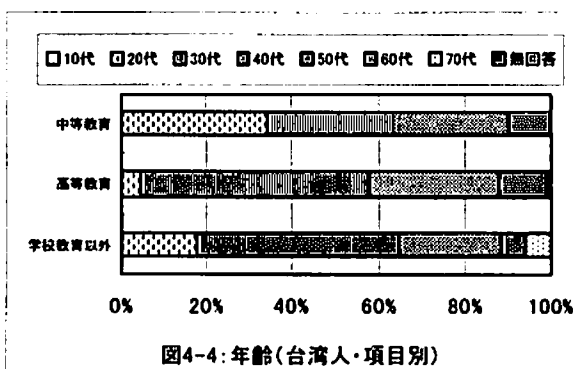


図4-3のように台湾人教師も日本人教師も30代(46.7%・50.8%)が最も多い。 (教F3)



台湾人教師は所属別で見ると、図4-4のように中等教育では20・30・40代が大差ない割合で全体を構成しているが、高等教育や学校教育以外では、30代が全体のほぼ半数を占めている(53.3%・47.1%)。 (教F3)

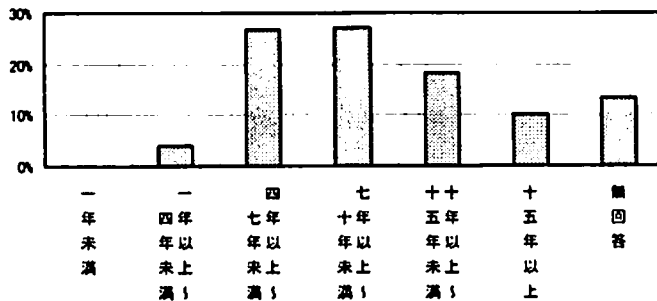
4-1-3. 母 語

教師の母語は、表 4-2 のように台湾人教師のほとんどが「中国語」「台湾語」、日本人教師のすべてが「日本語」となっている。 (教 F4)

〈表 4-2：母語〉() 内は%

		合 計	台湾人	日本人
回答者数	中国語	17 (7.6)	17 (10.3)	0 (0.0)
	台湾語	146 (65.2)	146 (88.5)	0 (0.0)
	日本語	60 (26.8)	1 (0.6)	59 (100.0)
	無回答	1 (0.4)	1 (0.6)	0 (0.0)

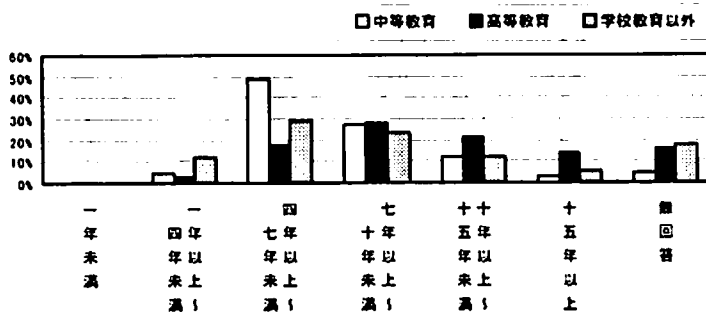
4-1-4. 日本語学習歴



日本語学習歴について台湾人教師に尋ねたところ、「7年以上10年未満」(27.3%)と「4年以上7年未満」(26.7%)が多い(図 4-5)。

(教 F5)

図4-5: 日本語学習歴(台湾人全体)

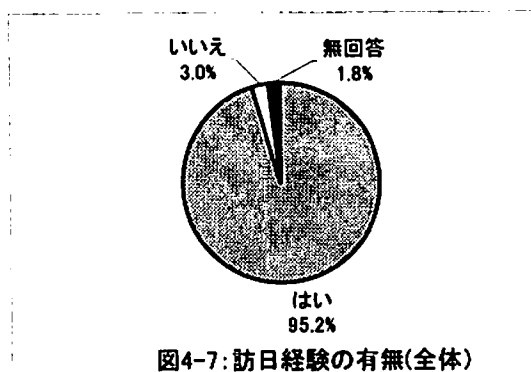


所属別にみると、中等教育・学校教育以外では「4年以上7年未満」(48.8%・29.4%)、高等教育では「7年以上10年未満」(28.0%)が多い(図 4-6)。

(教 F5)

図4-6: 日本語学習歴(項目別・台湾人)

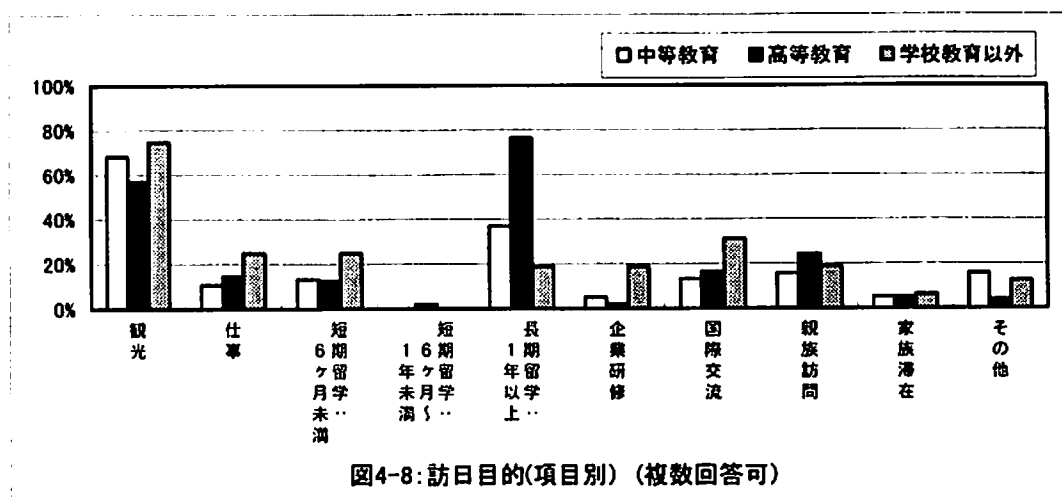
4-1-5. 訪日経験



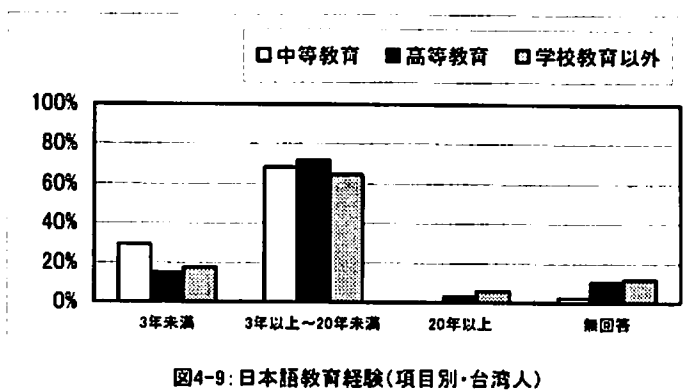
訪日経験の有無について台湾人教師に尋ねたところ、図4-7のように全体で「はい」と答えた人が95.2%であり、所属に共通して経験者が多い。〈教F6〉

4-1-6. 訪日目的

訪日目的は、図4-8のように中等教育が「観光」(68.4%)、「長期留学」(36.8%)の順に多いのに対して、高等教育では、「長期留学」(76.7%)、「観光」(57.3%)の順に多い。学校教育以外では「観光」が最も多く(75.0%)、「国際交流」がそれにつぐ(31.3%)。〈教F6〉

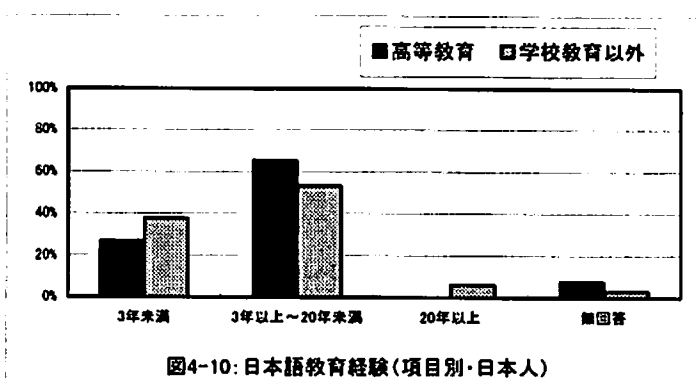


4-1-7. 日本語教育経験



日本語教育経験について尋ねたところ、図4-9のように台湾人教師は所属に共通して「中堅(3年以上~20年未満)」(68.3%・72.0%・64.7%)が多い。中等教育では「初任(3年未満)」も29.3%と多い。

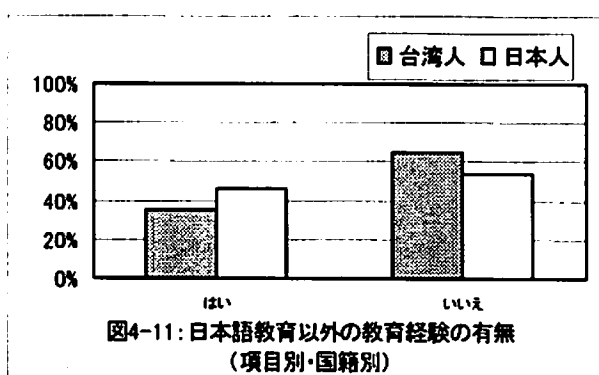
〈教F7〉



日本人教師も、図4-10のように所属に共通して「中堅」(65.4%・53.1%)が多いが、学校教育以外では「初任(3年未満)」も多い。

〈教F7〉

4-1-8. 日本語以外の教育経験の有無



日本語以外の教育経験があるかどうかについて尋ねたところ、図4-11のように国籍に共通して「いいえ」(台湾64.8%・日本54.2%)のほうが多い。

図4-12のように、台湾人については所属による違いはほとんど見られないが、図4-13のように、日本人では、高等教育の場合に、他の教育経験のある教師のほうが多い(69.2%)。

〈教F8〉

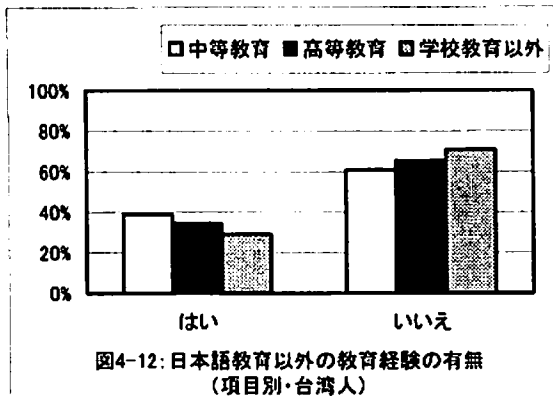


図4-12: 日本語教育以外の教育経験の有無 (項目別・台湾人)

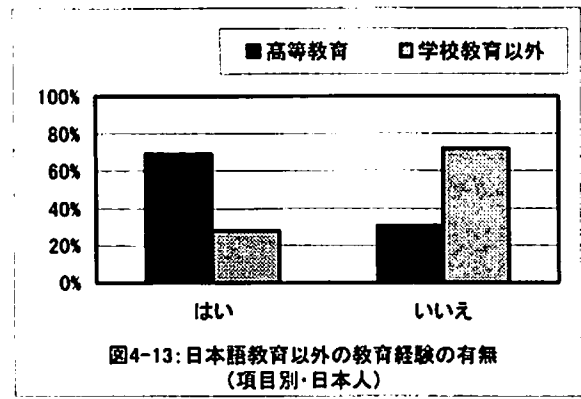


図4-13: 日本語教育以外の教育経験の有無 (項目別・日本人)

4-1-9. 日本語力

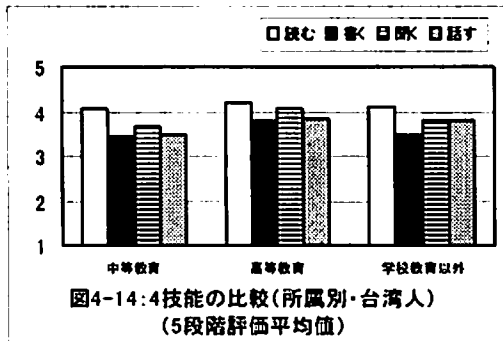


図4-14: 4技能の比較(所属別・台湾人) (5段階評価平均値)

現在、どれぐらい日本語力があると思うか、台湾人教師に対して4技能について5段階で自己評価してもらった。数値の意味は各技能で異なるが、数値が高いほど、自己評価が高いことを示す。まず、図4-14のように所属別に4技能の平均値を比較したところ、中等教育では3.4~4.1、高等教育では3.8~4.2、学校教育以外では3.5~4.1となっている。

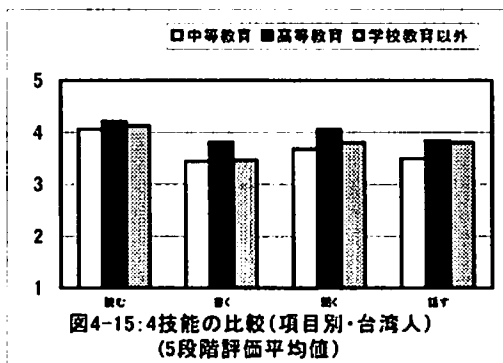


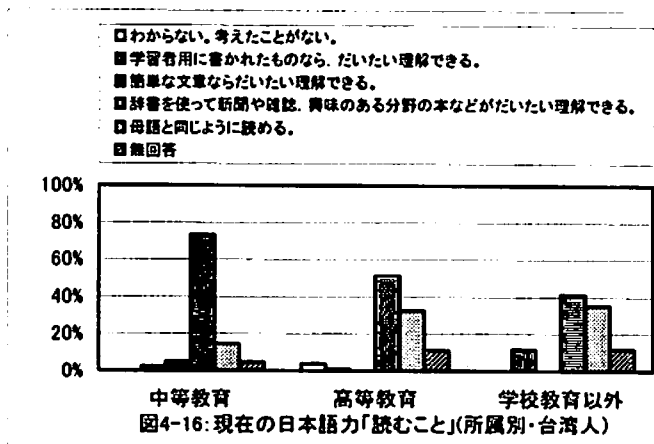
図4-15: 4技能の比較(項目別・台湾人) (5段階評価平均値)

所属別にみると、図4-15のように中等教育<学校教育以外<高等教育の傾向がある。

(教F9)

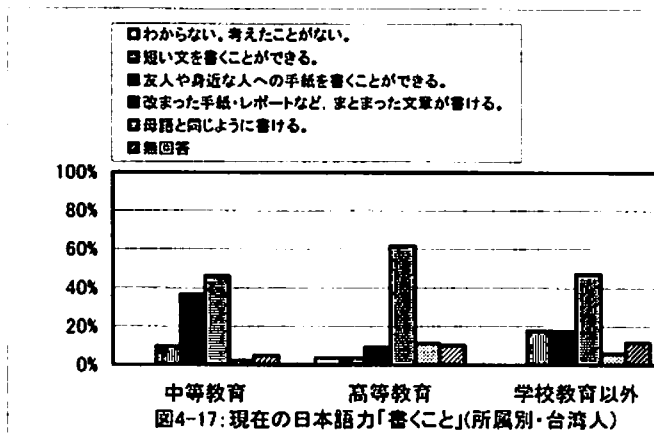
技能別の結果は次のとおりである。

(1) 「読むこと」



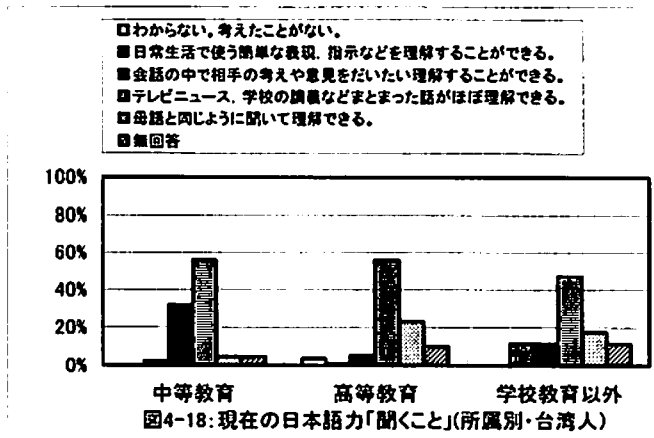
所属に共通して「辞書を使って新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたい理解できる」(73.2%・51.4%・41.2%)が多いが、高等教育・学校教育以外では「母語と同じように読める」も32.7%・35.3%と多い(図4-16)。

(2) 「書くこと」



所属に共通して、「改まった手紙・レポートなど、まとまった文章が書ける」(46.3%・61.7%・47.1%)が最も多い。中等教育では「友人や身近な人への手紙を書くことができる」も36.6%と比較的が多い(図4-17)。

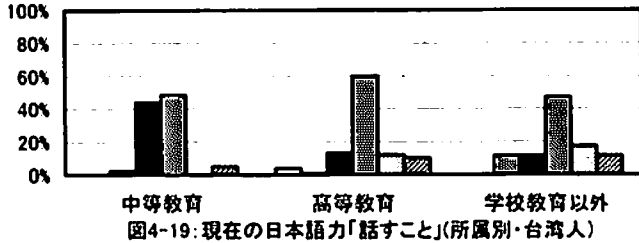
(3) 「聞くこと」



所属に共通して、「テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる」(56.1%・56.1%・47.1%)が最も多い。中等教育では、「会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる」(31.7%)が、高等教育と学校教育以外では「母語と同じように聞いて理解できる」(23.4%・17.6%)が2番目に多い。(図4-18)。

(4) 「話すこと」

- わからない、考えたことがない。
- 簡単な自己紹介ができる。
- 日常生活に困らない程度の表現を使える。
- 自分の意見や考えをまとめて話すことができる。
- 母語と同じように話せる。
- 無回答



所属に共通して、「自分の意見や考えをまとめて話すことができる」(48.8%・59.8%・47.1%)が最も多い。中等教育では「日常生活に困らない程度の表現を使える」(43.9%)も多い(図4-19)。

4-1-10. 日本語教育を始めた理由

日本語教育を始めた理由や動機について自由記述形式で尋ねた。比較的多かった回答について表4-3にまとめる。台湾人教師は「<日本語・日本文化・日本語教育・日本語研究等に>興味があった」が多い。日本人教師には特別な傾向は見られない。

(教F10)

〈表4-3: 日本語教育を始めた理由(所属別)〉()内は回答数

台湾人教師	日本人教師
中等教育	
<日本語・日本文化・日本語教育等に>興味があった(15) 教育に興味・関心がある(6) 日本語の面白さを伝えたい(6)	*アンケートの回答者は1名のみであるため、言及は控える。
高等教育	
<日本文化・日本語教育・日本語研究等に>興味があった(24) 専攻が日本語だから(15) 教育の仕事が好き。教えるのが好き。(12) 留学経験があって(9)	日本語を教えることに興味があった(3) 専攻が日本と中国に関係があった(3) 語学教育に興味があった(2) 専門が日本語研究(2)
学校教育以外	
興味があった(4) 専攻が日本語だから(4)	言語や異文化コミュニケーションに興味があった(5) 特にない(4) 国際交流のため(3) 海外で生活するため(3) さまざまな人と交流できるから(3)

4-1-11. 日本語教育に関する学会等への参加について

過去、日本語教育に関する学会、研究会、教師会などに参加したことがあるかどうかについて尋ねたところ、台湾人教師の63.6%、日本人教師の59.3%が「はい」と答えている（図4-20）。

所属別では、図4-21のように台湾人教師は中等教育で、「いいえ」（58.5%）のほうが多いが、高等教育・学校教育以外では、「はい」のほうが多い（77.6%・52.9%）。日本人教師の場合、高等教育では「はい」が76.9%と多いが、学校教育以外では、「はい」と「いいえ」がほぼ半々（43.8%・46.9%）となっている。中等教育は有効回答数が1であるため、言及は差し控える。（教F12）

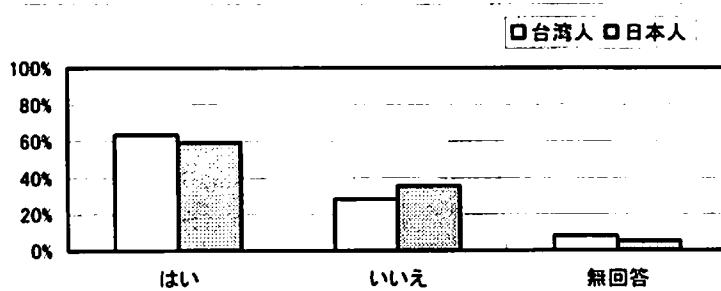


図4-20: 学会等への参加経験の有無(項目別)

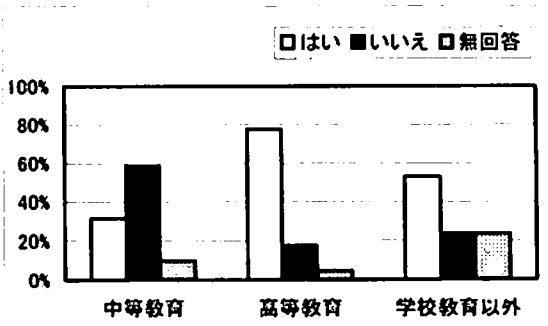


図4-21: 学会等への参加経験の有無(台湾人)

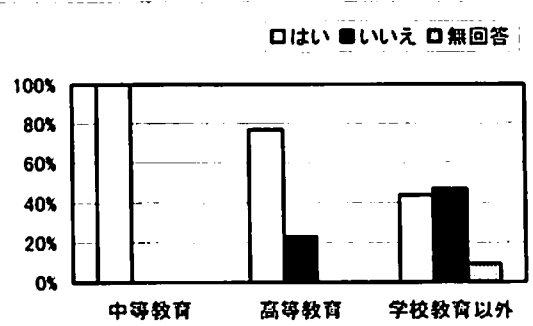


図4-22: 学会等への参加経験の有無(日本人)

4-1-12. 日本語教育に関する研修の経験について

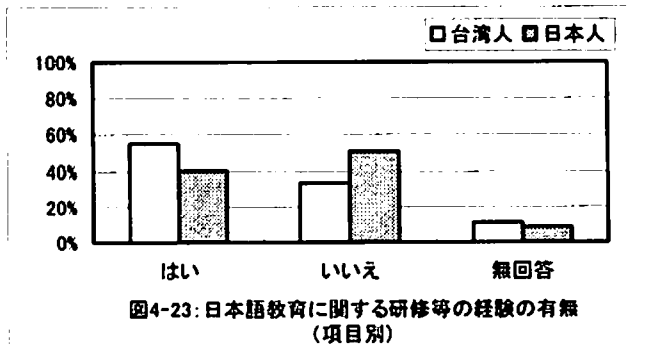


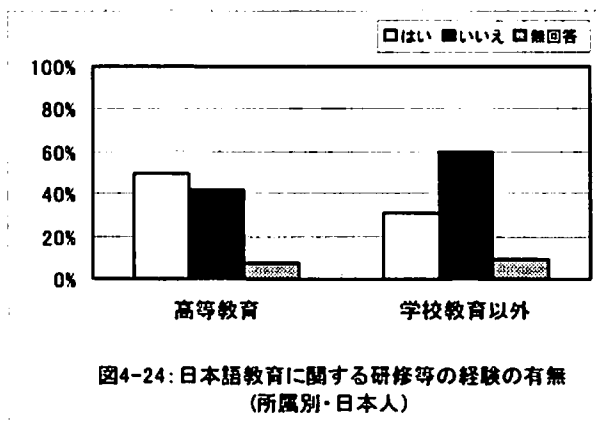
図4-23: 日本語教育に関する研修等の経験の有無(項目別)

過去、日本語教育に関する研修等を受けたことがあるかどうかについて尋ねたところ、台湾人教師の55.2%が「はい」と答えているのに対し、日本人教師は「いいえ」のほうが50.8%と多い（図4-23）。

（教F12）

〈表 4-4：日本語教育に関する研修等の経験の有無〉 人数、()内は%

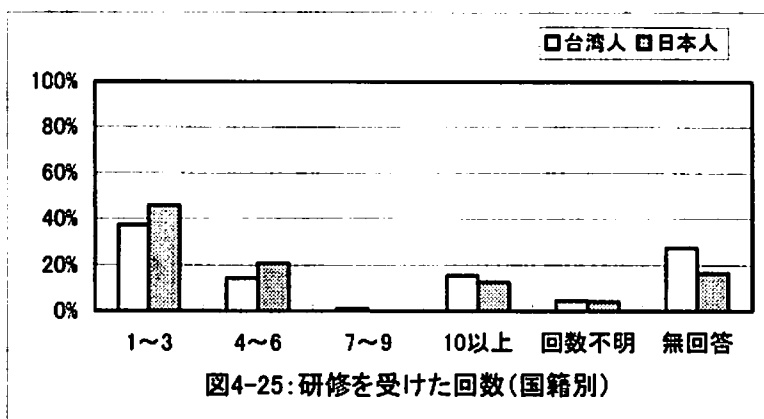
		中等教育	高等教育	学校教育以外	合計
台湾人	はい	26 (63.4)	56 (52.3)	9 (52.9)	91 (55.2)
	いいえ	14 (34.1)	37 (34.6)	5 (29.4)	56 (33.9)
	無回答	1 (2.4)	14 (13.1)	3 (17.6)	18 (10.9)
日本人	はい	1 (100)	13 (50.0)	10 (31.3)	24 (40.7)
	いいえ	0 (0)	11 (42.3)	19 (59.4)	30 (50.8)
	無回答	0 (0)	2 (7.7)	3 (9.4)	5 (8.5)



台湾人教師の場合、所属に共通して、「はい」のほうが多い(63.4%・52.3%・52.9%)が、図 4-24 のように、日本人教師の場合、高等教育では「はい」のほうが多いのに比べ、学校教育以外では、「いいえ」のほうが多い。

(教 F12)

4-1-13. 日本語教育に関する研修を受けた回数



4-1-12 で過去に研修を受けたことのある台湾人教師 91 人・日本人教師 24 人に対し、回数を尋ねたところ、国籍に関わらず、「1~3 回」程度が最も多い。台湾人教師は 37.4%、日本人教師は 45.8% である(図 4-25)。(教 F12)

4-2. 授業について

ここでは、教師が普段の授業や授業の準備のために使っているものや、教師としての資質・能力向上のために必要なもの等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

4-2-1. 授業で使うもの

授業で使うものについて「いつも使う (5)」～「使わない (1)」の5段階のスケールで尋ねたところ、図4-26のように全体では「市販の教科書」(4.53)「プリント教材 (自作)」(3.93)「文字カード・フラッシュカード」(3.74)「音声テープ (市販)」(3.67)が比較的多く使われ、逆に「ビデオ (自作)」(1.64)「音声テープ (自作)」(2.00)はほとんど使われていない。国籍別に、上位3位までを表4-5に示した。

国籍別では、違いは見られないが、「プリント教材 (自作)」で日本人教師の方が比較的多く使っている傾向がある (図4-26)。 (教I Q1)

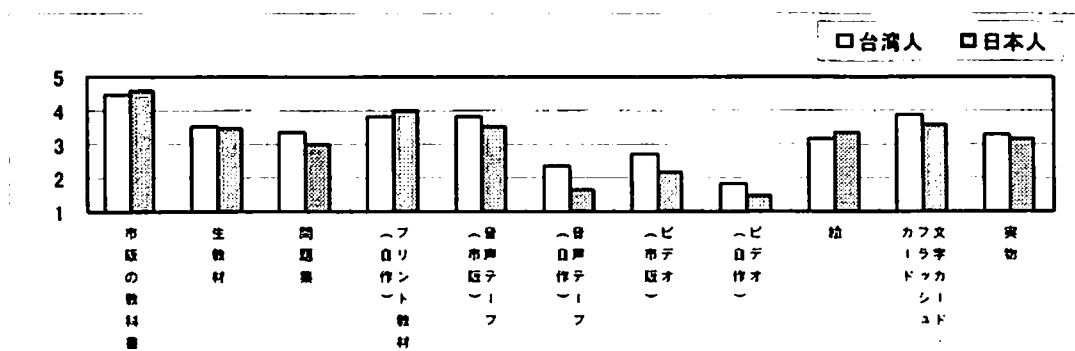


図4-26: 授業で使うもの (項目別・国籍別) (5段階評価平均値)

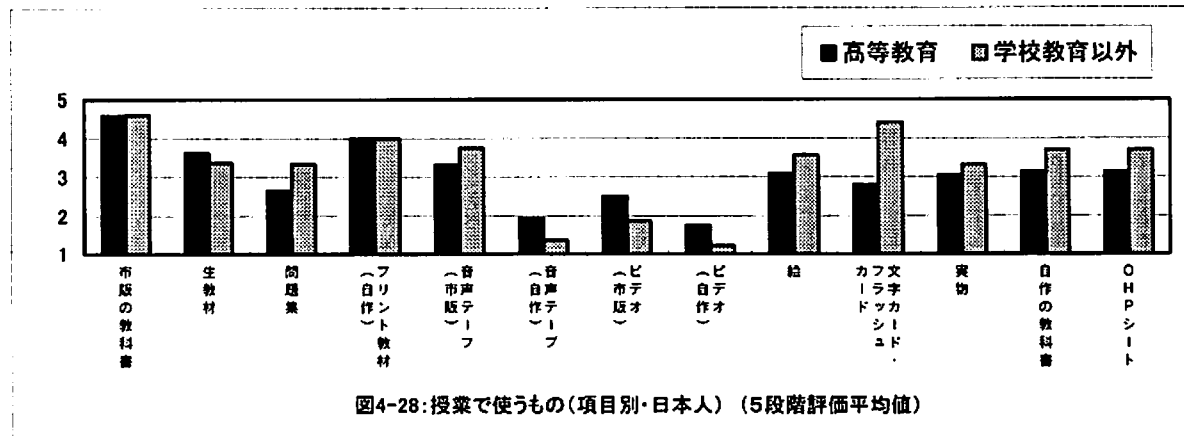
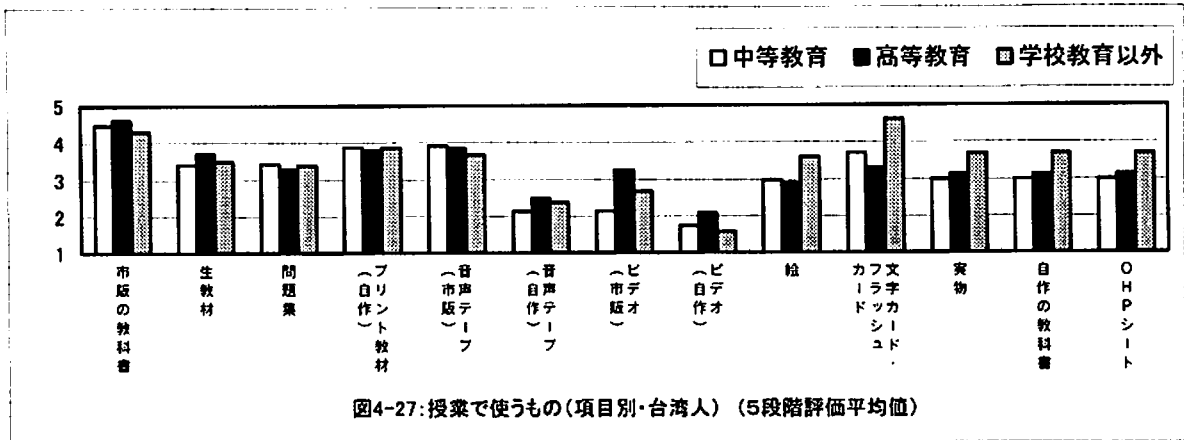
〈表4-5: 授業で使うもの (全体)〉

順位	台湾人	日本人
1位	市販の教科書 (4.47)	市販の教科書 (4.60)
2位	文字カード・フラッシュカード (3.88)	プリント教材<自作> (4.00)
3位	プリント教材<自作> (3.85)	文字カード・フラッシュカード (3.61)

(5段階評価平均値)

所属別では、図4-27・4-28のようになり、上位3位までを表4-6に示した。全体とあまり大きな違いは見られないが、台湾人教師は高等教育で「文字カード・フラッシュカード」(3.31)が他に比べて比較的低く、逆に、「ビデオ (市販)」(3.26)が他に比べて高い。学校教育以外で「絵」(3.6)「文字カード・フラッシュカード」(4.62)「実物」(3.69)など、視覚に訴え、かつ簡便なものが比較的多く使われている。

日本人教師は、学校教育以外で、「文字カード・フラッシュカード」(4.41)が他の項目と比べても、また、高等教育と比べてもかなり高い。「その他」には、プロジェクター、CD、OHP等が挙げられていた。



〈表 4-6 : 授業で使うもの (所属別)〉

順位	中等教育	高等教育		学校教育以外	
	台湾人	台湾人	日本人	台湾人	日本人
1位	市販の教科書 (4.48)	市販の教科書 (4.61)	市販の教科書 (4.58)	文字カード・ フラッシュカード (4.62)	市販の教科書 (4.61)
2位	音声テープ <市販> (3.92)	音声テープ <市販> (3.85)	生教材 (3.63)	市販の教科書 (4.31)	文字カード・ フラッシュカード (4.41)
3位	音声テープ <自作> (3.88)	プリント教材 <自作> (3.80)	プリント教材 <自作> (3.32)	プリント教材<自作> (3.87)	音声テープ <市販> (3.75)

(5段階評価平均値)

4-2-2. 生教材について

4-2-1でこれまでの授業で生教材を使ったことがある教師 210 人に対して、どのようなものを具体的に使ったのかについて尋ねたところ、全体では「テープ・CD」(71.4%)が最も多い。台湾人教師の場合、「テープ・CD」が、日本人教師の場合、「新聞」が最も多く使われている。

項目によって、台湾人教師の方がよく使うものと、日本人教師がよく使うものがある。特に、「ビデオ」「テープ・CD」「テレビ番組」等、音声を伴うものにおいて、台湾人教師の使用率が日本人教師に比べて高い（図4-29）。

（教1Q2）

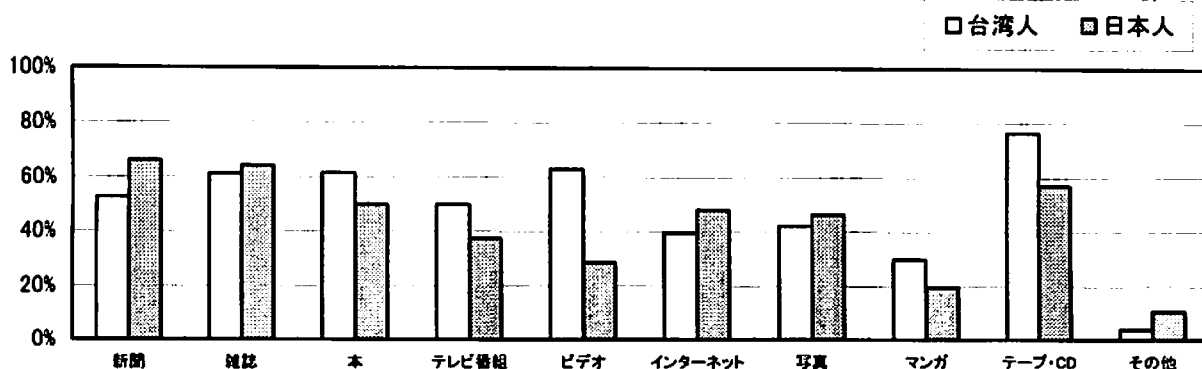


図4-29: 授業で使った生教材(項目別・国籍別) (複数回答可)

〈表4-7: 授業で使った生教材(全体)〉()内は%

順位	台湾人	日本人
1位	テープ・CD (76.6)	新聞 (66.1)
2位	ビデオ (63.0)	雑誌 (64.3)
3位	本 (61.7)	テープ・CD (57.1)

(複数回答可)

所属別では、図4-30・4-31のようになり、上位3位までを表4-8に示した。台湾人教師は図4-30のように学校教育以外で「雑誌」「本」(78.6%)を中等教育・高等教育に比べて多く使っている。「テープ・CD」は所属を通じて、使用率が高く、所属による使用率の差も少ないが(75.0%・78.0%・71.4%)、「新聞」は差が大きい(25.0%・61.0%・71.4%)。また、高等教育では、中等教育・学校教育以外と比べると「インターネット」(46.0%)「テレビ番組」(54.1%)の使用率が高い。

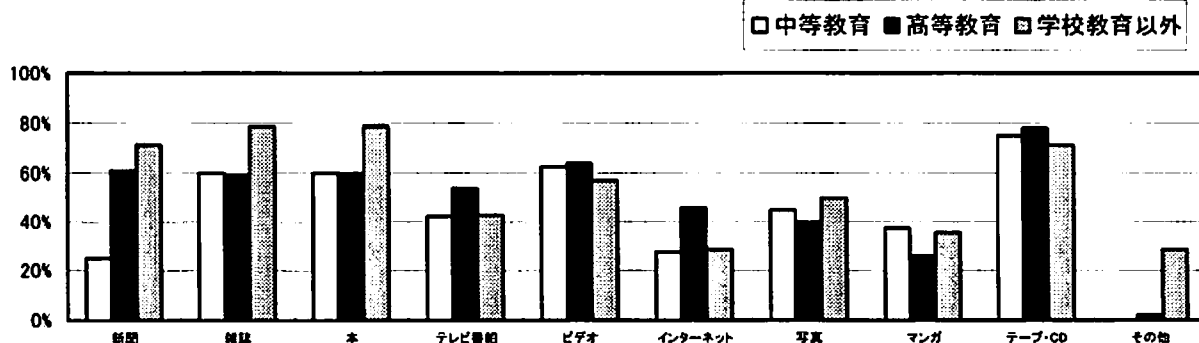


図4-30: 授業で使った生教材(項目別・台湾人)

日本人教師は図 4-31 のように、「新聞」「雑誌」「テープ・CD」などでは高等教育と学校教育以外の差が小さいが、「本」「テレビ番組」「ビデオ」は高等教育のほうが学校教育以外よりも比較的多く使用されている（本 66.7%・38.7%，テレビ 54.2%・25.8%，ビデオ 41.7%・19.4%）。逆に、「写真」は学校教育以外のほうがよく使われている（33.3%・54.8%）。

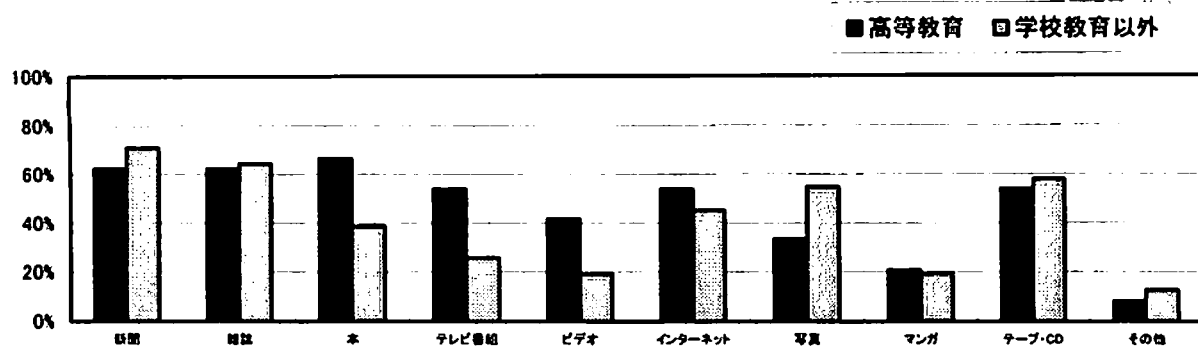


図4-31: 授業で使った生教材(項目別・日本人)

〈表 4-8 : 授業で使った生教材 (所属別)〉 () 内は%

順位	中等教育	高等教育		学校教育以外	
	台湾人	台湾人	日本人	台湾人	日本人
1位	テープ・CD (75.0)	テープ・CD (78.0)	本 (66.7)	雑誌/本 (78.6)	新聞 (71.0)
2位	ビデオ (62.5)	ビデオ (64.0)	新聞/雑誌 (62.5)		雑誌 (64.5)
3位	雑誌/本 (60.0)	新聞 (61.0)			新聞 /テープ・CD (71.4)

(複数回答可)

「その他」では、ごく少数であるが、「日本人の友人」(1名)、「実物」「VCD (ビデオCD)」(各1名)などが挙げられていた。

4-2-3. 生教材を使う理由

生教材を授業で使う理由について尋ねたところ、全体では「日本の事物や文化に触れさせるため」「学習者の興味・関心をひくため」「学習者に本物の日本語に触れさせるため」の順に回答者が多い。「日本語能力の向上には欠かせないため」は国籍による差が大きい(61.7%・33.9%)。

国籍・所属別では、台湾人教師の場合、中等教育・学校教育以外で「学習者の興味・関心をひくため」が最も高く(95.0%・100.0%)、高等教育では「日本の事物や文化に触れさせるため」が最も高い(92.0%)。

日本人教師の場合、高等教育で「学習者に本物の日本語に触れさせるため」「日本の事物や文化に触れさせるため」(各 70.8%) が、学校教育以外で「日本の事物や文化に触れさせるため」「学習者の興味・関心をひくため」(各 77.4%) が最も多い。「その他」には少数であるが、「生きている日本語を学ばせたいから」「人間性と感動というものを理解してほしい」「新聞で新しい日本語を習わせるため」(各 1 名) などが挙げられた (図 4-32, 4-33)。(教 1 Q2-1)

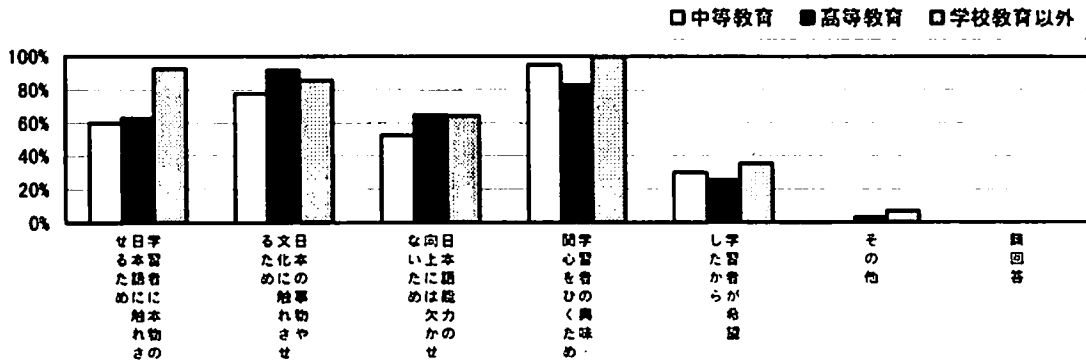


図4-32: 生教材を使う理由(項目別・台湾人) (複数回答可)

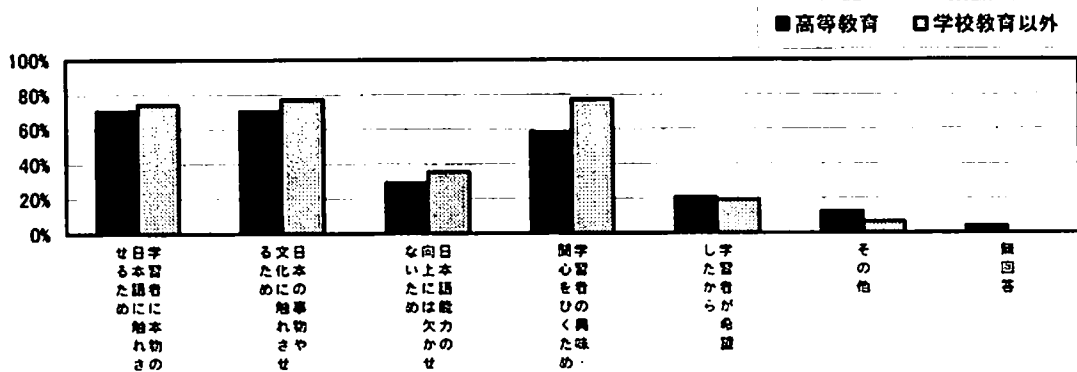


図4-33: 生教材を使う理由(項目別・日本人) (複数回答可)

4-2-4. 自作教材について

授業で何らかの自作教材を使ったことがある教師 182 名に、どのような自作教材を使ったかについて尋ねたところ、全体では①「練習問題などのプリント」(67.6%)、②「フラッシュカード」(61.5%) が比較的多かった。国籍別に見ると、台湾人教師は日本人教師よりも「読解用のプリント」(56.2%) や「音声教材(テープ)」(36.2%) を、日本人教師は「活動用補助シート」(71.2%)、「練習問題などのプリント」(82.7%) を台湾人教師より多く使っている (図 4-34)。(教 1 Q3)

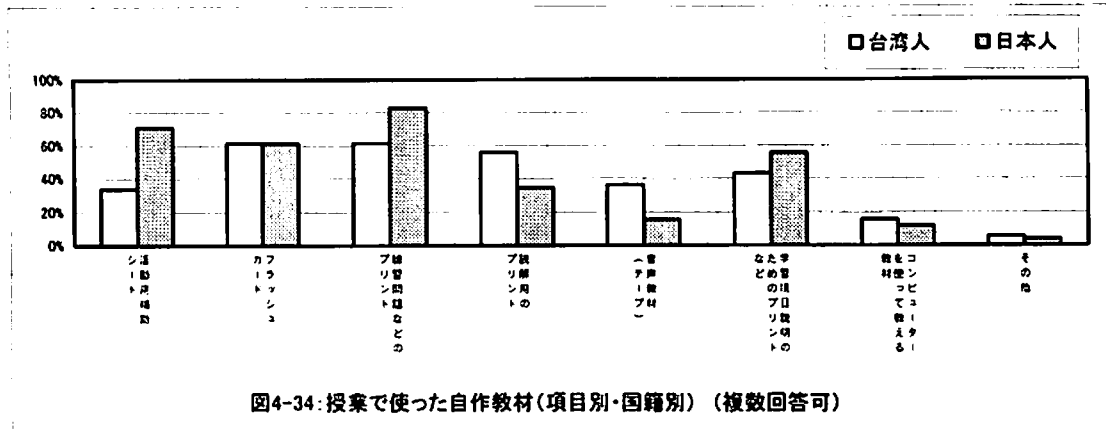


図4-34:授業で使った自作教材(項目別・国籍別) (複数回答可)

所属別に見ると、図 4-35 のように、台湾人教師は中等教育で「フラッシュカード」(73.5%)を高等教育・学校教育以外に比べてよく使っており、逆に、「読解用のプリント」「学習項目説明のためのプリント」などは他の機関に比べて使用率が下がる。学校教育以外では、「練習問題などのプリント」(83.3%)、「読解用のプリント」「学習項目説明のためのプリントなど」(75.0%・75.0%)を使う率が他機関よりも高い。

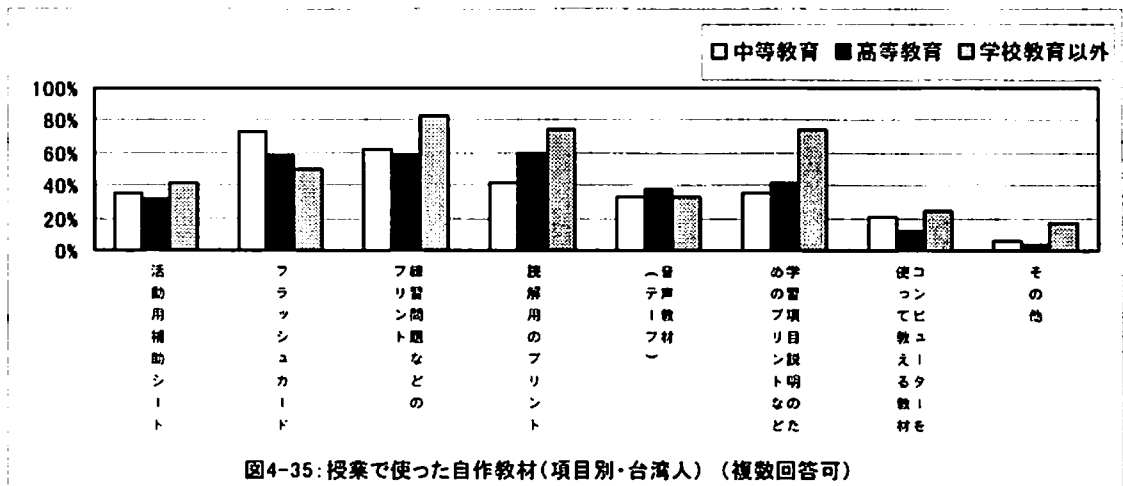


図4-35:授業で使った自作教材(項目別・台湾人) (複数回答可)

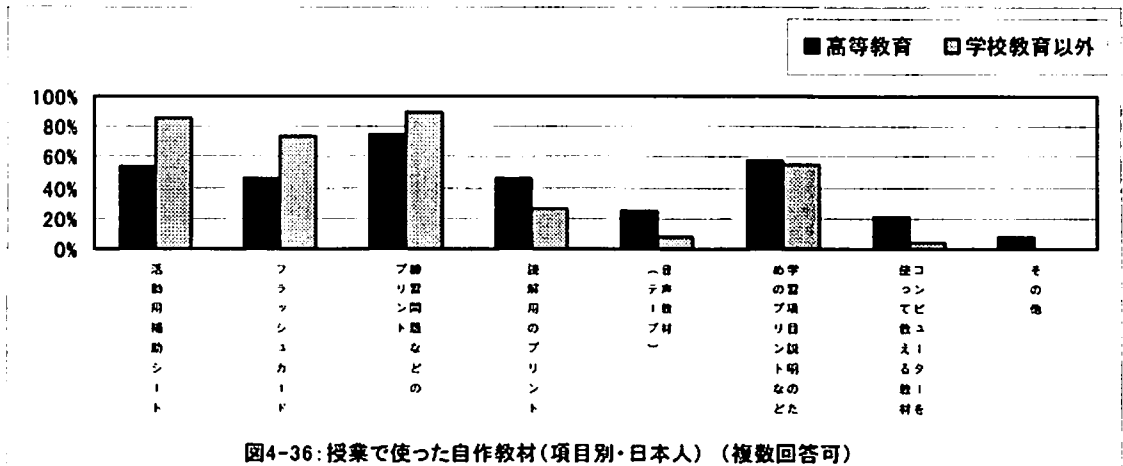


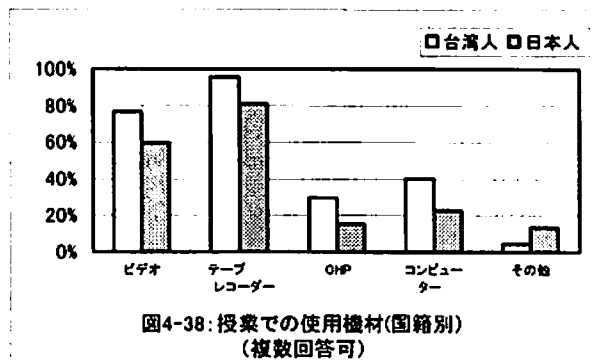
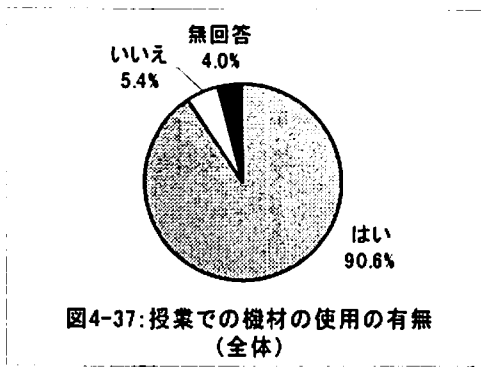
図4-36:授業で使った自作教材(項目別・日本人) (複数回答可)

日本人教師は、「フラッシュカード」の使用率が、高等教育よりも学校教育以外で高く、逆に、「読解用のプリント」は学校教育以外の方が低くなる。学校教育以外で、「音声教材（テープ）」（7.4%）「コンピュータを使って教える教材」（3.7%）を使う日本人は非常に少ない（図4-36）。

「その他」には少数であるが、「日本語能力検定試験向けの本（自著）」「日本の流行歌の歌詞」などが挙げられた。

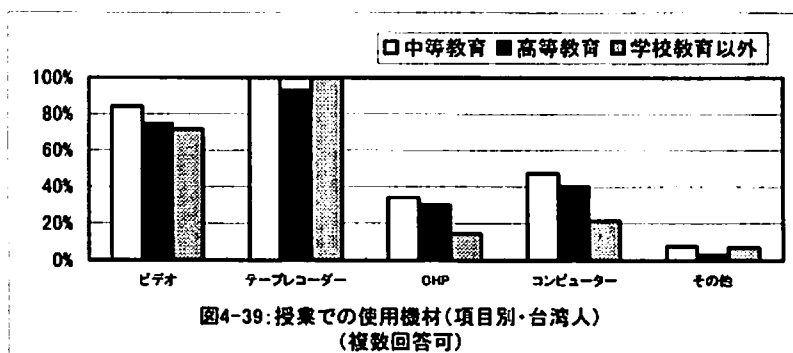
4-2-5. 授業での使用機材について

授業で何らかの機材を使うかどうか尋ねたところ、図4-37のように「はい」が90.6%を占める。



授業で使う機材の種類について尋ねたところ、図4-38のように、国籍に関わらず①「テープレコーダー」、②「ビデオ」が多い。国籍別に見ると、いずれの機材においても、台湾人教師の方が日本人教師よりも使用率が高いことがわかる。

(教I Q4)



所属別でみると、図4-39のように台湾人教師は所属に共通して、「テープレコーダー」「ビデオ」が多い。「コンピューター」や「OHP」は他の機材に比べ、使用率が低い、学校教育以外が中等・高等教育より特に低い。

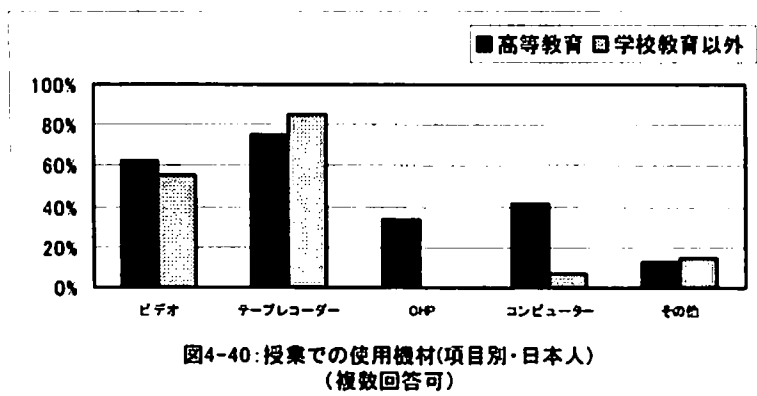


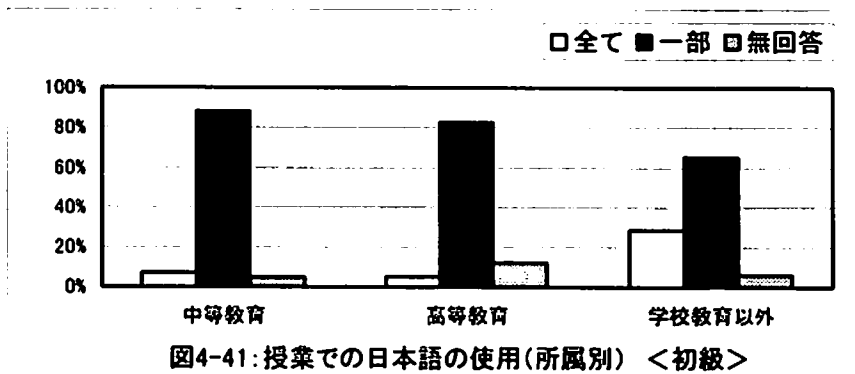
図 4-40 に見るように、日本人教師も、高等教育・学校教育以外に共通して、「テーブルコーダー」の使用率が最も高い。学校教育以外では、使用機材に偏りがあり、「コンピューター」(7.4%)の使用率が低く、「OHP」を使っている日本人はいない。

「その他」として、「DVD」(3名)、「CDプレーヤー」(1名)が挙げられていた。

4-2-6. 授業での日本語の使用

授業でどの程度日本語を使うかについて対象学習者のレベル別(初・中・上級)に尋ねた。以下、そのうちの、台湾人教師について述べる。 (教1Q5)

まず、初級レベルでは図 4-41 のように、所属を通じて、日本語の使用が「一部」である場合が最も多いが、学校教育以外の場合、「全て」も多い(28.6%)。授業で使う日本語は、具体的には図 4-42 のように「あいさつ」「例文や本文を読む」が多い。



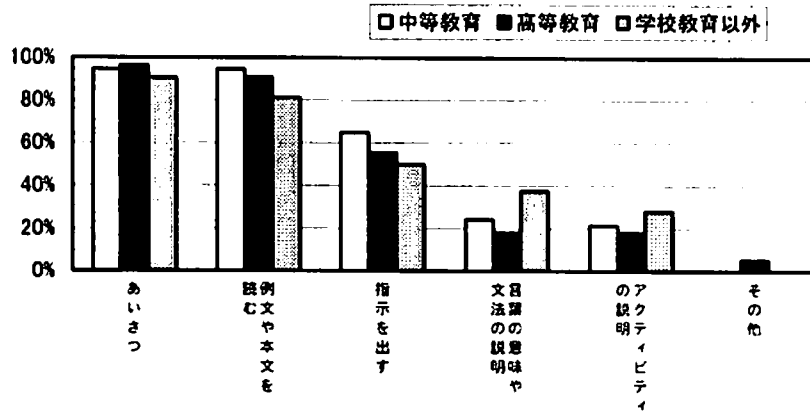


図4-42:授業での日本語の使用(項目別) <初級>

中級レベルでも、図4-43のように所属を通じて、「一部」が多いが、学校教育以外では、「全て」と「一部」が同数となっている。具体的な使用については図4-44のように、高等教育で「指示を出す」「言葉の意味や文法の説明」「アクティビティの説明」の割合が高くなる(81.9%・44.7%・44.7%)。学校教育以外でも「指示を出す」「アクティビティの説明」の割合が高くなっている(72.7%・45.5%)。

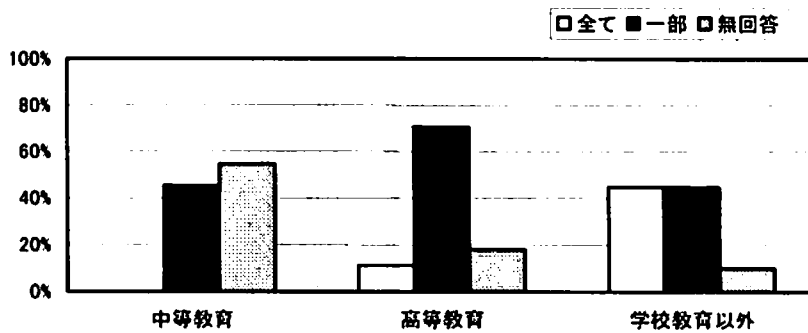


図4-43:授業での日本語の使用(所属別) <中級>

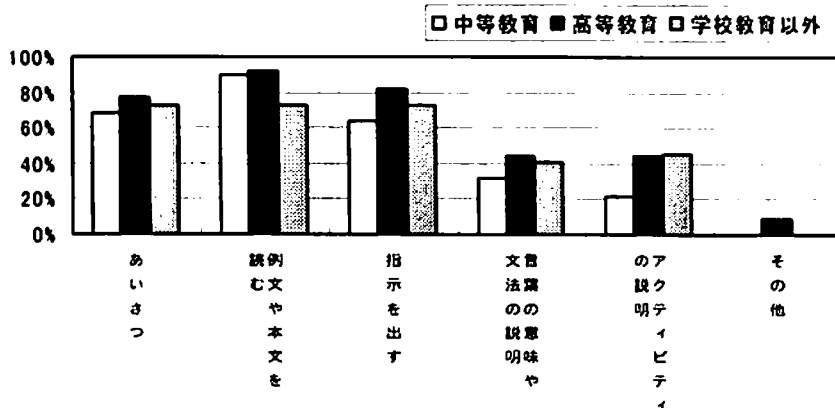


図4-44:授業での日本語の使用(項目別) <中級>

上級レベルでは図4-45のように中等教育・高等教育で「一部」の割合が高いが、学校教育以外では「全て」の割合の方が高い。具体的な使用については図4-46のように、項目による差が小さい。また、学校教育以外でどの項目についても比較的日本語使用率が高い。

「その他」としては少数であるが、「冗談を言う時、あるいは日本の現状を話すとき」「日本語で質問して、日本語で答えさせる」(各1名)などが挙げられた。

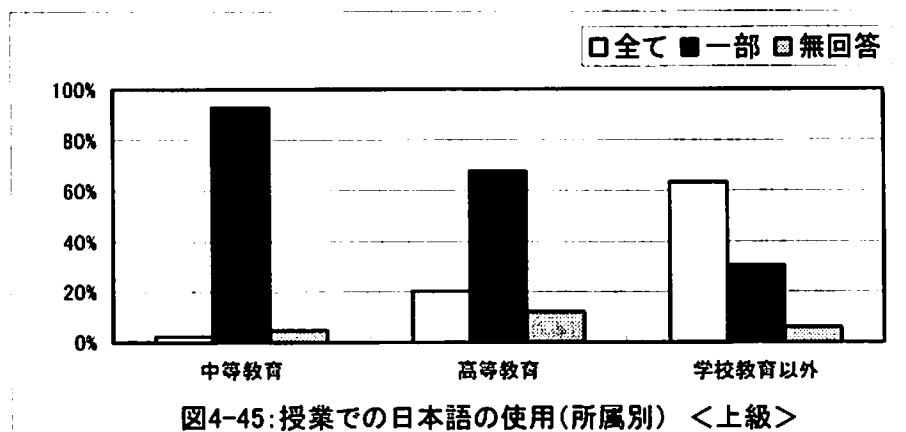


図4-45:授業での日本語の使用(所属別) <上級>

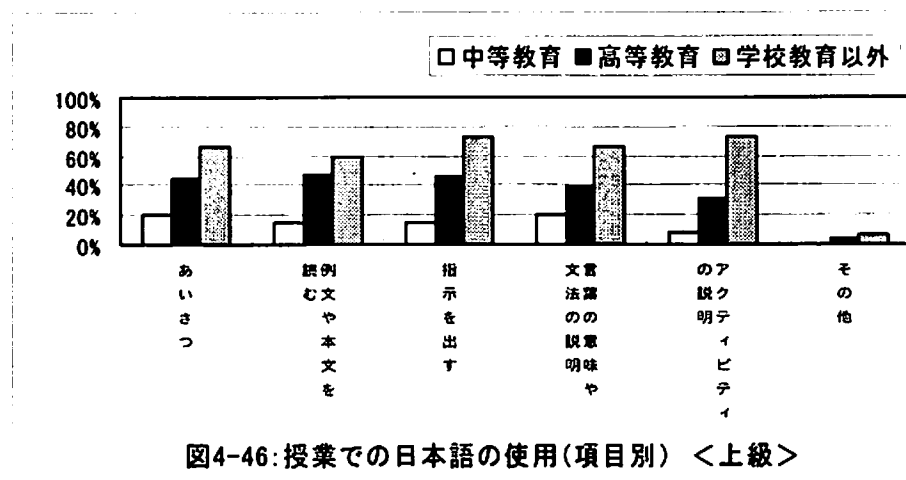


図4-46:授業での日本語の使用(項目別) <上級>

4-2-7. 授業準備に利用するもの

授業を準備するときに利用したり、相談したりするものについて尋ねたところ、図4-47、表4-9のように台湾人教師・日本人教師ともに「文法解説書」(80.0%・79.7%)が最も多かった。台湾人教師の場合、「教科書」(75.2%)、「日本語辞書」(70.3%)がそれに続き、日本人教師の場合、「他の日本人教師」(76.3%)、「教科書」(67.8%)が続く。国籍で比較すると、「日本語学習のための音声テープ」(50.3%・20.3%)、「日本語の歌」(66.7%・42.4%)、「他の台湾人教師」(49.1%・27.1%)において、台湾人教師の方が日本人教師よりも利用率が高い。「その他」では、少数であるが「日本人の知人・友人」(3名)「大学時代の先生」「日本語雑誌」「交流協会」(各1名)などが挙げられた。 (教106)

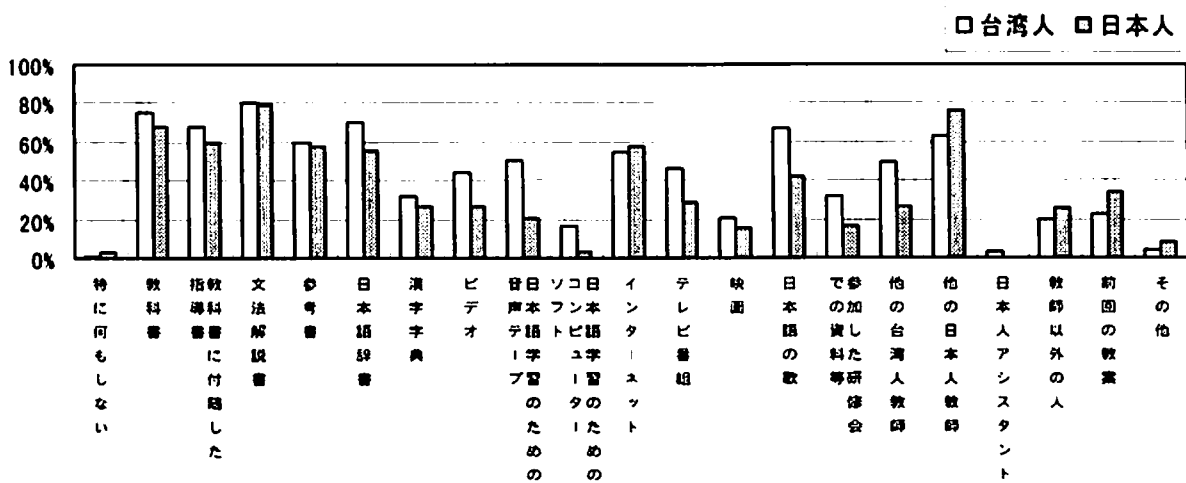


図4-47: 授業準備に利用するもの(全体) (複数回答可)

〈表4-9: 授業準備に利用するもの(全体)〉()内は%

順位	台湾人	日本人
1位	文法解説書 (80.0)	文法解説書 (79.7)
2位	教科書 (75.2)	他の日本人教師 (76.3)
3位	日本語辞書 (70.3)	教科書 (67.8)

(複数回答可)

所属別に見ると、図4-48・4-49のようになり、上位3位までを表4-10に示した。

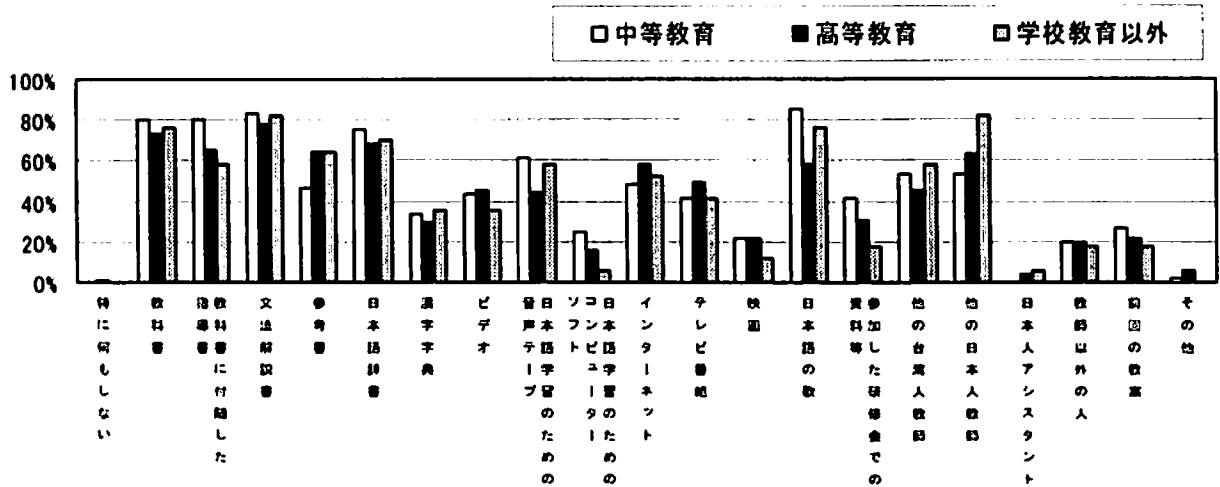


図4-48:授業準備に利用するもの(項目別・台湾人)(複数回答可)

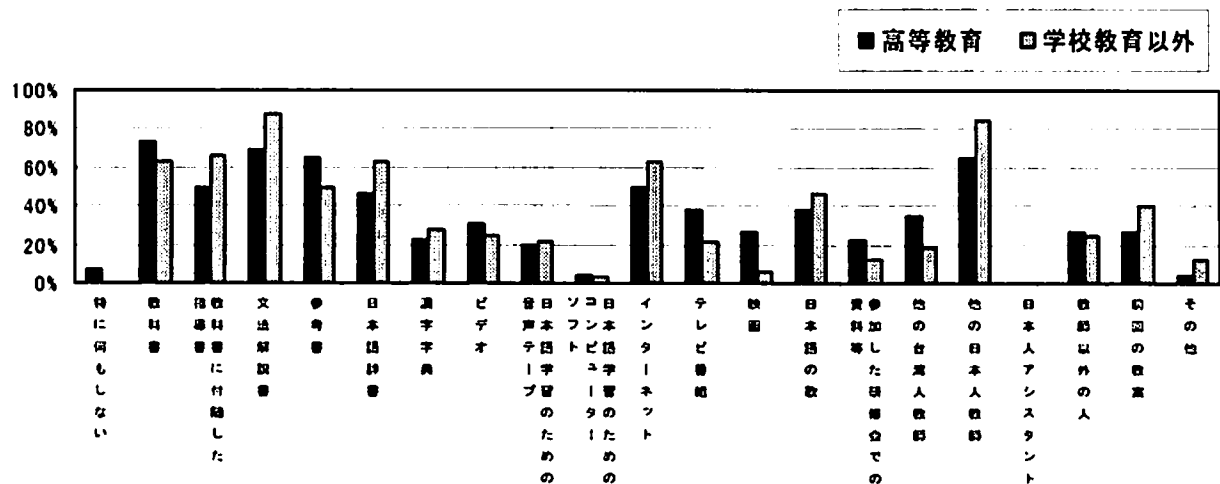


図4-49:授業準備に利用するもの(項目別・日本人)(複数回答可)

〈表4-10:授業準備に利用するもの(所属別)〉()内は%

順位	中等教育	高等教育		学校教育以外	
	台湾人	台湾人	日本人	台湾人	日本人
1位	日本語の歌 (85.4)	文法解説書 (78.5)	教科書 (73.1)	文法解説書/ 他の日本人教	文法解説書 (87.5)
2位	文法解説書 (82.9)	教科書 (72.9)	文法解説書 (69.2)	師 (82.4)	他の日本人教 師 (84.4)
3位	教科書/教科 書に付随した 指導書(80.5)	日本語辞書 (68.2)	参考書/他の 日本人教師 (65.4)	教科書/日本 語の歌 (76.5)	教科書に付随 した指導書 (65.6)

(複数回答可)

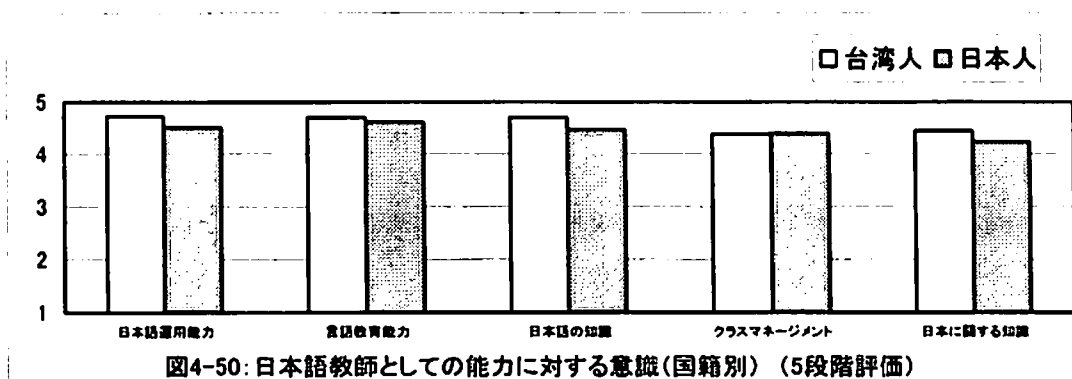
図4-48のように中等教育の台湾人教師の場合、「教科書に付随した指導書」(80.5%)、「参加した研修会での資料等」(41.5%)は他の機関に比べ、よく利用されており、逆に「参考書」(46.3%)「他の日本人教師」(53.7%)の利用率は他の機関に比べて低い。台湾人教師の中でも、「日本語学習のための音声テープ」(44.9%)「日本語の歌」(57.9%)においては、中等教育・学校教育以外に比べ高等教育の教師の利用率が低い。学校教育以外で、「他の日本語教師」(82.4%)は最も利用率が高いが、これは他の機関に比べても目立って高い。

一方、日本人教師は、図4-49のように、高等教育で「教科書」(73.1%)が最も利用率が高いのに比べ、学校教育以外では、「教科書」は62.5%の利用率であり、「文法解説書」(87.5%)「他の日本人教師」(84.4%)「教科書に付随した指導書」(65.6%)よりも利用率が低い。「他の台湾人教師」の利用率は全体的に低いが、高等教育のほうが学校教育以外よりも高い(34.6%・18.8%)。また、「映画」は学校教育以外ではあまり使われていないが、それに比べると、高等教育ではよく使われている(26.9%・6.3%)。

4-2-8. 日本語教師としての能力に対する意識

日本語教師としてどのような能力が重要であるかについて「非常に重要(5)」～「重要ではない(1)」の5段階のスケールで尋ねたところ、各項目の平均値は図4-50のようになる。国籍別に上位3位までを表4-11に示したが、台湾人教師の場合、①「日本語運用能力」、②「言語教育能力」、③「日本語の知識」、日本人教師の場合、①「言語教育能力」、②「日本語運用能力」、③「日本語の知識」の順に高い。項目間による差は小さく、いずれも大差なく重視されている。

「その他」に記入していた教師は29人いた。台湾人教師から「情意的側面(心・根性・教育に対する熱意・人柄・活発さ)」(6名)「学生を理解する能力」(2名)「教材を選ぶ能力・教材を批判したり調整したりする能力」(2名)「伝達・コミュニケーション能力」(1名)などが挙げられていた。日本人教師からは「情意的側面(情熱・人柄・人間性・努力)」(6名)「その国に対する知識・理解」「語学力(学習者の母語・共通言語)」(各2名)「最近の日本事情」(1名)などが挙げられた。(教1)Q7)



〈表 4-11：日本語教師としての能力に対する意識〉

順位	台湾人	日本人
1位	日本語運用能力 (4.73)	言語教育能力 (4.62)
2位	言語教育能力 (4.71)	日本語運用能力 (4.52)
3位	日本語の知識 (4.70)	日本語の知識 (4.47)

(5段階評価平均値)

4-2-9. 日本語教師の資質・能力向上のためにするもの

日本語教師の資質・能力向上のために、何をどの程度しているか、7つの項目について尋ねた。「よくする」「時々する」「ほとんどしない」の選択肢のうち、「よくする」「時々する」を選んだ割合は図4-51に示したとおりである。台湾人教師・日本人教師とも「参考書や専門書で勉強する」「他の教師と話す」「異なる指導法・教材を検討し、経験する」が高く、逆に「他の教師の授業を見学する」「自分の授業を見てもらう」が低い。

〈教I Q8〉

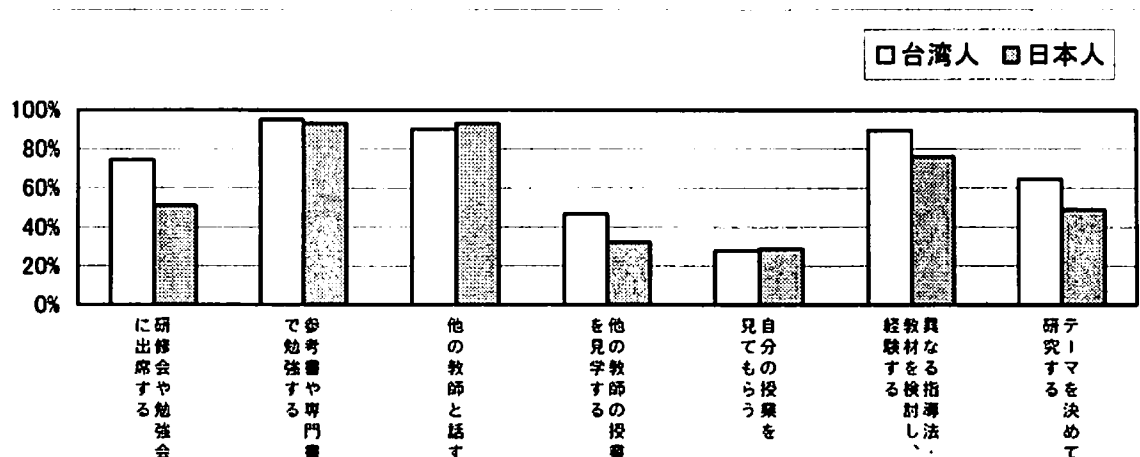


図4-51: 日本語教師の資質・能力向上のためにするもの(国籍別)

比較的低い項目について、「しない」と答えた教師にその理由を選択肢の中から選んでもらったところ、国籍・所属に共通し、「他の教師の授業を見学する」と「自分の授業を見てもらう」については、「忙しい」「機会がない」「現在の職場では問題がない」が多かった。授業見学をしない理由として、自由記述には「日本語教師が1人しかいない」「他の教師の迷惑になる」「学校にそういう習慣・文化がない」等があった。「テーマを決めて研究する」では「忙しい」「興味がない」「現在の職場では問題がない」が多かった。

日本語教師の資質・能力向上のため、他に役立つものとしては、台湾人教師から「日本語のテレビ番組や映画を見る」「新しい情報の収集や共有」「日本人と付き合い」「日本への訪問・研修」、日本人教師からは「学習者の母語を学ぶ」「活動を通じ、学習者を理解する」「一般的な社会人・日本人とつきあう」「コミュニケーション能力の向上」等が多く挙げられた。

4-2-10. コンピュータ利用の有無及び方法

コンピュータを利用しているかどうか尋ねたところ、台湾人教師の90.9%、日本人教師の93.2%が利用していると答えた。利用者に対し、その利用方法について尋ねた結果を図4-52に、上位3項目の利用率を表4-12に示す。 (教109)

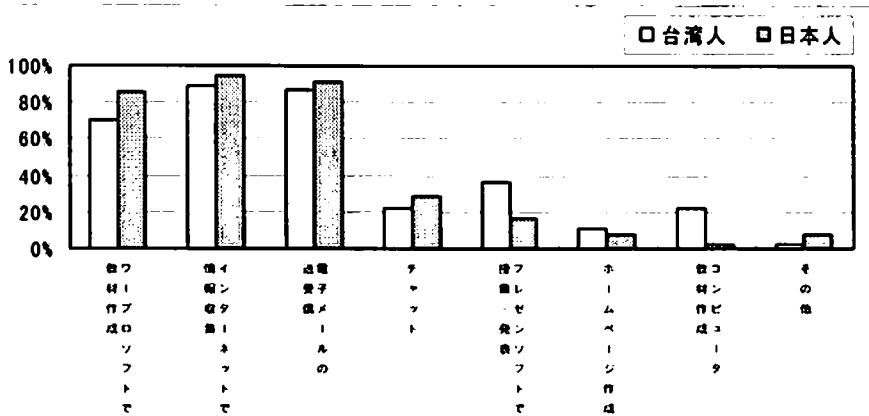


図4-52: コンピュータの利用方法(国籍別)

〈表4-12: コンピュータの利用方法〉()内は%

順位	台湾人	日本人
1位	インターネットを利用して、情報を収集する (89.3)	インターネットを利用して、情報を収集する (94.5)
2位	電子メールを送受信する (87.3)	電子メールを送受信する (90.9)
3位	ワープロソフトを使って教材等を作成する (70.0)	ワープロソフトを使って教材等を作成する (85.5)

(複数回答可)

国籍に関わらず「インターネットで情報収集」「電子メールの送受信」「ワープロで教材作成」の割合が高く、その他の方法による利用率は低い。

所属別では、全体的な傾向はあまり変わらないが、台湾人教師は「チャット」「プレゼンテーションソフトで授業・発表」において、所属による差が大きい。また、「プレゼンテーションソフトで授業・発表」(47.4%)をする教師が比較的多いのが目立つ(図4-53)。日本人教師は高等教育と学校教育以外の差があまりないが、「プレゼンテーションソフトで授業・発表」(6.9%)の割合が比較的低い(図4-54)。

「その他」では、台湾人教師から「試験問題作成」(3名)「成績と作品の管理」「学生への賞状作成」「研究」(各1名)、日本人教師から「辞典の利用」(2名)「編集ソフトの利用」「会話ビデオ等の編集」などが挙げられた。

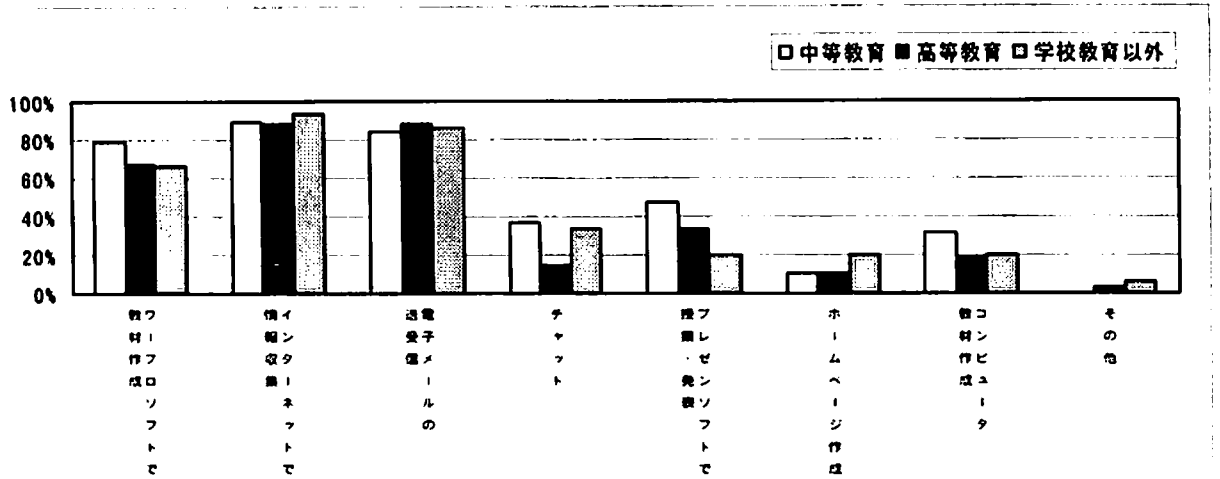


図4-53: コンピュータの利用方法(項目別・台湾人) (複数回答可)

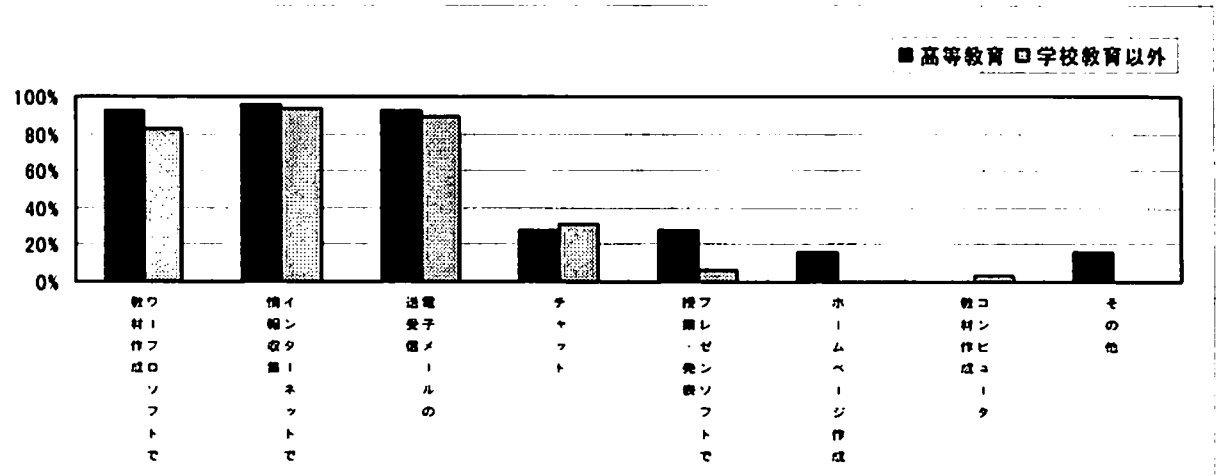


図4-54: コンピュータの利用方法(項目別・日本人) (複数回答可)

4-2-11. 日本語教育へのコンピュータ利用の必要性

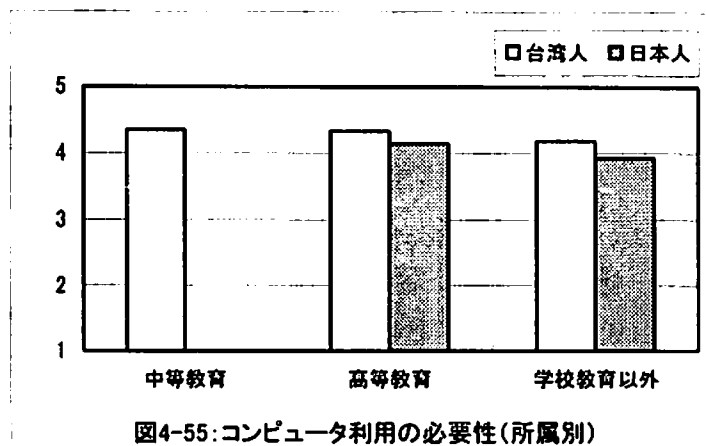


図4-55: コンピュータ利用の必要性(所属別)

日本語教育のためにコンピュータを利用することは必要かどうかについて5段階(「とても必要(5)」～「全く必要ない(1)」)で尋ねた。図4-55のように国籍・所属に関わらず、必要だという意識が強い。なお、中等教育の日本人は回答者が1人のため、グラフに含めていない。(教I Q10)

4-2-12. 日本語教師の資質・能力向上のために充実を希望するもの

今後日本語教師の資質・能力の向上のために充実を希望するものについて尋ねたところ、図4-56のようになり、国籍別の上位3項目は表4-13のようになった。共通して「日本人との交流」(台湾人教師73.3%・日本人教師57.6%)の希望が最も高く、「Web日本語学習プログラム」(台湾人教師20.0%・日本人教師1.7%)の希望は低い。国籍別に見ると、「教師間のネットワーク」以外の全ての項目において、台湾人教師の方が日本人教師よりも希望する割合が高い。「日本語学習のための音声テープ」「日本語学習のためのコンピュータソフト」「日本人家庭への訪問・ホームステイ」「訪日研修」等の項目において、その傾向が特に強い。

(教I Q11)

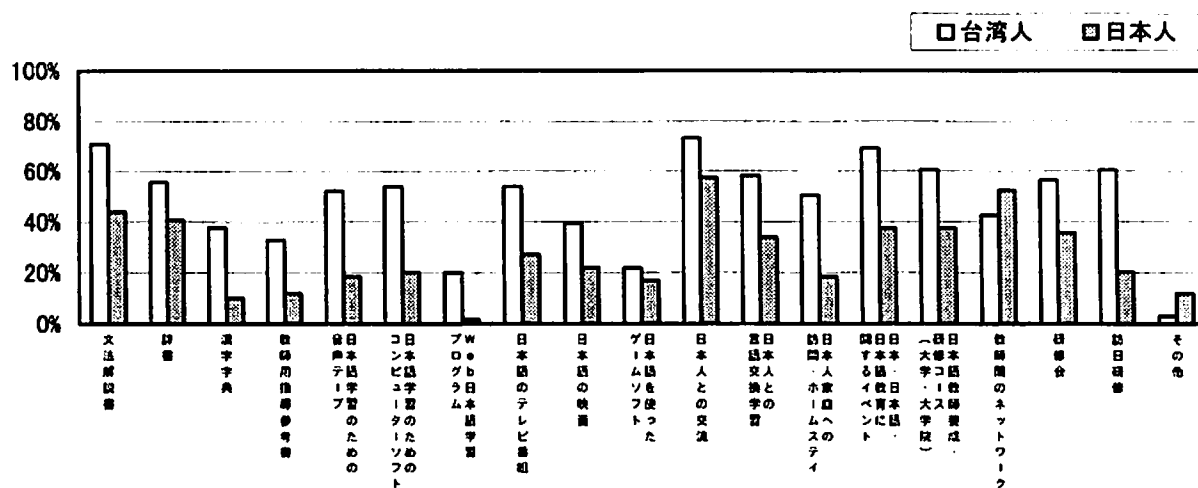


図4-56: 充実を希望するもの(国籍別) (複数回答可)

〈表 4-13：充実を希望するもの〉（ ）内は%

順位	台湾人	日本人
1位	日本人との交流 (73.3)	日本人との交流 (57.6)
2位	文法解説書 (70.9)	教師間のネットワーク (52.5)
3位	日本・日本語・日本語教育に関するイベント (69.1)	文法解説書 (44.1)

(複数回答可)

「その他」としては少数であるが、台湾人教師からは、「日本文化についての学習」「姉妹校提携」など、日本人教師からは、「文化紹介のビデオ」(2人)「掛図(日本地図、五十音表)」(2人)「映像教材(初級用ドラマ、アニメ)」(2人)「学位(博士)取得機関」「台湾人教師向けの教授法勉強会」「日本人教師向けのクラスコントロールの勉強会」「写真集(日本人の生活)」「日本語教育に関する理論書の中国語版」(各1人)などが挙げられている。台湾人・日本人教師の所属別に見ると、以下のようになる。

台湾人教師

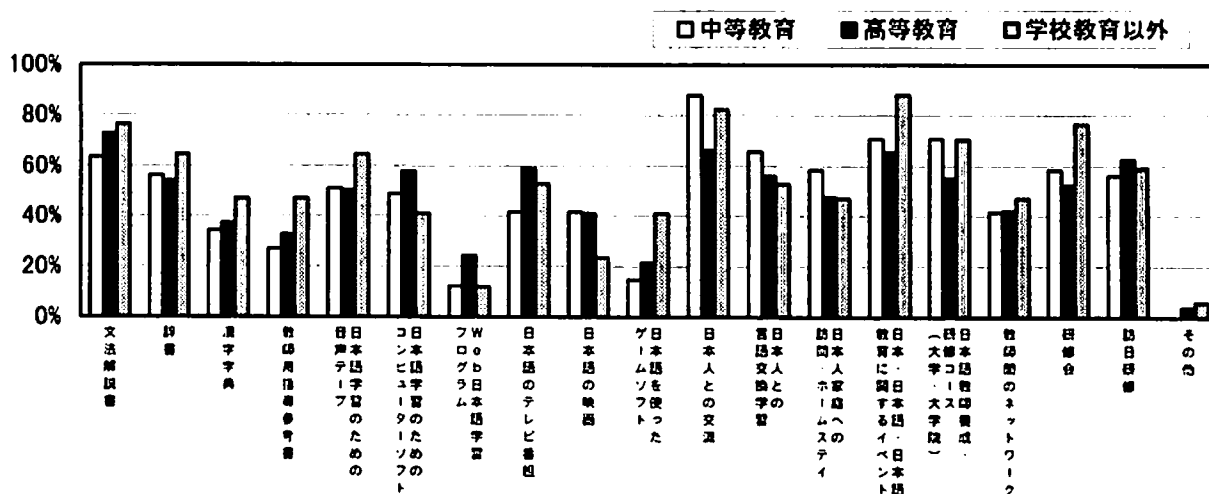


図4-57: 充実を希望するもの(所属別・台湾人) (複数回答可)

〈表 4-14：充実を希望するもの(台湾人)〉()内は%

順位	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人との交流 (87.8)	文法解説書 (72.9)	日本・日本語・日本語教育に関するイベント (88.2)
2位	日本・日本語・日本語教育に関するイベント/日本語教師養成・研修コース(大学・大学院) (70.7)	日本人との交流 (66.4)	日本人との交流 (82.4)
3位		日本・日本語・日本語教育に関するイベント (65.4)	文法解説書/研修会 (76.5)

(複数回答可)

所属別の上位3項目については表 4-14 に示した。高等教育で「日本人との交流」(66.4%)は第2位で

あるが、これは他の機関に比べると低い割合である。また、「日本語教師養成・研修コース(大学・大学院)」(55.1%)も他の機関に比べると低い。また、学校教育以外は、他の機関に比べて「日本語を使ったゲームソフト」(41.2%)「日本・日本語・日本語教育に関するイベント」(88.2%)「研修会」(76.5%)の割合が高い。

日本人教師

図4-58のように、「辞書」「日本人との言語交換学習」「日本語教師養成・研修コース(大学・大学院)」「訪日研修」において、所属による差が見られ、いずれも高等教育の方が学校教育以外よりも比較的多い。また、上位3項目を表4-15に示したが、第1位と第2位は、高等教育・学校教育以外に共通である。

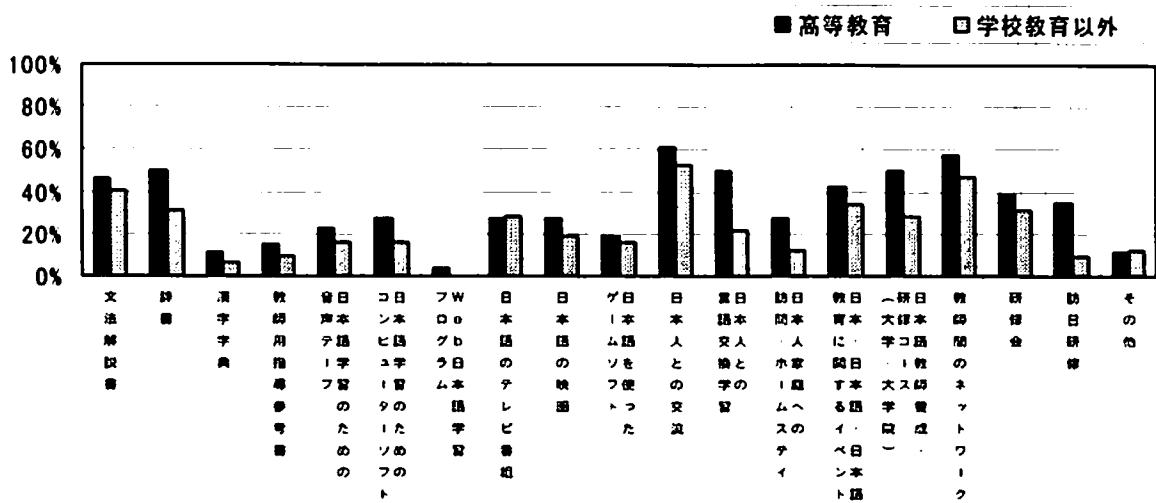


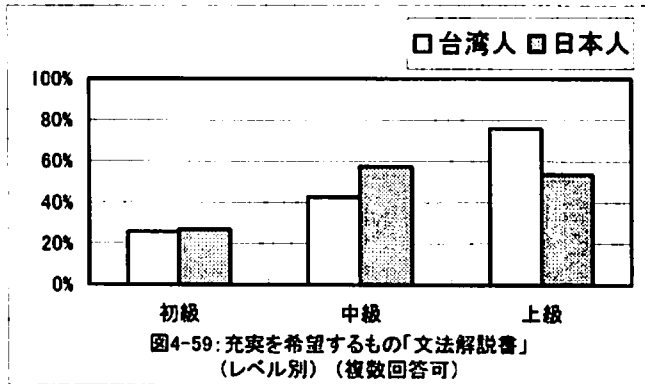
図4-58: 充実を希望するもの(所属別・日本人) (複数回答可)

<表 4-15: 充実を希望するもの(日本人)> ()内は%

順位	高等教育	学校教育以外
1位	日本人との交流 (61.5)	日本人との交流 (53.1)
2位	教師間のネットワーク(57.7)	教師間のネットワーク(46.9)
3位	辞書／日本人との言語交換学習／日本語教師養成・研修コース(大学・大学院)(50.0)	文法解説書 (40.6)

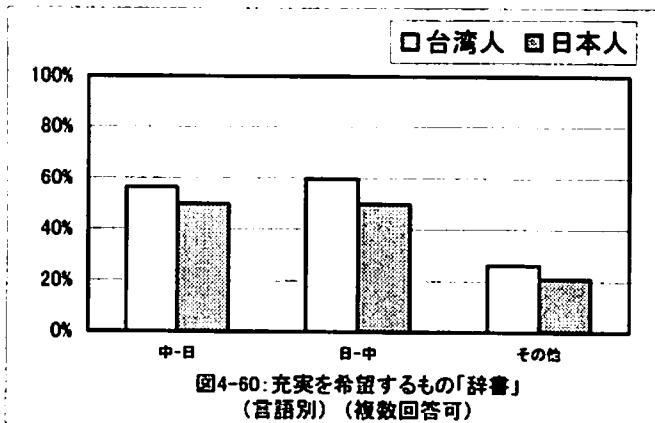
(複数回答可)

4-2-12-1. 充実を希望するもの：文法解説書



今後充実を希望するものとして「文法解説書」を挙げた教師に対し、そのレベルについて尋ねたところ、図4-59のように日本人教師も台湾人教師も初級より中・上級のニーズが高い。特に、台湾人教師は上級のニーズが高い。所属別では、上級を求める教師が中等教育(55.6%)・学校教育以外(53.9%)に比べ、高等教育(82.2%)に多い。 (教I Q11)

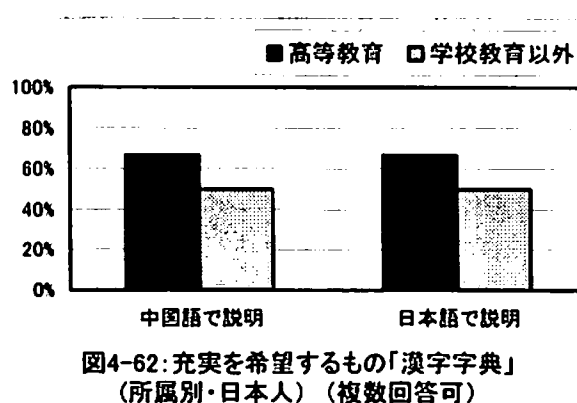
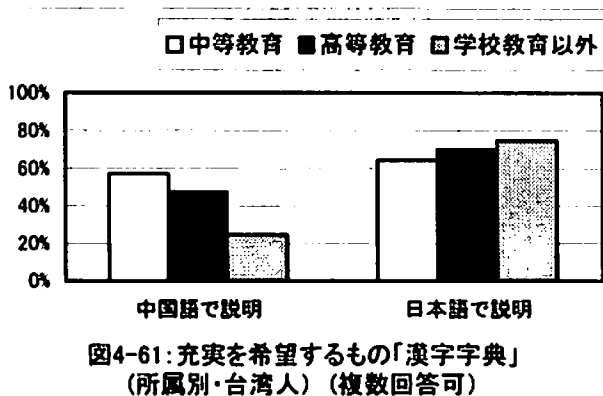
4-2-12-2. 充実を希望するもの：辞書



今後充実を希望するものとして「辞書」を挙げた教師に対し、その種類について尋ねたところ、図4-60のように「中-日」「日-中」において、国籍による違いはあまりない。その他としては「日-日」辞典、「外来語」辞典の希望が多かった。 (教I Q11)

4-2-12-3. 充実を希望するもの：漢字字典

今後充実を希望するものとして「漢字字典」を挙げた教師に対し、その使用言語について尋ねたところ、図4-61のように台湾人教師はいずれの機関でも、「日本語で説明」を希望する割合の方が高い。日本人教師は図4-62のように、「中国語」「日本語」を希望する者の割合に差はほとんどない。〈教I Q11〉



4-2-12-4. 充実を希望するもの：教師用指導参考書

図4-56にあるように、全体的には、充実希望項目の優先順位は低いですが、希望する教師から具体的にどのようなものを希望するのか自由記述で尋ねたところ、中等教育の台湾人教師から、「(文法、語彙等の)指導書」が多く挙げられ、高等教育の台湾人教師からは「教室活動集」「会話、聴解に関するもの」「(文法、語彙等の)指導書」が多く挙げられた。〈教I Q11〉

4-2-12-5. 充実を希望するもの：コンピュータソフト

今後充実を希望するものとして「日本語学習のためのコンピュータソフト」を挙げた教師に対し、その内容について尋ねた。図4-63のように、台湾人教師も日本人教師も「作文」を希望する率が最も高い。表4-16のように、台湾人教師の場合、高等教育で最も希望が多いのは「作文」であるのに対し、中等教育では「発音」である。「その他」としては、台湾人教師から「聴解」「日本文化・事情紹介」「インタラクティブなもの」などが挙げられた。〈教I Q11〉

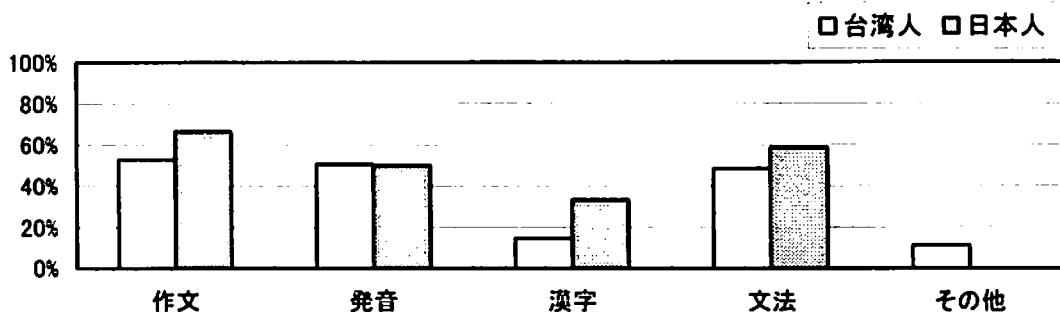


図4-63: 充実を希望するもの「コンピュータソフト」(内容別) (複数回答可)

〈表 4-16: 充実を希望するもの「コンピュータソフト」(所属別・回答数)〉

項目	台湾人 (89人)				日本人 (12人)		
	合計 (89人)	中等教育 (20人)	高等教育 (62人)	学校教育以外 (7人)	合計 (12人)	高等教育 (7人)	学校教育以外 (5人)
作文	47	7	37	3	8	6	2
発音	45	15	28	2	6	3	3
漢字	13	2	9	2	4	2	2
文法	43	6	32	5	7	3	4
その他	10	1	7	2	0	0	0

(複数回答可)

4-2-12-6. 充実を希望するもの: Web 日本語学習プログラム

〈表 4-17: 充実を希望するもの「Web 日本語学習プログラム」(所属別・回答数)〉

項目	台湾人 (36人)				日本人 (1人)		
	合計	中等教育	高等教育	学校教育以外	合計	高等教育	学校教育以外
希望	32	4	26	2	1	1	0
強く希望	4	1	3	0	0	0	0
合計	36	5	29	2	1	1	0

全体では、Web 日本語学習プログラムの希望は低いですが、希望する教師に具体的にどのようなものを希望するのか自由記述で尋ねた。表 4-17 のように、高等教育の台湾人教師からの希望が多くみられる。具体的には、台湾人教師から「会話 (通訳向けで何かテーマがあるもの等)」(3名)「インタラクティブなもの」「練習」(各 2名)。また、日本人教師から「模擬授業のビデオ」(1名)が挙げられた。

〈教 I Q11〉

4-3. 日本語を使っているやりとりについて（以下、台湾人教師対象）

ここでは、台湾人教師（165名）のみを対象として、日本語の授業以外で教師が実際に日本語を使っているようなやりとりをしているのか、やりとりの有無、相手、頻度、手段、内容、理由等について尋ねた結果をまとめる。なお、本節で扱う項目は「学習者」と「教師」の比較のため3-2で学習者に尋ねた項目と一致させており、その比較・分析結果については別途、報告する。具体的な項目等は巻末資料の調査票を参照されたい。

4-3-1. 日本語を使っているやりとりの有無

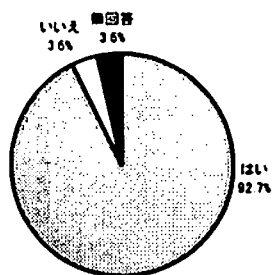


図4-64: 日本語を使っているやりとりの有無 (全体)

日本語の授業以外での日本語でのやりとりについては、全体で153名(92.7%)が「はい」、6名(3.6%)が「いいえ」と答え、ほとんどの教師が何らかのやりとりをしている(図4-64・65, 表4-18)。

〈教ⅡQ13〉

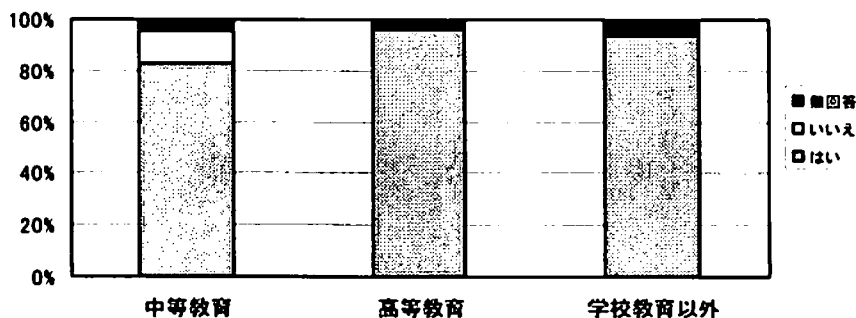


図4-65: 日本語を使っているやりとりの有無(所属別)

〈表4-18: 日本語を使っているやりとりの有無〉 ()内は%

		全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	はい	153 (92.7)	34 (82.9)	103 (96.3)	16 (94.1)
	いいえ	6 (3.6)	5 (12.2)	1 (0.9)	0 (0.0)
	無回答	6 (3.6)	2 (4.9)	3 (2.8)	1 (5.9)

4-3-2. やりとりの相手とその方法

やりとりの相手は、表 4-19・図 4-66・表 4-20 のとおりである。全体的に、①「日本語の教師」(127 名)、②「知り合い」(95 名)が多く、所属を通じてこの順位は変わらない。続く 3 位は、中等教育・高等教育では、「日本の関係機関の人」だが、学校教育以外では「日本語以外の教師/日本人留学生」となった。高等教育の場合、「日本語以外の教師」「日本人留学生」も多く選択されている。数は少ないが、「その他」としては、「日本人の友人」(4 名)「日系企業の人」(2 名)などが挙げられた。 (教ⅡQ13-1)

〈表 4-19：やりとりの相手〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1 位	日本語の教師 (83.0)	日本語の教師 (73.5)	日本語の教師 (85.4)	日本語の教師 (87.5)
2 位	知り合い (62.1)	知り合い (61.8)	知り合い (63.1)	知り合い (56.3)
3 位	日本の関係機関の人 (45.8)	日本の関係機関の人 (35.3)	日本の関係機関の人 (49.5)	日本語以外の教師/ 日本人留学生 (35.3)

(複数回答可)

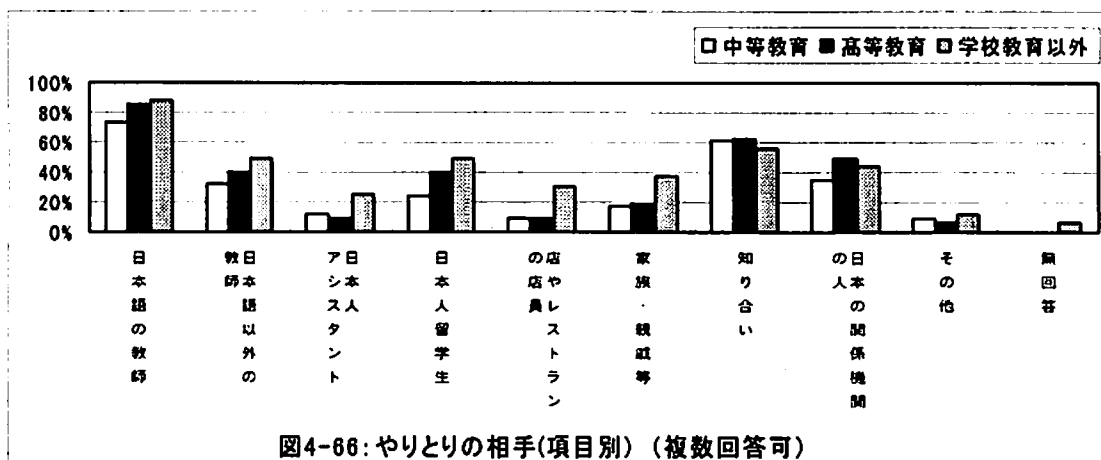


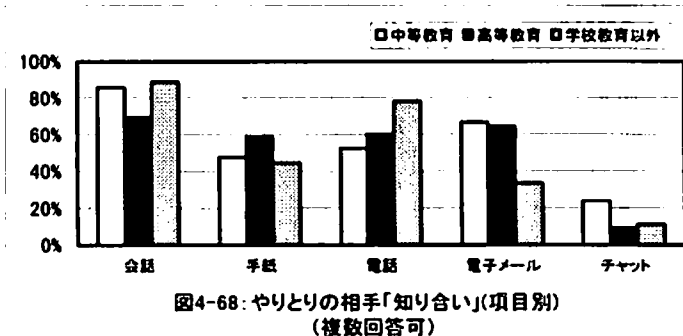
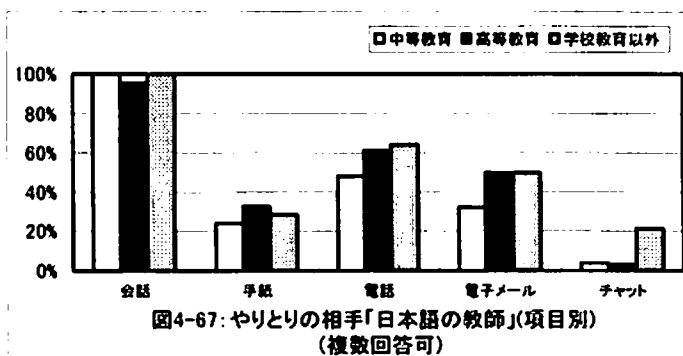
図 4-66: やりとりの相手(項目別) (複数回答可)

〈表 4-20：やりとりの相手〉(回答数)

相手	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語の教師	127	25	88	14
日本語以外の教師	60	11	41	8
日本人アシスタント	17	4	9	4
日本人留学生	57	8	41	8
店やレストランの店員	17	3	9	5
家族・親戚等	31	6	19	6
知り合い	95	21	65	9
日本の関係機関の人	70	12	51	7
その他	12	3	7	2
無回答	1	0	0	1

(複数回答可)

やりとりの方法は全体的にやりとりの多い上位2位までについて所属別にみる。「日本語の教師」が相手の場合は、図4-67のように共通して直接会っての「会話」(96.9%)が多い。「知り合い」が相手の場合は、図4-68のように、高等教育では「会話」「手紙」「電話」「電子メール」がほぼ同程度用いられているが、中等教育・学校教育以外では、用いられる手段に差がある。中等教育では、「会話」(85.7%)について、「電子メール」(66.7%)がよく用いられ、学校教育以外では、「会話」(88.9%)に続くものは「電話」(77.8%)であり、「電子メール」(33.3%)は比較的少ない。



4-3-3. 最もよくやりとりをする相手

4-3-2の日本語でやりとりをする相手の中でも、最もよくやりとりをする相手について尋ねた結果は、表4-21・図4-69のとおりである。全体的に①「日本語の教師」(48.4%)、②「知り合い」(22.9%)が多く、4-3-2とほぼ同様の結果になっている。 (教ⅡQ13-2①)

〈表4-21: 最もよくやりとりをする相手〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本語の教師 (48.4)	日本語の教師 (38.2)	日本語の教師 (52.4)	日本語の教師 (43.8)
2位	知り合い (22.9)	知り合い (32.4)	知り合い (20.4)	知り合い (18.8)
3位	日本の関係機関の人 (5.9)	日本の関係機関の人 (11.8)	家族・親戚等 (4.9)	日本人留学生 (12.5)

(複数回答可)

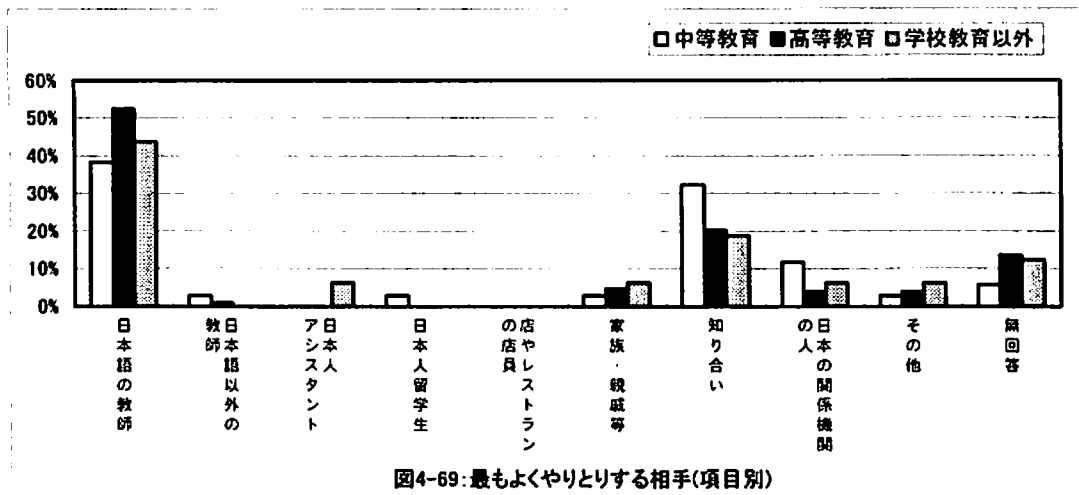


図4-69: 最もよくやりとりする相手(項目別)

以下、4-3-11まで、この最もやりとりをする相手を対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよくやりとりする相手ごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して、別途、詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

4-3-4. やりとりをする相手の国籍 (最もよくやりとりをする相手)

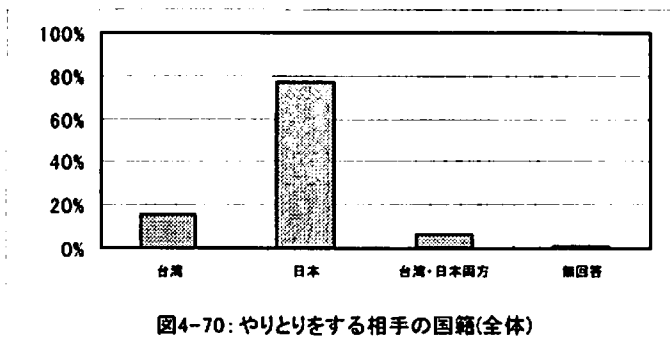


図4-70: やりとりをする相手の国籍(全体)

最もよくやりとりをする相手の国籍は、図4-70のように「日本人」が77.1%と多い。所属による差はあまりみられない。

(教ⅡQ13-2②)

4-3-5. やりとりをする相手の性別 (最もよくやりとりをする相手)

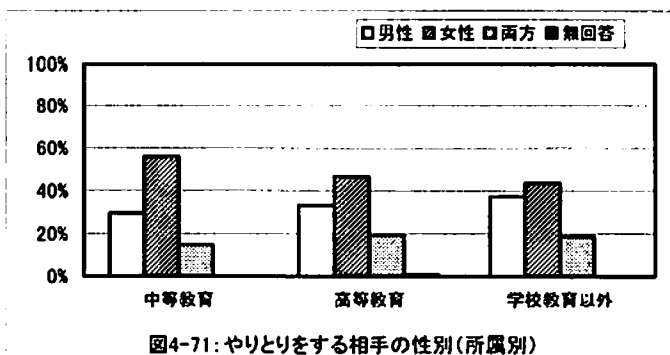
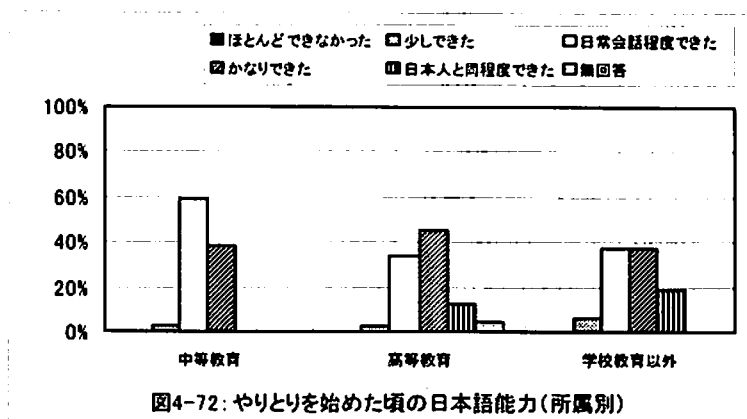


図4-71: やりとりをする相手の性別(所属別)

最もよくやりとりをする相手の性別は、全体で48.4%と「女性」が多く、中等教育において、その傾向が最も強い。

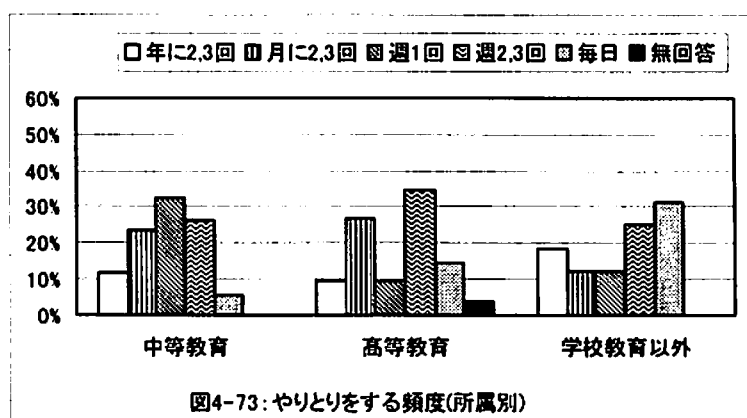
(教ⅡQ13-2③)

4-3-6. やりとりを始めた頃の日本語力（最もよくやりとりをする相手）



やりとりをするようになった頃の日本語力について 5 段階で自己評価してもらったところ、図 4-72 のように中等教育では「日常会話程度できた」(58.8%)、高等教育では「かなりできた」(45.6%)・学校教育以外では「日常会話程度できた」「かなりできた」(共に 37.5%) が最も多くなっている。〈教Ⅱ Q13-2④〉

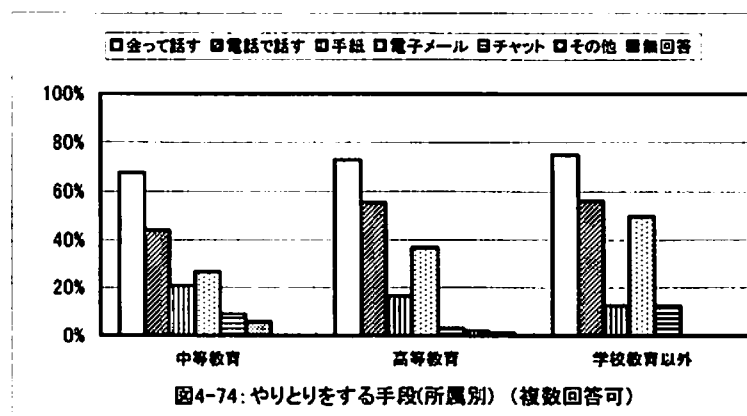
4-3-7. やりとりをする頻度（最もよくやりとりをする相手）



最もよくやりとりをする相手とのやりとりの頻度は、全体では「週に 2, 3 回」が 32.0% で最も多いが、中等教育では「週に 1 回」(32.4%)、高等教育では「週に 2, 3 回」(35.0%)、学校教育以外では「毎日」(31.3%) が最も多い(図 4-73)。

〈教Ⅱ Q13-2⑤〉

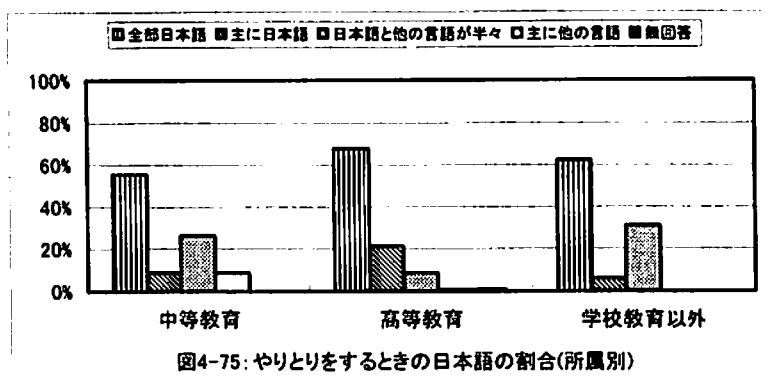
4-3-8. やりとりをする手段（最もよくやりとりをする相手）



やりとりをするときの手段は、全体では、直接相手と「会って話す」(71.9%)「電話で話す」(52.9%)が多く、「電子メール」は 35.9% となっている。所属別でも、その選択の順位は変わらない(図 4-74)。

〈教Ⅱ Q13-2⑥〉

4-3-9. やりとりをするときの日本語の割合 (最もよくやりとりをする相手)

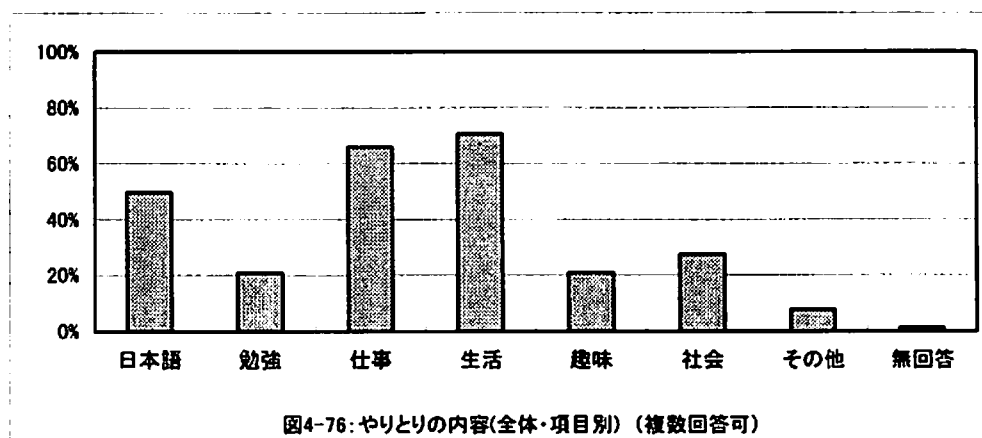


やりとりをするときに日本語を使用する割合はどのぐらいかについて尋ねたところ、共通して「全部日本語」が最も多い(図4-75)。特に、高等教育(68.0%)はその割合が高い。
(教ⅡQ13-2⑦)

4-3-10. やりとりの内容 (最もよくやりとりをする相手)

やりとりをして話す内容については、所属による違いはあまりなく、図4-76、表4-22のように①「生活について」(70.6%)、②「仕事について」(66.0%)、③「日本語について」(49.7%)の順になっている。割合は低い「その他」としては「学生のこと」「学術・論文」(各2名)などが挙げられていた。

(教ⅡQ13-2⑧)



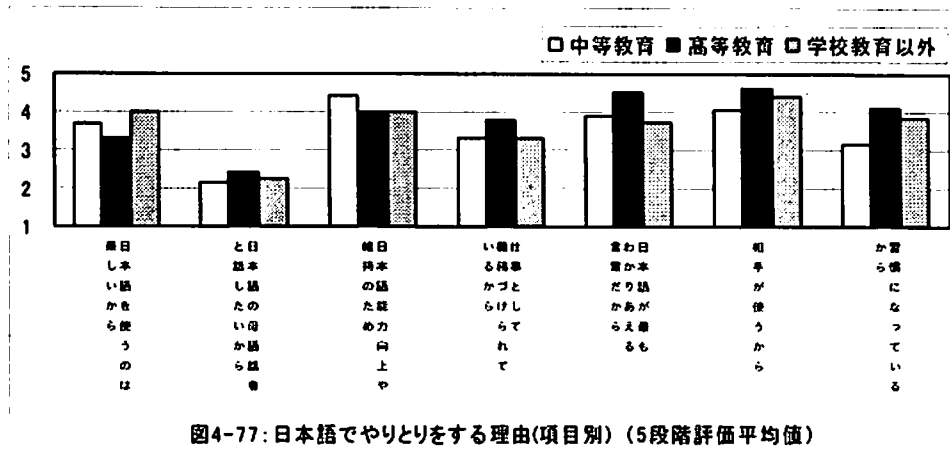
〈表4-22: やりとりの内容〉()内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	生活 (70.6)	生活 (76.5)	生活 (68.0)	生活 /
2位	仕事 (66.0)	仕事 (61.8)	仕事 (66.0)	仕事 (75.0)
3位	日本語 (49.7)	日本語 (58.8)	日本語 (46.6)	日本語 (50.0)

(複数回答可)

4-3-11. 日本語でやりとりをする理由（最もよくやりとりをする相手）

日本語でやりとりをする理由を尋ねたところ、図4-77のようになった。表4-23は各理由についての5段階評価の平均値を示す。全体では「相手が使うから」(4.47)「日本語が最もわかりあえる言葉だから」(4.31)が高く、「日本語の母語話者と話したいから」(2.33)は最も低い。所属別では、中等教育で「日本語能力向上や維持のため」(4.42)が最も高い。〈教ⅡQ13-2⑨〉



〈表4-23：日本語でやりとりする理由〉

理由	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
日本語を使うのは楽しいから	3.50	3.70	3.32	4.00
日本語の母語話者と話したいから	2.33	2.14	2.41	2.25
日本語能力向上や維持のため	4.11	4.42	4.00	4.00
仕事として義務づけられているから	3.63	3.32	3.78	3.33
日本語が最もわかりあえる言葉だから	4.31	3.89	4.52	3.73
相手が使うから	4.47	4.04	4.61	4.43
習慣になっているから	3.88	3.15	4.12	3.83

(5段階評価平均値)

4-3-12. 授業以外で日本語を使わない理由

4-3-1で示したように、92.7%とほとんどの教師が授業以外で日本語を使っているが、使っていない教師6名に対して、使わない理由を尋ねたところ、内5名が「日本語を使う相手がいないから」と答えた。

〈教ⅡQ13-3〉

4-4. 日本語が使われているものとの接触について

ここでは、日本語の授業以外で教師が日本語で書かれたものや日本語が使われているものの中でどのようなものをどのように見たり聞いたりしているのか等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

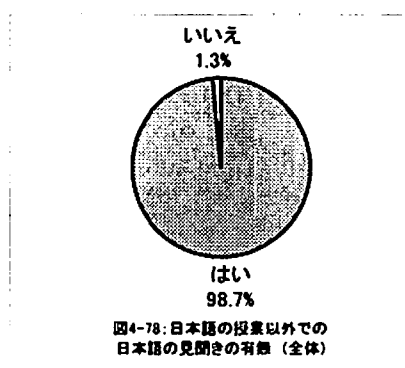
4-4-1. 身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無

まず、教師の身の回りに、日本語で書かれたものや日本語が使われているものがあるかどうかを尋ねたところ、表 4-24 のように 157 名 (95.2%) の教師が「はい」と答え、所属に共通して「はい」と答えた教師が多い。
 (教ⅡQ14)

〈表 4-24：身の回りで日本語で書かれたものや日本語が使われているものの有無〉()内は%

		全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	は い	157 (95.2)	36 (87.8)	105 (98.1)	16 (94.1)
	いいえ	2 (1.2)	2 (4.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
	無回答	6 (3.6)	3 (3.6)	2 (1.9)	1 (5.9)

4-4-2. 日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無



次に、4-4-1で「はい」と答えた 157 名の教師に、特に日本語の授業以外の時間に、日本語で書かれたものや日本語が使われているものを見たり聞いたりすることがあるかについて尋ねたところ、98.7%の教師が「はい」と答え、日本語の授業以外でも何らかの日本語を見聞きしていることがわかる (図 4-78)。

(教ⅡQ14-1)

〈表 4-25：日本語の授業以外での日本語の見聞きの有無〉()内は%

		全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	は い	155 (98.7)	36 (100.0)	104 (99.0)	15 (93.8)
	いいえ	2 (1.3)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (6.3)
	無回答	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

4-4-3. 見聞きするもの

どのようなものを見聞きするのか尋ねたところ、図4-79のようになり、上位3位までを表4-26に示した。所属に共通して「テレビ」(86.1%・93.3%・86.7%)が最も多い。中等教育・高等教育では、「雑誌」(83.3%・79.8%)がそれに続くが、学校教育以外では、「本」(86.7%)が「テレビ」と並んで1位である。中等教育では、新聞(27.8%)が他の機関に比べて低い。

(教ⅡQ14-2)

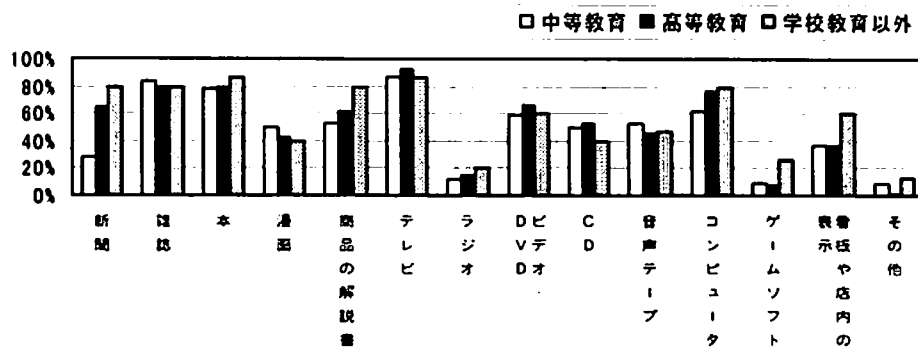


図4-79:見聞きするもの(項目別) (複数回答可)

〈表4-26:見聞きするもの〉()内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	テレビ (91.0)	テレビ (86.1)	テレビ (93.3)	本/テレビ (86.7)
2位	雑誌 (80.6)	雑誌 (83.3)	雑誌 (79.8)	
3位	本 (79.4)	本 (77.8)	本 (78.8)	新聞/雑誌/商品の解説書/コンピュータ (80.0)

(複数回答可)

4-4-4. 最もよく見聞きするもの

4-4-3の見聞きするものの中でも、特に最も見聞きするものについては、図4-80のようになり、上位3位までを表4-27に示した。4-4-3と同様に、所属に共通して「テレビ」(55.6%・51.0%・33.3%)が最も高い。それに続くのは「本」(16.7%・15.4%・26.7%)で、前節の「見聞きするもの」で上位にあった「雑誌」は順位が少し落ちる。

(教ⅡQ14-3①)

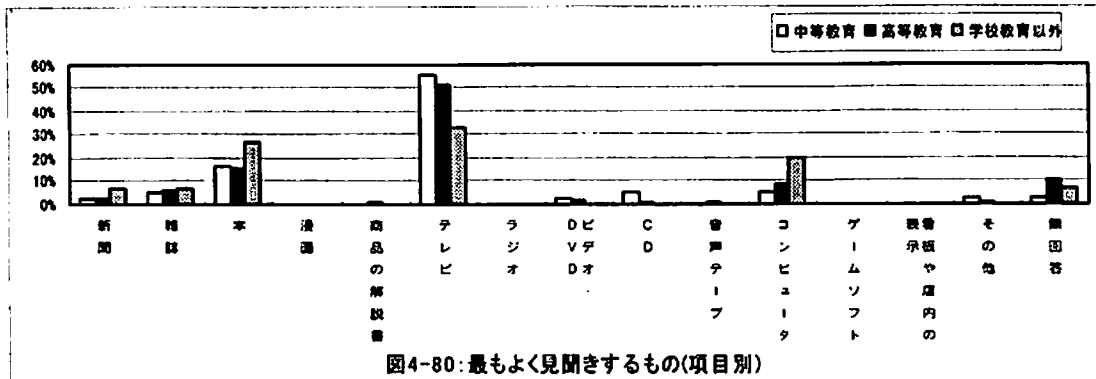


図4-80: 最もよく見聞きするもの(項目別)

〈表 4-27: 最もよく見聞きするもの〉()内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	テレビ (50.3)	テレビ (55.6)	テレビ (51.0)	テレビ (33.3)
2位	本 (16.8)	本 (16.7)	本 (15.4)	本 (26.7)
3位	コンピュータ (9.0)	雑誌/CD/ コンピュータ (5.6)	コンピュータ (8.7)	コンピュータ (20.0)

以下、4-4-8まで、この最もよく見聞きするものを対象に尋ねた結果について報告する。

なお、最もよく見聞きするものごとの集計結果については、他の項目との関係を考慮して別途、詳細に扱い、本報告では全体的な集計結果のみを報告する。

4-4-5. 見聞きする頻度 (最もよく見聞きするもの)

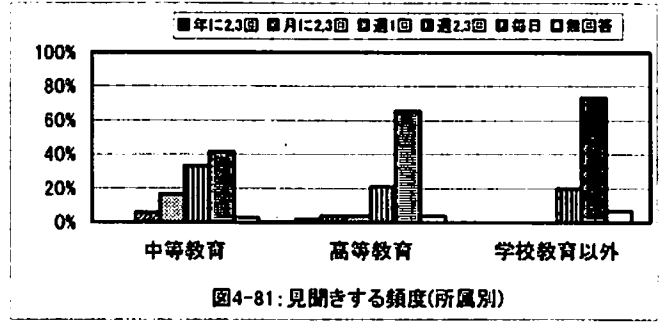


図4-81: 見聞きする頻度(所風別)

最もよく見聞きするものの利用頻度は、全体では「毎日」(60.6%)が最も多いが、中等教育では「毎日」(41.7%)と「週2,3回」(33.3%)の差が小さい(図4-81)。

(教ⅡQ14-3②)

4-4-6. 見聞きするものの所有者 (最もよく見聞きするもの)

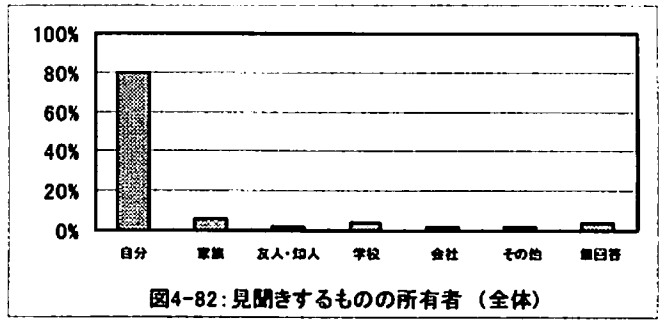


図4-82: 見聞きするものの所有者 (全体)

見聞きするものの所有者は、「自分」(80.0%)が最も多く、所属に共通して多い。「その他」としては、少ないが「レンタル」「インターネット」が挙げられた(図4-82)。

(教ⅡQ14-3③)

4-4-7. 見聞きするものの内容（最もよく見聞きするもの）

見聞きするものの内容については、全体では「社会・生活」（74.2%）が最も高く、「文化・芸術」（49.0%）がそれに続く。所属別にみても、第1位は変わらない（表4-28・図4-83）。「その他」としては、少数ではあるが、「NHK」「ニュース」「のど自慢」などが挙げられた。（教ⅡQ14-3④）

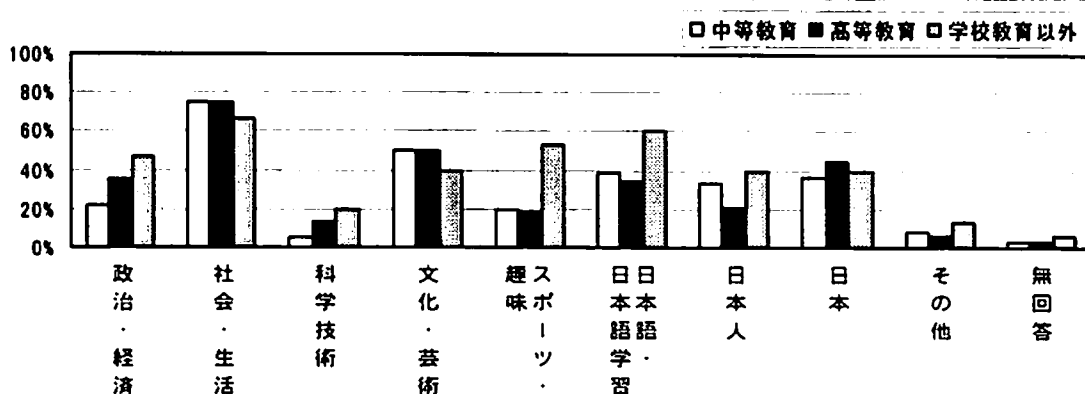


図4-83: 見聞きするものの内容（項目別）（複数回答可）

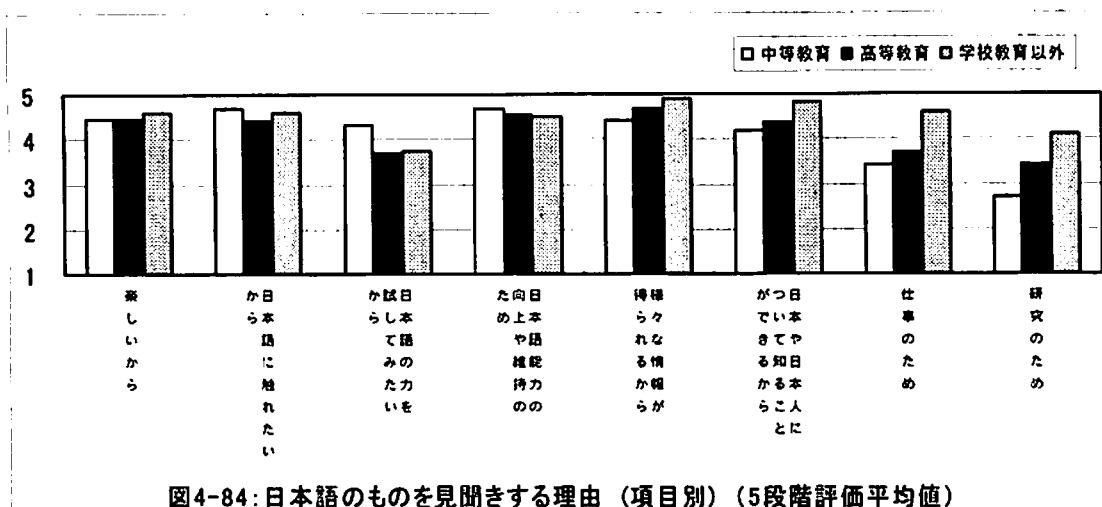
（表4-28: 見聞きするものの内容）（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	社会・生活 (74.2)	社会・生活 (75.0)	社会・生活 (75.0)	社会・生活 (66.7)
2位	文化・芸術 (49.0)	文化・芸術 (50.0)	文化・芸術 (50.0)	日本語・日本語学習 (60.0)
3位	日本 (42.6)	日本語・日本語学習 (38.9)	日本 (45.2)	スポーツ・趣味 (53.3)

（複数回答可）

4-4-8. 見聞きする理由（最もよく見聞きするもの）

日本語のものをしたり聞いたりする理由を尋ね、各理由についての5段階評価の平均値を図4-84と表4-29に示した。全体では、「様々な情報が得られるから」（4.63）が最も高く、これは高等教育・学校教育以外（4.67・4.92）も同様だが、中等教育では「日本語に触れたいから」（4.71）が最も高い。「仕事のため」（3.70）「研究のため」（3.32）は全体的には低いですが、学校教育以外ではそれぞれ4.58と4.09となり、他の所属に比べて高い。また、中等教育では、「日本語の力を試してみたいから」（4.33）が他の所属に比べて高い。「楽しいから」もいずれの所属でも第3位に登場し、所属に関わらず高いものの一つである。（教ⅡQ14-3⑤）



〈表 4-29: 見聞きする理由〉

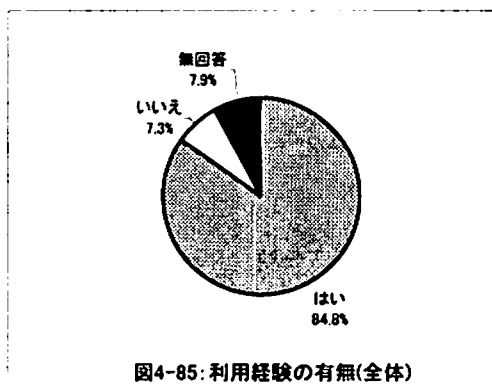
理由	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
楽しいから	4.47	4.47	4.45	4.58
日本語に触れたいから	4.49	4.71	4.40	4.58
日本語の力を試してみたいから	3.87	4.33	3.70	3.73
日本語能力の向上や維持のため	4.58	4.67	4.56	4.50
様々な情報が得られるから	4.63	4.41	4.67	4.92
日本や日本人について知ることができるから	4.38	4.21	4.38	4.83
仕事のため	3.70	3.41	3.68	4.58
研究のため	3.32	2.70	3.43	4.09

(5段階評価平均値)

4-5. 利用経験のある機会や場所について

ここでは、授業以外の様々な日本語学習の機会や場所をどれぐらい利用しているのか等について、教師に尋ねた結果をまとめる。

4-5-1. 利用経験の有無



まず、これまでに何らかの日本語学習に関する機会や場所を利用した経験があるかどうかについて尋ねたところ、全体で 140 名 (84.8%) が経験があり、経験したことがないと答えた教師は 12 名 (7.3%) となっている(図 4-85)。

〈教Ⅱ Q15〉

4-5-2. 利用経験のある機会や場所

利用経験のある教師 140 名に対して、これまでに台湾で利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、中等教育・高等教育では「日本・日本語に関するイベント」(66.7%・61.7%)、学校教育以外では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」(68.8%)が最も高い(表 4-30・図 4-86)。

(教ⅡQ15-1)

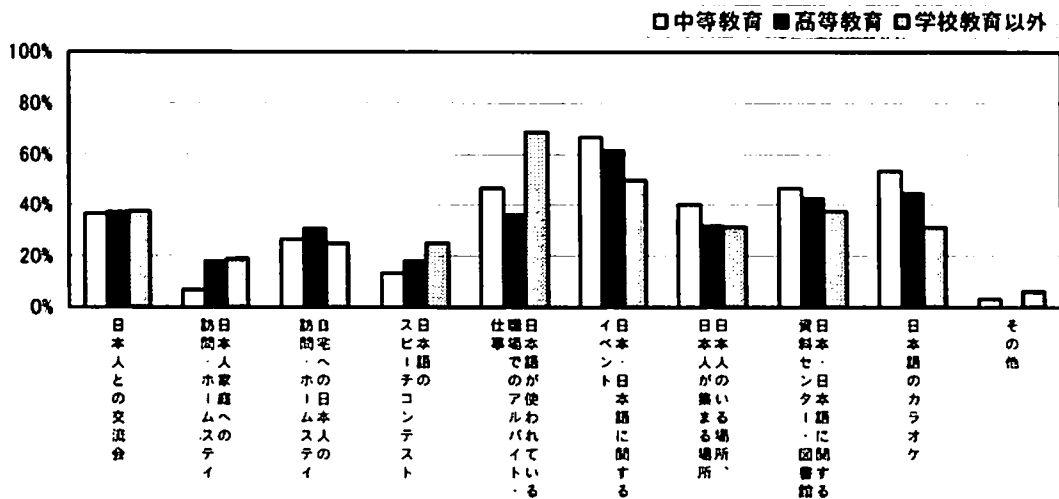


図4-86: 利用経験のある機会や場所<台湾>(項目別) (複数回答可)

表 4-30: 利用経験のある機会や場所—台湾— () 内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本・日本語に関するイベント (61.4)	日本・日本語に関するイベント (66.7)	日本・日本語に関するイベント (61.7)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事 (68.8)
2位	日本語のカラオケ (45.0)	日本語のカラオケ (53.3)	日本語のカラオケ (44.7)	日本・日本語に関するイベント (61.4)
3位	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (42.9)	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事/日本・日本語に関する資料センター・図書館 (46.7)	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (42.6)	日本人との交流会/日本・日本語に関する資料センター・図書館 (37.5)

(複数回答可)

続いて、利用経験のある教師 140 名に対して、日本においてこれまでに利用した経験のある機会や場所について尋ねたところ、表 4-31 のように全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(47.9%)、②「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(41.1%)、③「日本人との交流会」(39.3%)の順となっている。所属別では、中等教育で「日本人家庭への訪問・ホームステイ」が 53.3%と半数以上を占めているのが特徴的である。また、学校教育以外で「日本人のいる場所、日本人が集まる場所」(25.0%)が他の機関に比べて低い。高等教育では「日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事」が 23.4%と、他の機関に比べて高い。

(教ⅡQ15-1)

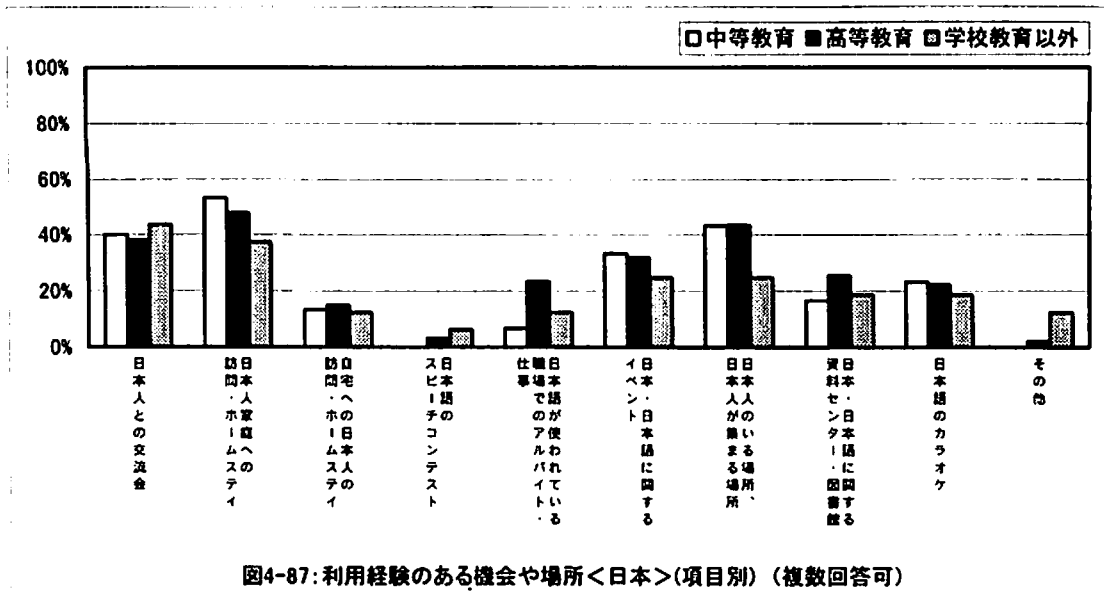


図4-87: 利用経験のある機会や場所<日本>(項目別) (複数回答可)

表 4-31: 利用経験のある機会や場所-日本- () 内は%

順位	全体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (47.9)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (53.3)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (47.9)	日本人との交流会 (43.8)
2位	日本人がいる場所・日本人が集まる場所 (41.1)	日本人がいる場所・日本人が集まる場所 (43.3)	日本人がいる場所・日本人が集まる場所 (43.6)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (37.5)
3位	日本人との交流会 (39.3)	日本人との交流会 (40.0)	日本人との交流会 (38.3)	日本・日本語に関するイベント/日本人がいる場所・日本人が集まる場所 (25.0)

(複数回答可)

4-5-3. 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無

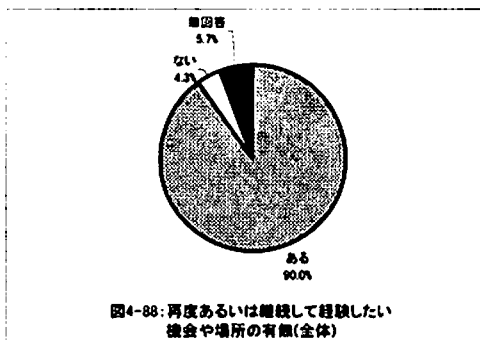


図4-88: 再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無(全体)

利用した経験のあるものの中で、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したい機会や場所があるかどうかについて尋ねたところ、図 4-88 のように全体で 126 名 (90.0%) が「ある」と答え、所属に共通して多い。

(教 II Q15-2)

〈表 4-32：再度あるいは継続して経験したい機会や場所の有無〉（ ）内は%

		全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
回答者数	あ る	126 (90.0)	27 (90.0)	84 (89.4)	15 (93.8)
	な い	6 (4.3)	1 (3.3)	4 (4.3)	1 (6.3)
	無回答	8 (5.7)	2 (6.7)	6 (6.4)	0 (0.0)

4-5-4. 再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所

もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思う機会や場所の中で、最も経験したいものについて尋ねたところ、表 4-33 のように全体では①「日本人家庭への訪問・ホームステイ」(23.0%)、②「日本・日本語に関するイベント」(21.4%)が多く、「日本人家庭への訪問・ホームステイ」は所属に共通して人気が高い。
 (教ⅡQ15-2)

〈表 4-33：再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所〉（ ）内は%

順位	全 体	中等教育	高等教育	学校教育以外
1位	日本人家庭への訪問・ホームステイ (23.0)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (33.3)	日本・日本語に関するイベント (26.2)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (26.7)
2位	日本・日本語に関するイベント (21.4)	日本・日本語に関するイベント (18.5)	日本人家庭への訪問・ホームステイ (19.0)	日本人との交流会 (20.0)

所属別では、図 4-89 のように、中等教育・高等教育で比較的要望の高い「日本・日本語に関するイベント」は、学校教育以外では選択した人がいない。また、「日本・日本語に関する資料センター・図書館」は高等教育・学校教育以外(15.5%・13.3%)での要望があるが、中等教育では要望がない。

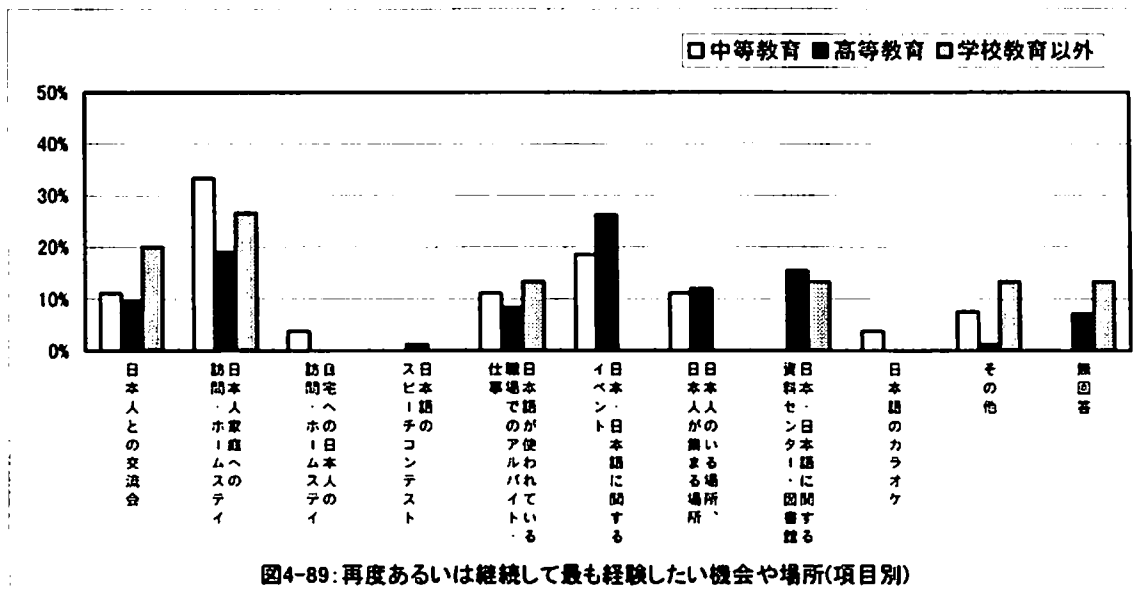


図4-89:再度あるいは継続して最も経験したい機会や場所(項目別)

第5章 課 題

本調査の目的は、本報告書第1章に述べたように、マイクロ（個々の日本語学習や教育）・マクロ（日本語教育が置かれている社会環境）の視点から、学習者・教師の両面からアプローチし、アンケート・インタビューの手法を用いて台湾の学習環境と学習手段についての多様性の現状を把握することにある。そのうち、本報告書では特にアンケート調査の集計結果についてその概要を報告し、台湾の学習手段と学習環境の全体的な傾向について、所属別（中等教育・高等教育・学校教育以外）、教師については国籍別（台湾人教師・日本人教師）にその現状を示した。

しかし、本報告書は巻頭の「本報告書について」で述べたように、その内容を記述統計的な集計結果にとどめ、項目間の関係等の分析には敢えて踏み込まなかった。集計・分析の観点についても、上記の所属別・国籍別以外に地域別、学年別等、様々な可能性が考えられる。また、アンケートは全体的な把握はできても、学習者・教師がなぜ、どのように個別のリソース（物、人、機会、場所等）を使っているのかについての個別的・具体的な実態について把握するには限界がある。そのため、同時並行で行った学習者・教師に対する個別インタビューの調査結果とあわせた分析が今後重要になってくる。

また、本調査研究は、日本語教育における学習環境と学習手段の実態把握を目的とした初めての海外調査の試みであり、今後の関連する調査研究に向けたパイロット的な役割も担っている。そのため、調査方法のあり方、アンケートやインタビュー調査の内容・技術に関する検討自体も重要な課題の一つである。その意味において、全体のデータ数はある程度確保することはできたが、対象によっては不十分であり、本調査だけで現状を十分に把握しているとは言い切れない。

さらに、本調査結果はこれまで「多様である」としてその実態に踏み込んで来なかった現状に対して、リソースという新たな観点からこれからの日本語教育のあり方を議論・改善していくための契機、基礎的な資料としての役割も担っている。そのため、このような調査は一度で終らせるのではなく、調査結果を踏まえ、現地協力機関・協力者とのネットワークを広げながら、継続して調査・分析し、その成果を教育現場に還元していくことが重要である。

そこで、本調査結果を最大限に活用するべく、今後の分析の観点について、「今後の検討課題」として以下に挙げ、まとめとする。

- 本調査結果とインタビュー結果との関係
- 本調査結果と学習環境（社会状況や教育制度等）との関係
- 日本語学習に関する教師と学習者の比較
- 地域差
- 学校種別による比較（例；技術学院と大学、高級中学と高級職業学校）
- 各項目間の関係（リソース、及びリソース利用の現状に影響を与えている要因の検討）
 - ・リソースとリソースの関係
 - ・あるリソースの利用と、他のリソース及び他のリソースの利用との関係

- ・学習者の背景的情報（年齢，学年，性別，訪日経験の有無，動機の種類，日本語力自己評価，日本語学習歴，外国語学習歴等）・教師の背景的情報（年齢，性別，日本語学習歴，訪日経験の有無，日本語教育経験，日本語以外の教育経験，日本語以外の専門領域の有無，日本語力自己評価，日本語教育に関する研修経験，教師として重視する能力，教師の資質・能力を向上させるために役に立つと思うもの，コンピューター・リテラシー等）とリソース及びリソース利用の関係（どのような学習者・教師が何をリソースとして捉え，どのようなリソースをどのように利用しているのか）
- 日本語教師や友人等，日本語で最もよくやりとりをする相手（3-2-3・4-3-3）ごとの集計結果と比較，他の項目との関係
- 新聞，テレビ放送，ビデオ等，日本語を最もよく見聞きするもの（3-3-4・4-4-4）ごとの集計結果と比較，他の項目との関係
- その他，他調査地域との比較検討等

資 料

日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究

台湾アンケート調査

調査票

機関調査票（日本語版・中国語版）

別紙 ※選択肢のあるものは番号に○をつけてください。

学校名： _____

住所： _____

担当者名： _____ 年月日： _____

役職名： _____

F1 日本語教員数 常勤 _____名 (台湾人 _____名 日本人 _____名)
非常勤 _____名 (台湾人 _____名 日本人 _____名)
アシスタント _____名 (台湾人 _____名 日本人 _____名)

F2 学生数 全学生数 _____人

日本語を受講している学生数：

高中1年 _____人 高中2年 _____人 高中3年 _____人

高職1年 _____人 高職2年 _____人 高職3年 _____人

五専4年 _____人 五専5年 _____人

二専1年 _____人 二専2年 _____人

二技1年 _____人 二技2年 _____人

四技1年 _____人 四技2年 _____人 四技3年 _____人 四技4年 _____人

大学1年 _____人 大学2年 _____人 大学3年 _____人 大学4年 _____人

大学院 M1 _____人 M2 _____人

F3 学校で使用できる設備や利用できるものに○をつけてください。

1. コンピューター (教師用 _____台 学生用 _____台)
2. インターネットの利用 (主な利用者：1.学生 2.教師 3.両方)
3. テレビやビデオの視聴 (主な利用者：1.学生 2.教師 3.両方)
4. LL
5. OHP
6. テープレコーダー、CD プレイヤー
7. 日本語関係の蔵書 (1.100-1000 冊以下 2.2000 冊以上)
(主な利用者：1.学生 2.教師 3.両方)

F4 貴校が行なっている、または参加している日本語関係の行事に○をつけてください。
該当するものすべてに○をつけてください。

1. 学校外からゲストを招いて、日本や日本語に関する話をしてもらったり、学生の会話相手になってもらう
2. 日本旅行
3. 日本との交換留学制度 (1.主催 2.他機関が主催 3.両方)
4. スピーチコンテスト (1.主催 2.他機関が主催 3.両方)
5. 日本にある姉妹校との交流
 1. 文通 (手紙)
 2. 文通 (電子メール)
 3. 学校訪問の受け入れ
4. 相手学校への訪問 5.教材の交換 6.その他 _____
6. その他： _____
(1.主催 2.他機関が主催 3.両方)

ご協力ありがとうございました。貴校の日本語コース/日本語クラスのカリキュラム、シラバスなどが分かる資料を同封していただければ幸いです。

附件：請在選項處打圈。

學校名：_____

住 址：_____

擔任者姓名：_____ 填寫問卷日期：____年__月__日

職位名稱：_____

F1 日語教師人數 專任_____名 (台灣人_____名 日本人_____名)

兼任_____名 (台灣人_____名 日本人_____名)

助理教師 (台灣人_____名 日本人_____名)

F2 學生人數 全校學生人數：_____名

有選修日文的學生人數：

高中1年級_____名 高中2年級_____名 高中3年級_____名

高職1年級_____名 高職2年級_____名 高職3年級_____名

五專1年級_____名 五專2年級_____名 五專3年級_____名

五專4年級_____名 五專5年級_____名

二技1年級_____名 二技2年級_____名

二專1年級_____名 二專2年級_____名

大學1年級_____名 大學2年級_____名 大學3年級_____名

大學4年級_____名

研究所 研1_____名 研2_____名

F3 請在校內可利用的設備或設施的選項中打圈

1.電腦 (教師用_____台 學生用_____台)

2.網路的使用 (主要的使用者：1.學生 2.教師 3.兩者皆有)

3.電視或VCD影帶的使用 (主要的使用者：1.學生 2.教師 3.兩者皆有)

4.LL教室

5.OHP

6.ii 音機, CD隨身聽

7.和日語相關的藏書 (1.100~1000本以下 2.2000本以上)

(主要的使用者：1.學生 2.教師 3.兩者皆有)

F4 請在貴校所舉辦的或是所參加的日語相關活動中打圈。只要是符合的選項，請打圈。

1. 從校外請貴賓來講演有關日本或日語的話題，或是當作學生的會話練習對象。

2. 日本旅行

3. 到日本交換留學的制度 (1.主辦 2. 別的单位主辦 3.兩者皆有)

4. 演講比賽 (1.主辦 2. 別的单位主辦 3.兩者皆有)

5. 和日本姊妹校的交流

1.用寫信的方式 2. 用電子郵件 3.接受姊妹校來訪 4. 去姊妹校訪問

5.互換教材 6. 其他：_____

6. 其他：_____

(1.主辦 2. 別的地方主辦 3.兩者皆有)

感謝貴校協助此次的問卷，非常謝謝您的配合，謝謝！

如果可以的話，可否附上，可了解有關貴校日文系(組)/日文班的課程表、課程摘要之類的相關資料，我們將會非常感激，再次謝謝您的合作，謝謝！

学習者用調査票（日本語版・中国語版）

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」への

御協力をお願い

国立国語研究所日本語教育部門では、「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を行っております。

インターネットを始めとする様々な情報流通のあり方の変化に伴い、日本語を学習する、あるいは教える環境や手段も多様化し、支援のあり方も柔軟に対応する必要があります。そのためには、まず国内外で日本語を学習、あるいは教えている方々がどのような環境で日本語を学習、あるいは教え、どのような手段で日本語を学習、あるいは教えているかについて広く情報収集し、「多様化」している現状を把握する必要があります。その一環として、本年度は、日本語教育支援のための基礎研究として、台湾での日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査を行っております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解くださり、ご回答くださるようお願い致します。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
 独立行政法人 国立国語研究所日本語教育部門
 部門長 杉戸清樹
 石井恵理子
 金田智子
 小河原義朗

TEL:+81-3-5993-7660 (金田)
 FAX:+81-3-3906-3530
<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

<学習者用アンケート>

•選択肢のあるものは番号に○をしてください。

F1 性別 1 男 2 女

F2 国籍 _____

F3 年齢 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代 7 70歳以上

F4 母語 (最もよく話せる言葉) _____ 語

F5 身分 1 中学校 _____ 年生

2 高校

1 一般高校 _____ 年生 2 実業高校 _____ 年生 専攻 _____

3 専科学校

1 五年制 _____ 年生 専攻 _____ 2 二年制 _____ 年生 専攻 _____

4 二年制技術学院 _____ 年生 専攻 _____

5 四年制技術学院 _____ 年生 専攻 _____

6 大学 _____ 年生 学部 _____ 専攻 _____

7 大学院

1 修士 _____ 年 専攻 _____ 2 博士 _____ 年 専攻 _____

8 その他 _____

F6 日本語学習を開始した学年

1 小学校 _____ 年生

2 中学校 _____ 年生

3 高校 _____ 年生

4 専科学校

1 五年制 _____ 年生 2 二年制 _____ 年生

5 二年制技術学院 _____ 年生

6 四年制技術学院 _____ 年生

7 大学 _____ 年生

8 大学院

1 修士 _____ 年生 2 博士 _____ 年生

9 その他 _____

F7 あなたは今どこで日本語を勉強していますか。(複数回答可)

1 高校 2 専科学校(五年制 二年生制) 3 二年制技術学院 4 四年制技術学院

5 大学 6 大学院(修士 博士) 7 その他の教育機関

8 その他 _____

F8 日本に行った経験がありますか。

1 ある (-F8-1へ) 2 ない (-F9へ)

F8-1 「1. ある」と答えた方におたずねします。日本に行った回数と期間をお書きください。

回数 _____ 回 期間 (延べ) _____ 年 _____ 月 _____ 日

F8-2 日本に行った目的は何ですか。(複数回答可)

1. 観光
2. 短期留学 (6ヶ月未満)
3. 短期留学 (6ヶ月以上～1年未満)
4. 長期留学 (1年以上)
5. 仕事
6. 企業研修
7. 国際交流
8. 親族訪問
9. 家族滞在
10. その他 _____

F9 日本語の学習を始めた理由や動機は何ですか。理由や動機として強い順に3つ選んで表に記入してください。

1. 日本語を学ぶのが流行しているから
2. 学校の授業にあるから
3. 就職に有利だから
4. 現在の仕事に必要なから
5. 日本人の知り合いがいるから
6. 親や知人などに勧められたから
7. 日本語を学ぶのは知的なこととしてまわりから評価されるから
8. 日本語は難しそうで、やりがいがあるから
9. 学びやすそうだから
10. 日本語に興味があるから
11. 国際的に重要な言語だから
12. 日本の文化や社会についての情報を得たいから
13. 日本の文学や歴史に興味があるから
14. 日本に興味があるから
15. 日本に行きたいから
16. 日本のもの (テレビ番組、ゲーム、歌、漫画など) が好きだから
17. その他 _____

17 を選んだ場合は記入してください。

1	2	3

F10 あなたは現在、日本語がどのぐらいできますか (①)。そして、将来どのぐらいできるようになりたいと思っていますか (②)。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」それぞれについて、最も適当なものを選んで、表の中に記入してください。

F10-1 【読むこと】

1. 全くできない。
2. ひらがなとカタカナが読める。
3. よく使われる漢字なら日本式に読める。
4. 簡単な文章ならだいたい理解できる。
5. 新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたい理解できる。
6. 母語と同じように読める。

①現在	②将来

F10-2 【書くこと】

1. 全くできない。
2. ひらがなで知っている言葉が書ける。

3. 簡単な短い文を書くことができる。
4. 親しい友人などへの簡単な手紙やメールを書くことができる。
5. まとまった文章が書ける。
6. 母語と同じように書ける。

①現在	②将来

F10-3 【聞くこと】

1. 全くできない。
2. 相手の名前や挨拶などを聞いて理解できる。
3. 日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる。
4. 会話の中で、相手の考えや意見をだいたい理解することができる。
5. テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる。
6. 母語と同じように聞いて理解できる。

①現在	②将来

F10-4 【話すこと】

1. 全くできない。
2. 挨拶ができる。
3. 簡単な自己紹介ができる。
4. 日常生活に必要な表現を状況に応じて使える。
5. 自分の意見や考えを話すことができる。
6. 母語と同じように話せる。

①現在	②将来

Q1 日本語の授業以外で日本語を使ってやりとり（会話、電話、手紙、電子メールなど）をすることはありますか。

- 1 はい（-01-1,01-2へ） 2 いいえ（-01-3へ）

Q1-1 日本語の授業以外でどんな人と日本語でやりとりしますか。やりとりする人全員の番号に○をし、その方法を選んで○をつけてください。（複数回答可）

○	相手	方法				
		会話	手紙	電話	電子メール	チャット (msn など)
1	日本語の教師					
2	学校の友人					
3	塾や語学学校等のクラスメート					
4	職場の同僚					
5	職場の上司					
6	仕事上の取引相手					
7	勤務先（レストラン等）の客					
8	家族・親戚等					
9	知り合い					
10	その他					
	その他					
	その他					

Q1-2 Q1-1で○をした中で、もっともよく日本語でやりとりをする人あるいは人達について、答えてください。

①その人はQ1-1の1~10のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

②どこの国の人ですか。

1 台湾人 2 日本人 3 その他

③性別

1 男 2 女

④やりとりをするようになった頃、あなたの日本語はどうでしたか。○を付けてください。

1. ほとんどできなかった 2. 少しできた 3. 日常会話程度できた
4. かなりできた 5. 日本人と同程度できた

⑤やりとりをする頻度はどのぐらいですか。1つ選んでください。

1. 年に2,3回 2. 月2,3回 3. 週1回 4. 週2,3回 5. 毎日

⑥やりとりの主な手段は何ですか。（複数回答可）

1. 会って話す 2. 電話で話す 3. 手紙 4. 電子メール
5. チャット (msn など) 6. その他

⑦その人とやりとりをする時、日本語をどのぐらい使いますか。

1. 全部日本語 2. 主に日本語 3. 日本語と他の言語が半々 4. 主に他の言語

⑧主にどんなことについて話しますか。（複数回答可）

1. 日本語について 2. 勉強について 3. 仕事について 4. 生活について
5. 趣味について 6. 社会について 7. その他

⑨やりとりをその人とするとき、なぜ日本語を使うのですか。下の項目それぞれについて、5~1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く好き	どちらともいえない	全く好きでない		
1 日本語を使うのは楽しいから	5	4	3	2	1
2 日本語の母語話者と話したいから	5	4	3	2	1
3 日本語能力向上や維持のため	5	4	3	2	1
4 仕事として義務づけられているから	5	4	3	2	1
5 日本語が最もわかりやすい言葉だから	5	4	3	2	1

6 相手が使うから	5	4	3	2	1
7 習慣になっているから	5	4	3	2	1
8 その他	5	4	3	2	1
	5	4	3	2	1

Q1-3 (Q1で「1」と答えた人は回答する必要はありません)

授業以外で日本語を使わない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いもの一つを選んでください。

- 日本語を使う相手がいないから
- 日本語を使いたと思わないから
- 自分の日本語力が充分ではないから
- 恥ずかしいから
- 自信がないから
- 中国語など他の言語の方が便利だから
- その他

Q2 身の回りに、日本語が使われているものはありますか。（日本語学習教材は除きます。）

- 1 はい（-02-1へ） 2 いいえ（-02へ）

Q2-1 日本語の授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりすることはありますか。

- 1 はい（-02-2,02-3へ） 2 いいえ（-02-4へ）

Q2-2 授業以外でどんなもの（日本語が使われているもの）を見たり聞いたりしますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数回答可）

- 新聞
- 雑誌
- 本
- マンガ・アニメ
- 商品のパッケージ・解説書
- テレビ（ニュース、ドラマなど）
- ラジオ
- ビデオ・DVD
- CD
- 音声テープ
- コンピュータ（インターネット等）
- ゲームソフト
- 看板や店内の表示
- その他

Q2-3 Q2-2で○をした中で、もっともよく見たり聞いたりするもの一つについて、答えてください。

①それはQ2-2の1~14のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

②頻度はどのぐらいですか。○を付けてください。

1. 年に2,3回 2. 月2,3回 3. 週1回 4. 週2,3回 5. 毎日

③それは誰のものですか。

1. 自分のも 2. 家族のもの 3. 友人や知り合いのもの 4. 学校のもの
5. 会社のもの 6. その他

④主にどんな内容ですか。（複数回答可）

1. 政治・経済 2. 社会・生活 3. 科学技術 4. 文化・芸術 5. スポーツ・趣味
6. 日本語・日本語学習 7. 日本人 8. 日本 9. その他

⑤見たり聞いたりする理由は何ですか。下の項目それぞれについて、5~1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く好き	どちらともいえない	全く好きでない		
1 楽しいから	5	4	3	2	1
2 日本語に触れたいから	5	4	3	2	1
3 日本語の力を試してみたいから	5	4	3	2	1
4 日本語能力の向上や維持のため	5	4	3	2	1
5 様々な情報が得られるから	5	4	3	2	1
6 日本や日本人について知ることができるから	5	4	3	2	1

7. 仕事のため	6	4	3	2	1
8. 研究のため	6	4	3	2	1
9. その他	6	4	3	2	1

Q2-4 (Q2-1で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりしない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

1. 見たり、聞いたりしたいと思わないから
2. 時間がないから
3. 自分の日本語力が充分でないから
4. 利用するのにお金がかかるから
5. 手に入りにくいから
6. その他 _____

Q3 現在使っている日本語の教科書や授業で先生から渡される学習資料を授業以外の時間にも使いますか。

1. はい (→Q3-1へ)
2. いいえ (→Q3-2へ)

Q3-1 授業以外の時間に教科書や授業で先生から渡される学習資料を使って勉強するときには、次のうちどれですか。()に○をつけてください。またその中でよくするものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 語句の意味を調べる
- () 2. 漢字にふりがなをふる
- () 3. 母語に訳す
- () 4. 日本語がわかる人に質問する
- () 5. 練習問題を解く
- () 6. 付属のカセットテープを聞く
- () 7. 単語帳を作る
- () 8. 自分で文を作る
- () 9. 暗記、暗唱する
- () 10. 練習相手を見つけて会話の練習をする
- () 11. その他 _____

Q3-2 (Q3で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

日本語の教科書や授業で先生から渡される学習資料を授業以外の時間に使わない理由は何ですか。

1. 授業以外の時間に日本語の勉強をしないから
2. どうやって使ったらいいかわからないから
3. 特に日本語に興味がないから
4. わかりにくいから
5. その他 _____

Q4 過去3年の間に、次の表(Q4-1)のような日本人や日本語に接する機会や場所を経験したことがありますか。

1. はい (→Q4-1, Q4-2へ)
2. いいえ (→Q5へ)

Q4-1 経験したことがあるものの番号に○をし、台湾、日本のどちらで経験したか○をつけてください。台湾・日本のいずれでもない場合は、「その他」の欄に記入してください。

	機会・場所	台湾	日本	その他
1	日本人との交流会			
2	日本人家庭への訪問・ホームステイ			
3	自宅への日本人の訪問・ホームステイ			
4	日本語のスピーチコンテスト			
5	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事			
6	日本・日本語に関するイベント			
7	日本人のいる場所、日本人が集まる場所			
8	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (例：交流協会の日本語センター、国家図書館の日本文学研究室)			
9	日本語のカラオケ			
10	その他			

Q4-2 経験したことがある場合、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思うものはありますか。最も経験したいと思うものをQ4-1の選択肢の中から一つだけ選んで記入してください。

1. ある
2. ない

Q5 次の中で、日本語学習のために、現在使っているものはどれですか。()に○をつけてください。またその中でよく使うものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 学習参考書・問題集 一次のどれですか
() 1. 文法 () 2. 作文 () 3. 語彙 () 4. 漢字 () 5. 会話 () 6. 試験対策
() 7. 読解 () 8. その他 _____
- () 2. 辞書(書名: _____)
- () 3. 漢字辞典(書名: _____)
- () 4. 日本語学習のための音声テープ
- () 5. ビデオ教材
- () 6. 日本語の放送講座
- () 7. 日本語学習のためのコンピューターソフト
- () 8. インターネットによる資料収集
- () 9. web教材による日本語学習
- () 10. e-mail・チャット(msnなど)
- () 11. 日本語のテレビ番組
- () 12. 日本語の映画
- () 13. 日本語のマンガ・アニメ
- () 14. 日本語の小説や雑誌、新聞などの読み物
- () 15. 日本語を使ったゲームソフト
- () 16. 日本語の歌
- () 17. その他 _____

Q6 次の中で、日本語学習や日本理解のために、今後、もっと充実したらいいと思うものはどれですか。()に○をつけてください。またその中で特に充実したらいいと思うものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 教科書—どんなものですか。 _____

- () 2. 学習参考書・問題集一次のどれですか。
 (() 1. 文法 () 2. 作文 () 3. 語彙 () 4. 漢字 () 5. 会話 () 6. 試験対策
 () 7. 読解 () 8. その他 _____)
- () 3. 辞書一次のどれですか。
 | () 1. 中-日 () 2. 日-中 () 3. その他 _____ |
- () 4. 漢字辞典
 () 5. 日本語学習のための音声テープ
 () 6. ビデオ教材
 () 7. 日本語の放送講座
 () 8. 日本語学習のためのコンピューターソフト
 () 9. web 学習プログラム
 () 10. 日本語の小説や雑誌、新聞などの読み物
 () 11. 日本語のテレビ番組
 () 12. 日本語の映画
 () 13. 日本語を使ったゲームソフト
 () 14. 日本人との交流 (パーティー、ハイキング、料理教室など)
 () 15. 日本人家庭への訪問、ホームステイ
 () 16. 日本語のスピーチコンテスト
 () 17. 日本や日本語に関するイベント
 () 18. 日本語を使うアルバイト
 () 19. 留学の機会
 () 20. 言語交換学習・メールによる意見交換
 () 21. その他 _____

ご協力ありがとうございました。

「日語教育的學習環境與學習方式」之

問卷調查

國立國語研究所的日語教育部門 目前正進行一項有關「日語教育的學習環境與學習方式」的調查研究。

以網際網路為始，隨著各式各樣情報交流方式的轉變，學習日語或教授日語的環境與方式也趨向多元，因此輔助日語學習之方法也應有適當的因應方式。為了找尋適切的因應方式，必須先廣泛收集國內外日語學習者、教授者是在怎樣的環境下學習、教授日文以及是用哪些方式來學習或教授日文，藉此掌握「多元化」的現況。為此，作為其中之一環，本年度開始就台灣的日語教育的學習環境與學習方式進行調查，以作為輔助日語教育的基礎研究。

非常感謝您百忙之中抽空填寫問卷，請您依據自身現況逐步填寫以下各問題，最後再次感謝您的配合與協助，謝謝！

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

独立行政法人 国立国語研究所日本語教育部門

部門長 杉戸清樹

石井忠理子

金田智子

小河原義朗

TEL:+81-3-5993-7660 (金田)

FAX:+81-3-3906-3530

http://www.kokken.go.jp/jsl/

填寫問卷時之注意事項

- (1)您所作的回答僅用於研究，決不用於他途。且所有的回答經統計處理後，僅作整合性的公開發表，有關個別回答部分決不公開。
- (2)作答的方式，依各個選項而有所不同，請遵從各項目的指示作答。
- (3)在自由填寫的項目及選擇「其他」選項時，請寫出有關之具體內容。
- (4)到2003年 月 日()為止，請把問卷交還給負責的老師。
- (5)如果有任何不明瞭之處，請與下列單位連絡。

連絡單位：

金田智子(東京) kaneda@kokken.go.jp

藤井彰二(台北·交流協會) fuji@mail.japan-taipei.org.tw

<學習者用的問卷>

•請在選項處打圈。

F1 性別 1. 男 2. 女

F2 國籍 _____

F3 年齡 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歲以上

F4 母語(最常使用的語言) _____語

F5 系所年級

1. 國中 _____年級

2. 高中

1. 普通高中 _____年級 2. 職業學校 _____年級 _____科/系/組

3. 專科學校

1. 五年制 _____年級 _____科/系/組 2. 二年制 _____年級 _____科/系/組

4. 二年制技術學院 _____年級 _____科/系/組

5. 四年制技術學院 _____年級 _____科/系/組

6. 大學 _____年級 _____學院 _____科/系/組

7. 研究所

1. 碩士 _____年 _____科/系/組 2. 博士 _____年 _____科/系/組

8. 其他 _____

F6 開始學日語的學年

1. 小學 _____年級

2. 中學 _____年級

3. 高中 _____年級

4. 專科學校

1. 五年制 _____年級 2. 二年制 _____年級

5. 二年制技術學院 _____年級

6. 四年制技術學院 _____年級

7. 大學 _____年級

8. 研究所

1. 碩士 _____年級 2. 博士 _____年級

9. 其他 _____

F7 目前的日文學習機構? (可複選)

1. 高中 2. 專科學校(五年制/二年制) 3. 二年制技術學院 4. 四年制技術學院

5. 大學 6. 研究所(碩士/博士) 7. 其他的教育機構

8. 其他 _____

F8 有去過日本嗎?

1. 有 (一讀按F8-1) 2. 沒有 (一讀按F9)

F8-1 有去過日本者請作答。請寫出去日本的次數與期間。

次數 _____次 期間(總共) _____年 _____個月 _____天

F8-2 去日本的目的為何? (可複選)

1. 觀光 2. 短期留學(未滿6個月) 3. 短期留學(6個月以上~未滿1年)

4. 長期留學(1年以上) 5. 工作 6. 企業研修 7. 國際交流

8. 探訪親友 9. 家人旅居日本 10. 其他 _____

F9 開始學日語的動機或理由為何？從以下的選項，選出3個最強的動機或理由，依序填寫於下表

1. 因為現在很流行學日文
2. 因為學校有日文課
3. 因為有助於就業
4. 因為現在的工作需要
5. 因為有日本人的朋友
6. 因為父母或親友的推薦
7. 因為學日語被認為是一件知性的事
8. 因為日文很難，所以學起來很有成就感
9. 因為很好學
10. 因為對日文有興趣
11. 因為日文是國際間重要的語言
12. 因為想得知有關日本文化或社會方面的訊息
13. 因為對日本文學或歷史感興趣
14. 因為對日本感興趣
15. 因為想去日本
16. 因為喜歡日本的東西（如：電視節目、電玩、歌曲、漫畫等等）
17. 其他 _____

【選 17. 者請詳填本項。

1	2	3

F10 現在的日文能力為何？(1) 希望將來達到怎樣的程度？(2) 分別針對「聽」「說」「讀」「寫」四技能選出最適當的選項，填寫於右表中。

F10-1 【聽】

1. 完全看不懂。
2. 看得懂平假名和片假名。
3. 常用的漢字能了解它的日文意思。
4. 能大致讀懂簡單的文章。
5. 能大致了解單字或自己感興趣領域的書。
6. 可以像聽母語一樣流暢。

現在	將來

F10-2 【寫】

1. 完全不會寫。
2. 知道的字能用平假名寫出來。
3. 會寫簡短簡單的文章。
4. 能寫與好友間的簡單書信或電子郵件。
5. 能寫有條理的文章。
6. 能寫得像母語一樣流暢。

①現在	②將來

F10-3 【讀】

1. 完全聽不懂。
2. 能聽懂對方的名字或招呼語。
3. 能聽懂日常生活常用之簡單表現、指示等。
4. 能大致理解對話中對方的想法或意見。
5. 能大致理解電視新聞、學校課程等含有確性的內容。
6. 能聽得和母語一樣。

①現在	②將來

F10-4 【說】

1. 完全不會說。
2. 會說招呼語。
3. 會簡單的自我介紹。
4. 能因應狀況使用日常生活中所需之必要表現。
5. 能表現自己的意見或想法。
6. 可以說得和母語一樣。

①現在	②將來

Q1 有在日文課之外使用日文（會話、電話、信、電子郵件等）嗎？

1. 有（一選填01-1-01-2） 2. 沒有（一選填01-3）

Q1-1 在日文課之外和怎樣的人使用日文呢？在使用日文的對象之數字上打圈，並圈出其使用方法。（可複選）

○	方法	談話	信	電話	電子郵件	上網聊天 (msn 等)
1	對象					
1	日語老師					
2	學校朋友					
3	補習班或學日語的地方的同學					
4	公司的同事					
5	公司的上司					
6	工作上的客戶					
7	上班地方（如：餐廳等）的客人					
8	家人・親戚等					
9	認識的人					
10	其他 _____					
	其他 _____					
	其他 _____					

Q1-2 在 Q1-1 圈打圈的對象中，最常使用日文的對象是哪個人或是哪些人呢？請作答。

①哪個人是 Q1-1 中 1~10 的那一個呢？ *請選擇一個，並在其號碼上打圈。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

②請問對方是哪一個人？

1. 台灣人 2. 日本人 3. 其他 _____

③性別

1. 男 2. 女

④和對方使用日文時，您的日文程度為何？請打圈。

1. 幾乎不大會 2. 會一點點 3. 日常會話程度
4. 程度很好 5. 和日本人一樣

⑤多久一次和對方使用日文？請選擇一個。

1. 一年 2、3 次 2. 一個月 2、3 次 3. 一星期 1 次 4. 一星期 2、3 次 5. 每天

⑥與對方使用日文的主要方式為何？（可複選）

1. 見面談話 2. 打電話 3. 寫信 4. 傳電子郵件
5. 上網聊天 (msn 等) 6. 其他 _____

⑦和對方溝通時，使用多少日文？

1. 全都用日文 2. 大部份是用日文 3. 日文和其他語言各半 4. 大部分是其他語言

③大部分是談哪生活呢? (可複選)					
1. 有關日文	2. 讀書	3. 工作	4. 生活		
5. 興趣	6. 社會	7. 其他	_____		
④(對對方溝通時, 為什麼使用日文呢? 在下列各選項中, 選出符合自己程度的數字。如果有選項外的理由時, 請寫在「其他」處, 並也請依程度標示。					
	完全符合				完全不符合
1. 因為使用日文很有趣	5	4	3	2	1
2. 因為想和以日文為母語的人說話	5	4	3	2	1
3. 因為想增進或維持日文能力	5	4	3	2	1
4. 因為是工作需要所以得用日文	5	4	3	2	1
5. 因為日文是雙方最能理解的語言	5	4	3	2	1
6. 因為對方使用日文	5	4	3	2	1
7. 因為已成為習慣	5	4	3	2	1
8. 其他 _____	5	4	3	2	1

Q1-3 (在01回答「1」的人, 不需要作答。)

除日文課外, 不使用日文的原因為何? 請在下列選項中, 選出一個最接近您想法的答案

1. 因為沒有使用日文的對象
2. 因為沒有想要使用日文
3. 因為自己的日文能力不夠好
4. 因為覺得不好意思
5. 因為沒有自信
6. 因為用中文等其他語言會更方便
7. 其他 _____

Q2 在您身旁有使用日文(以日文書寫或發音)的東西嗎? (日文學習教材除外)

1. 有 (一題檢 02-1)
2. 沒有 (一題檢 02)

Q2-1 在日文課的時間外, 有聽或看使用日文的東西嗎?

1. 有 (一題檢 02-2、02-3)
2. 沒有 (一題檢 02-4)

Q2-2 在日文課外有聽或看(使用日文的東西)嗎? 只要是符合的選項請全打圈。(可複選)

1. 報紙
2. 雜誌
3. 書
4. 漫畫・卡通
5. 商品的盒子・說明書
6. 電視(新聞、日劇等)
7. 廣播
8. 錄影帶・DVD
9. CD
10. 錄音帶
11. 電腦(網路、網路等)
12. 遊戲軟體
13. 路上的招牌或店內的日語標示
14. 其他 _____

Q2-3 在 Q2-2 打圈的選項中, 請針對您最常聽或看的那一項作下列的回答。

①是 Q2-2 選項中 1~14 的那一個呢? *請選擇一個, 並在其號碼上打圈。													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
②頻率是多久一次? 請打圈。													
1. 一年 2、3次		2. 一個月 2、3次		3. 一星期 1次		4. 一星期 2、3次		5. 每天					

③那東西是誰的?					
1. 自己的	2. 家人的	3. 朋友或認識的人的	4. 學校的		
5. 公司的	6. 其他 _____				
④主要是哪方面的內容? (可複選)					
1. 政治・經濟	2. 社會・生活	3. 科學技術	4. 文化・藝術	5. 運動・興趣	
6. 日文・日文學習	7. 日本人	8. 日本	9. 其他 _____		
⑤聽它或看它的理由為何? 在下列各選項中, 選出符合自己程度的數字。如果有選項外的理由時, 請寫在「其他」處, 並也請依程度標示。					
	完全符合				完全不符合
1. 因為很有趣	5	4	3	2	1
2. 因為想接觸日文	5	4	3	2	1
3. 因為想測試自己的日文能力	5	4	3	2	1
4. 因為想增進或維持日文能力	5	4	3	2	1
5. 因為可以得到各式各樣的情報	5	4	3	2	1
6. 因為可以了解日本或日本人	5	4	3	2	1
7. 因為工作上的需要	5	4	3	2	1
8. 因為研究的需要	5	4	3	2	1
9. 其他 _____	5	4	3	2	1

Q2-4 (在02-1回答「1」的人, 不需要回答。)

除日文課外, 不聽或不看使用日文的東西的理由為何? 請從下面的選項中, 選一個最接近您想法的答案。

1. 因為沒有想要聽它或看它
2. 因為沒有時間
3. 因為自己的日文能力不夠
4. 因為要花錢才能使用它
5. 因為很難到手
6. 其他 _____

Q3 在課外也會使用現在用的日文教科書或老師在課堂上發的講義嗎?

1. 會 (一題檢 03-1)
2. 不會 (一題檢 03-2)

Q3-1 在課外的時間讀教科書或課堂上老師發的講義時, 是用下面選項中的哪些方式呢? 請在

() 內打圈, 並在最常使用的方式上打雙圈⊙。(可複選)

- () 1. 查單字、句子的意思
- () 2. 注漢字的拼音
- () 3. 翻成中文
- () 4. 問懂日文的人
- () 5. 作練習題
- () 6. 聽附的錄音帶
- () 7. 作單字本
- () 8. 自己造句
- () 9. 默記、背誦
- () 10. 找對象來練習會話
- () 11. 其他 _____

Q3-2 (在Q3答「1」的人, 不需要回答.)

課堂時間外, 不使用日文教科書或老師發的講義之理由為何?

1. 因為不在課堂時間外唸日文
2. 因為不知道如何使用才好
3. 因為對日文沒有特別有興趣
4. 因為很難懂
5. 其他 _____

Q4 在過去的3年內, 有去過(如下表Q4-1)等地方和日本人交流或與日文接觸嗎?

1. 有 (→請按 Q4-1、Q4-2)
2. 沒有 (→請按 Q5)

Q4-1 請在有經歷過之經驗選項上打圈, 並圈出其經歷之地點。若此地點並非在台灣或日本時, 請填寫於「其他」欄處。

	機會・場所	台灣	日本	其他
1	參加與日本人的交流會			
2	到日本人家拜訪・寄宿			
3	有日本到您家拜訪・寄宿			
4	日文演講比賽			
5	在使用日文的工作場所打工・工作			
6	參加有關日本・日語的活動			
7	到有日本人的地方 日本人聚集的場所			
8	有關日本・日語的資料中心・圖書館 (如: 交流協會的日語中心 國家圖書館的日語閱覽室)			
9	日文的卡拉OK			
10	其他 _____			

Q4-2 在上述會有的經驗中, 有還想再體驗一次或還想一直持續下去的事嗎? 從 Q4-1 的選項中,

選出一個您最想要再體驗的事, 並填於下表中。

1. 有
 2. 沒有
- ←從 Q4-1 的 10 個選項中選出一個。

Q5 爲了學習日文, 現在所使用東西有哪些? 請在下列選項的 () 中打圈, 並在最常使用的東西上打雙圈⊙。(可複選)

- () 1. 學習參考書・問題集 一下面的哪一種?
 [() 1. 文法 () 2 作文 () 3. 語彙 () 4. 漢字 () 5. 會話
 () 6. 能力測驗問題集 () 7. 閱讀 () 8 其他 _____]
- () 2 字典 (書名: _____)
 () 3 漢字字典 (書名: _____)
 () 4 日文的語言學習錄音帶
 () 5 錄影帶教材
 () 6 日文學習的廣播
 () 7 日語學習的電腦軟體
 () 8 上網收集資料
 () 9 日文的網路教學軟體

- () 10 電子郵件・上網聊天 (msn 等)
 () 11. 日語的電視節目
 () 12. 日語的電影
 () 13. 日文的漫畫・卡通
 () 14. 日文的小說或雜誌・報紙等等的書籍
 () 15. 使用日文的遊戲軟體
 () 16. 日文歌
 () 17. 其他 _____

Q6 爲了日語學習或了解日本, 在下面的選中, 請在今後希望充實的項目上打圈, 並在特別強烈希望充實的項目上打雙圈⊙。(可複選)

- () 1. 教科書一怎樣的書? _____
 () 2 學習參考書・問題集一下面的哪一種?
 [() 1. 文法 () 2 作文 () 3. 語彙 () 4. 漢字 () 5. 會話
 () 6. 能力測驗問題集 () 7. 閱讀 () 8 其他 _____]
- () 3 字典一下面的哪一種呢?
 [() 1. 中-日 () 2 日-中 () 3. 其他 _____]
- () 4 漢字字典
 () 5 日文的語言學習錄音帶
 () 6 錄影帶教材
 () 7 日文學習的廣播
 () 8 日語學習的電腦軟體
 () 9 有系統的網路學習教材
 () 10. 日文的小說或雜誌・報紙等等的書籍
 () 11. 日語的電視節目
 () 12. 日文的電影
 () 13. 使用日文的遊戲軟體
 () 14. 與日本人交流 (派對、健行、料理教室等等)
 () 15 到日本人家拜訪・寄宿
 () 16 日語演講比賽
 () 17. 有關日本或日文的活動
 () 18. 使用日文的打工
 () 19. 留學的機會
 () 20. 語言交換・用電子郵件交換意見
 () 21. 其他 _____

感謝您協助填寫此份問卷, 謝謝您!

教師用調査票（日本語版・中国語版）

「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」への

御協力をお願い

国立国語研究所日本語教育部門では、「日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究」を行っております。

インターネットを始めとする様々な情報流通のあり方の変化に伴い、日本語を学習する、あるいは教える環境や手段も多様化し、支援のあり方も柔軟に対応する必要があります。そのためには、まず国内外で日本語を学習、あるいは教えている方々がどのような環境で日本語を学習、あるいは教え、どのような手段で日本語を学習、あるいは教えているかについて広く情報収集し、「多様化」している現状を把握する必要があります。その一環として、本年度は、日本語教育支援のための基礎研究として、台湾での日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査を行っております。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解くださり、ご回答くださるようお願い致します。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
 独立行政法人国立国語研究所日本語教育部門
 部門長 杉戸清樹
 石井恵理子
 金田智子
 小河原義明

TEL:+81-3-5993-7660 (金田)
 FAX:+81-3-3906-3530
<http://www.kokken.go.jp/js/>

御記入にあたってのお願い

- (1)御回答は、研究目的のためにのみ使わせていただきます。また、回答は統計処理を施して総括的に公表しますので、個別の回答を公表することはありません。
- (2)御回答の方法は、各質問項目について異なりますので、各質問項目の指示にご注意ください。
- (3)自由記述の項目及び「その他」を選択された場合は、その具体的な内容についてお書きください。
- (4)2003年 月 日()までに担当の先生に御返却ください。
- (5)もし何か御不明の点がありましたら、下記までご連絡ください。

<教師用アンケート>

※選択肢のあるものは番号に○をしてください。日本語が母語の方は F5、F6、F9 の質問には答える必要はありません。

F1 性別 1. 男 2. 女

F2 国籍 _____

F3 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上

F4 母語<最もよく話せることば> _____ 語

F5 日本語学習歴 _____年 _____ヶ月 (日本での学習歴 _____年 _____ヶ月)

【内訳】 大学・大学院 _____年 _____ヶ月
 四年制技術学院 _____年 _____ヶ月
 二年制技術学院 _____年 _____ヶ月
 専科学校
 1. 五年制 _____年 _____ヶ月
 2. 二年制 _____年 _____ヶ月
 高校 _____年 _____ヶ月
 中学 _____年 _____ヶ月
 小学校 _____年 _____ヶ月
 その他の教育施設 _____年 _____ヶ月
 企業 _____年 _____ヶ月
 その他 _____年 _____ヶ月

F5-1 その他の外国語学習歴 _____語 _____年 _____ヶ月
 _____語 _____年 _____ヶ月

F6 日本に行った経験がありますか 1. ある(→F6-1・F6-2へ) 2. ない(→F7へ)

F6-1 「1.ある」と答えた方にお尋ねします。日本に行った回数と期間をお書き下さい。
 回数 _____回 期間(延べ) _____年 _____ヶ月 _____日

F6-2 「1.ある」と答えた方はその目的は何ですか(複数回答可)

1. 観光
2. 仕事
3. 短期留学(6ヶ月未満)
4. 短期留学(6ヶ月以上～1年未満)
5. 長期留学(1年以上)
6. 企業研修
7. 国際交流
8. 親族訪問
9. 家族滞在
10. その他 _____

F7 日本語教育経験(今まで何年間教えましたか) 合計 _____年 _____ヶ月

※各教育レベルで教えた年数をお書きください。

【内訳】 大学・大学院 _____年 _____ヶ月
 四年制技術学院 _____年 _____ヶ月
 二年制技術学院 _____年 _____ヶ月

専科学校

1. 五年制 _____年 _____ヶ月

2. 二年制 _____年 _____ヶ月

高校 _____年 _____ヶ月

中学 _____年 _____ヶ月

小学校 _____年 _____ヶ月

その他の教育施設 _____年 _____ヶ月

企業 _____年 _____ヶ月

その他 _____年 _____ヶ月

--	--

【話すこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 簡単な自己紹介ができる。
3. 日常生活に困らない程度の表現を使える。
4. 自分の意見や考えをまとめて話すことができる。
5. 母語と同じように話せる。

①現在	②将来

F8 日本語以外の教育経験 _____年 科目名 _____

F9 あなたは現在、日本語がどのぐらいできますか(①)。そして、将来どのぐらいできるようになるまで勉強したいと思っていますか(②)。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」それぞれについて、最も適当なものを選んで、表の中に記入してください。

【読むこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 学習者用に書かれたものなら、だいたい理解できる。
3. 簡単な文章ならだいたい理解できる。
4. 辞書を使って新聞や雑誌、興味のある分野の本などがだいたい理解できる。
5. 母語と同じように読める。

①現在	②将来

【書くこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 短い文を書くことができる。
3. 友人や身近な人への手紙を書くことができる。
4. 改まった手紙・レポートなど、まとまった文章が書ける。
5. 母語と同じように書ける。

①現在	②将来

【聞くこと】

1. わからない。考えたことがない。
2. 日常生活で使う簡単な表現、指示などを理解することができる。
3. 会話の中で相手の考えや意見をだいたい理解することができる。
4. テレビニュース、学校の講義などまとまった話がほぼ理解できる。
5. 母語と同じように聞いて理解できる。

①現在	②将来

F10 日本語教師になった理由は何ですか。(自由記述)

F11 日本語教育に関する学会、研究会、教師会などに参加したことがありますか。

1. はい (→F11-1へ)
2. いいえ (→F12へ)

F11-1 参加したことがある学会・研究会・教師会名を記入し、参加経験、発表経験や役員経験があるものに○をつけてください。

学会・研究会・教師会名	参加のみ	発表経験	役員経験

F12 教師になってから日本語教育の研修を受けたことがありますか。

1. はい (→F12-1へ)
2. いいえ (→Q1へ)

F12-1 全部で何回、研修を受けましたか。 _____回

F12-2 そのうちの主なものについて記入してください。

研 修 名	期間(例 2日間、1ヶ月)

1 普段なさっている御自分の授業について質問をします。

Q1 授業ではどんなものを使いますか。

どのぐらいの頻度で使っているか、それぞれについてお答えください。

	いつも 使う	よく 使う	ときどき 使う	1, 2回使った ことがある	使わない
1. 市販の教科書	5	4	3	2	1
2. 生教材	5	4	3	2	1
<「生教材」の種類は、Q2.を参照してください>					
3. 問題集	5	4	3	2	1
4. プリント教材(自作)	5	4	3	2	1
5. 音声テープ(市販)	5	4	3	2	1
6. 音声テープ(自作)	5	4	3	2	1
7. ビデオ(市販)	5	4	3	2	1
8. ビデオ(自作)	5	4	3	2	1
9. 絵	5	4	3	2	1
10. 文字カード/フラッシュカード	5	4	3	2	1
11. 実物	5	4	3	2	1
12. その他 _____	5	4	3	2	1

Q2 Q1で生教材を使うと答えた方のみお答えください。

どんな生教材を使いましたか。(複数回答可)

1. 新聞 2. 雑誌 3. 本 4. テレビ番組 5. ビデオ 6. インターネット
7. 写真 8. マンガ 9. テープ・CD 10. その他 _____

Q2-1 なぜそれらを使いましたか。次の中からあなたの考えに近いものを選んでください。(複数回答可)

1. 学習者に本物の日本語に触れさせるため
2. 日本の事物や文化に触れさせるため
3. 日本語能力の向上には欠かせないため
4. 学習者の興味・関心をひくため
5. 学習者が希望したから
6. その他 _____

Q3 Q1で自作教材を使うと答えた方のみお答えください。

どんな自作教材を使いましたか。(複数回答可)

1. 活動用補助シート(タスクシート、ロールカードなど)
2. フラッシュカード(絵カード、文字カードなど)
3. 練習問題などのプリント
4. 読解用のプリント
5. 音声教材(テープ)

6. 学習項目説明のためのプリントなど
7. コンピューターを使って教える教材
8. その他 _____

Q4 授業で機材を使いますか。 1. はい (←04-1へ) 2. いいえ (←05へ)

04-1 「1. はい」と答えた人はどんな機材を使いますか。(複数回答可)

1. ビデオ 2. テープレコーダー 3. OHP 4. コンピューター
5. その他 _____

Q5 授業で日本語をどのぐらい使いますか。レベル別に○を記入してください。

		初級	中級	上級
日本語だけを使う	あいさつ			
	例文や本文を読む			
	指示を出す			
	言葉の意味や文法の説明			
	アクティビティの説明			
	その他 _____			
	一部日本語を使う			

Q6 次の中で、授業準備のためや、日本語や日本について知るために、利用するものや相談する相手はどれですか。()に○をつけてください。またその中でよく利用するものや相談する相手には◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1. 特に何もしない () 2. 教科書
() 3. 教科書に付随した指導書 () 4. 文法解説書
() 5. 参考書 () 6. 日本語辞書(書名:)
() 7. 漢字辞典(書名:) () 8. ビデオ
() 9. 日本語学習のための音声テープ () 10. 日本語学習のためのコンピューターソフト
() 11. インターネット () 12. テレビ番組
() 13. 映画 () 14. 日本語の取(テープ、CD)
() 15. 参加した研修会での資料等 () 16. 他の台湾人教師
() 17. 他の日本人教師 () 18. 日本人アシスタント
() 19. 教師以外の人 () 20. 前回の教案
() 21. その他 _____

Q7 日本語教師の能力について、それぞれどのぐらい重要だと思いますか。

	非常に重要			重要ではない		
1. 日本語運用能力	5	4	3	2	1	
2. 言語教育能力	5	4	3	2	1	
3. 日本語の知識	5	4	3	2	1	
4. クラスマネジメント	5	4	3	2	1	
5. 日本に関する知識	5	4	3	2	1	
6. その他 _____	5	4	3	2	1	

Q8 日本語教師としての資質・能力向上のために以下の1～7をどのぐらいしていますか。「ほとんどしない」場合、その理由は何ですか。下の□の中から選んで、____に記入してください。1～7それぞれについて答えてください。

	よくする	ややする	ほとんどしない	
1 研究会や勉強会に出席する	3	2	1	理由_____
2 参考書や専門書で勉強する	3	2	1	理由_____
3 他の教師と話す	3	2	1	理由_____
4 他の教師の授業を見学する	3	2	1	理由_____
5 自分の授業を見てもらう	3	2	1	理由_____
6 異なる指導法・教材を検討し、経験する	3	2	1	理由_____
7 テーマを決めて研究する	3	2	1	理由_____

<「ほとんどしない」理由>

1 研究会等を知らなかったから	6 現在の職場では問題がないから
2 研究会等の機会がないから	7 十分な日本語教育能力があるから
3 お金がかかるから	8 忙しいから
4 研究会等の場所が遠いから	9 その他 _____
5 興味が無いから	

Q8-1 日本語教師としての資質・能力向上のために、他にどんなものが役に立つと思いますか。何かございましたら、ご自由にお書きください。また、その中で経験したことがあるものには番号に○をしてください。

1 _____ 2 _____
3 _____ 4 _____

Q9 普段、コンピューターを使いますか。

- 1 はい (→09-1へ)
2 いいえ (→010へ)

Q9-1 普段、コンピューターでどんなことをしていますか。していること全てに○をしてください。

- ワープロソフトを使って教材等を作成する
- インターネットを利用して、情報を収集する
- 電子メールを送受信する
- チャット (msn など)
- プレゼンテーション用ソフト (Power point など) を使って、授業や発表を行う
- ホームページ作成ソフトを使ってホームページを作る
- コンピューターを使って教える教材 (CAI 教材 / web 学習教材) を作成する
- その他 _____

Q10 日本語教育のために、コンピューターを利用することは必要だと思いますか。

とても必要 4 どちらともいえない 3 全く必要ない 1

Q11 台湾の日本語教師の資質・能力向上のために、今後、充実を希望するものには()に○を、特に強く希望するものには◎をつけてください。(複数回答可)

- () 1 文法解説書 一次のどれですか。[1 初級 2 中級 3 上級]
 () 2 辞書 一次のどれですか。[1 中-日 2 日-中 3 その他 _____]
 () 3 漢字字典 一次のどれですか。[1 中国語で説明 2 日本語で説明]
 () 4 教師用指導参考書 一どんなものですか。 _____
 () 5 日本語学習のための音声テープ
 () 6 日本語学習のためのコンピューターソフト 一次のどれですか。
 [1 作文 2 発音 3 漢字 4 文法 5 その他 _____]
 () 7 web 日本語学習プログラム 一どんなものですか。 _____
 () 8 日本語のテレビ番組
 () 9 日本語の映画
 () 10 日本語を使ったゲームソフト
 () 11 日本人との交流
 () 12 日本人との言語交換学習
 () 13 日本人家庭への訪問、ホームステイ
 () 14 日本・日本語・日本語教育に関するイベント
 () 15 日本語教師養成・研修コース (大学・大学院)
 () 16 教師間のネットワーク
 () 17 研修会
 () 18 訪日研修
 () 19 その他 _____

Q12 日本語の授業のためにあったらいいと思うものや充実したほうがいいと思うものは何ですか。(自由回答)

II *以下は、日本語が母語でない方のみお答えください。

Q13 日本語の授業以外で日本語を使ってやりとり（会話、電話、手紙、電子メールなど）をすることはありますか。

1. はい（-013-1, 013-2へ） 2. いいえ（-013-3へ）

Q13-1 日本語の授業以外でどんな人と日本語でやりとりしますか。やりとりする人全員に○をし、その方法を選んで○をつけてください。（複数回答可）

○	方法	会話	手紙	電話	電子メール	チャット (msn など)
1	相手の					
1	日本語の教師					
2	日本語以外の教師					
3	日本人アシスタント					
4	日本人留学生					
5	店やレストランの店員					
6	家族・親戚等					
7	知り合い					
8	日本の関係機関の人					
9	その他					

Q13-2 Q13-1で○をした中で、もっともよく日本語でやりとりをする人あるいは人達について、答えてください。

① その人はQ13-1の1~9のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。
1 2 3 4 5 6 7 8 9
② どの国の人ですか。
1. 台湾人 2. 日本人 3. その他
③ 性別
1. 男 2. 女
④ やりとりをするようになった頃、あなたの日本語はどうでしたか。○を付けてください。
1. ほとんどできなかった 2. 少しできた 3. 日常会話程度できた 4. かなりできた 5. 日本人と同程度できた
⑤ やりとりをする頻度はどのぐらいですか。1つ選んでください。
1. 年に2, 3回 2. 月2, 3回 3. 週1回 4. 週2, 3回 5. 毎日
⑥ やりとりの主な手段は何ですか。（複数回答可）
1. 会って話す 2. 電話で話す 3. 手紙 4. 電子メール 5. チャット (msn など) 6. その他
⑦ その人とやりとりをする時、日本語をどのぐらい使いますか。
1. 全部日本語 2. 主に日本語 3. 日本語と他の言語が半々 4. 主に他の言語
⑧ 主にどんなことについて話しますか。（複数回答可）
1. 日本語について 2. 勉強について 3. 仕事について 4. 生活について 5. 趣味について 6. 社会について 7. その他

⑨ やりとりをその人とするとき、なぜ日本語を使うのですか。下の項目それぞれについて、5~1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。

	全く好き	どちらともいえない	全く好きでない
1. 日本語を使うのは楽しいから	5	4	3 2 1
2. 日本語の母語話者と話したいから	5	4	3 2 1
3. 日本語能力向上や維持のため	5	4	3 2 1
4. 仕事として職務づけられているから	5	4	3 2 1
5. 日本語が最もわかりやすい言葉だから	5	4	3 2 1
6. 相手が使うから	5	4	3 2 1
7. 習慣になっているから	5	4	3 2 1
8. その他	5	4	3 2 1

Q13-3 (Q13で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外で日本語を使わない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

- 日本語を使う相手がいないから
- 日本語を使いたいと思わないから
- 自分の日本語力が充分ではないから
- 恥ずかしいから
- 自信がないから
- 中国語などの言語の方が便利だから
- その他

Q14 身の回りに、日本語が使われているものはありますか。（日本語学習教材は除きます。）

1. はい（-014-1へ） 2. いいえ（-015へ）

Q14-1 日本語の授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりすることはありますか。

1. はい（-014-2, 014-3へ） 2. いいえ（-014-4へ）

Q14-2 授業以外でどんなもの（日本語が使われているもの）を見たり聞いたりしますか。あてはまるもの全てに○をしてください。（複数回答可）

- 新聞
- 雑誌
- 本
- 漫画
- 商品のパッケージや解説書
- テレビ(ニュース、ドラマなど)
- ラジオ
- ビデオ・DVD
- CD
- 音声テープ
- コンピューター（インターネット等）
- ゲームソフト
- 看板や店内の表示
- その他

Q14-3 Q14-2で○をした中で、最もよく見たり聞いたりするもの一つについて、答えてください。

① それはQ14-2の1~14のどれですか。*1つだけ選んで下の番号に○をしてください。
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
② 頻度はどのぐらいですか。○を付けてください。
1. 年に2, 3回 2. 月2, 3回 3. 週1回 4. 週2, 3回 5. 毎日
③ それは誰のものですか。
1. 自分のもの 2. 家族のもの 3. 友人や知り合いのもの 4. 学校のもの

5. 会社のもの	6. その他 _____			
④ 主にどんな内容ですか。(複数回答可)				
1. 政治・経済	2. 社会・生活	3. 科学技術	4. 文化・芸術	5. スポーツ・趣味
6. 日本語・日本語学習	7. 日本人	8. 日本	9. その他 _____	
⑤ 見たり聞いたりする理由は何ですか。下の項目それぞれについて、5～1の尺度で答えてください。また、それ以外に理由がある場合は、「その他」に記入の上、同様に答えてください。				
		全く そう	どちらとも いえない	全く 그렇지 ない
1. 楽しいから		5	4 3	2 1
2. 日本語に触れたいから		5	4 3	2 1
3. 日本語の力を試してみたいから		5	4 3	2 1
4. 日本語能力の向上や維持のため		5	4 3	2 1
5. 様々な情報が得られるから		5	4 3	2 1
6. 日本や日本人について知ることができるから		5	4 3	2 1
7. 仕事のため		5	4 3	2 1
8. 研究のため		5	4 3	2 1
9. その他 _____		5	4 3	2 1

Q14-4 (014-1で「1」と答えた人は回答する必要はありません。)

授業以外の時間に、日本語が使われているものを見たり聞いたりしない理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ選んでください。

1. 見たり、聞いたりしたいと思わないから
2. 時間がないから
3. 自分の日本語力が充分でないから
4. 利用するのにお金がかかるから
5. 手に入りにくいから
6. その他 _____

Q15 過去3年の間に、台湾、あるいは日本で次の表(Q15-1)のような日本人や日本語に接する機会や場所を経験したことがありますか。

1. はい (→015-1, 015-2へ)
2. いいえ (→以上です)

Q15-1 経験したことがあるものの番号に○をし、台湾、日本のどちらで経験したか○をつけてください。台湾・日本のいずれでもない場合は、「その他」の欄に因名を記入してください。

	機会・場所	台湾	日本	その他
1	日本人との交流会			
2	日本人家庭への訪問・ホームステイ			
3	自宅への日本人の訪問・ホームステイ			
4	日本語のスピーチコンテスト			
5	日本語が使われている職場でのアルバイト・仕事			
6	日本・日本語に関するイベント			
7	日本人のいる場所、日本人が集まる場所			
8	日本・日本語に関する資料センター・図書館 (例：交流協会の日本語センター、国家図書館の日韓閲覧室)			

9	日本語のカラオケ			
10	その他 _____			

Q15-2 経験したことがある場合、もう一度経験したい、あるいは継続して経験したいと思うものはありますか。最も経験したいと思うものを Q15-1 の選択肢の中から一つだけ選んで記入してください。

1. ある

→015-1の選択肢の番号を一つ記入してください

2. ない

ご協力ありがとうございました。

「日語教育的學習環境與學習方式」之

問卷調查

國立國語研究所的日語教育部門 目前正進行一項有關「日語教育的學習環境與學習方式」的調查研究。

以網際網路為始，隨著各式各樣情報交流方式的轉變，學習日語或教授日語的環境與方式也趨向多元，因此輔助日語學習之方法也應有適當的因應方式。為了找尋適切之因應方式，必須先廣泛收集國內外日語學習者、教授者是在怎樣的環境下學習、教授日文以及是用哪些方式來學習或教授日文，藉此掌握「多元化」的現況。為此，作為其中之一環，本年度開始就台灣的日語教育的學習環境與學習方式進行調查，以作為輔助日語教育的基礎研究。

非常感謝您百忙之中抽空填寫問卷，請您依據自身現況逐步填寫以下各問題，最後再次感謝您的配合與協助，謝謝！

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
 独立行政法人 国立国語研究所日本語教育部門
 部門長 杉戸清樹
 石井忠理子
 金田智子
 小河原義朗
 TEL:+81-3-5993-7660 (金田)
 FAX:+81-3-3906-3630
 http://www.kokken.go.jp/jsl/

填寫問卷時之注意事項

- (1)您所作的回答僅用於研究，決不用於他途。且所有的回答經統計處理後，僅作整合性的公開發表，有關個別回答部分決不公開。
- (2)作答的方式，依各個選項而有所不同，請遵從各項目的指示作答。
- (3)在自由填寫的項目及選擇「其他」選項時，請寫出有關之具體內容。
- (4)到 2003 年 月 日()為止，請把問卷交還給負責的老師。
- (5)如果有任何不明瞭之處，請與下列單位連絡。

連絡單位：

金田智子(東京) kaneda@kokken.go.jp
 藤井彰二(台北·交流協會) fujii@mail.japan-taipei.org.tw

<教師用問卷>

※ 請在選項處打圈。日語為母語者，不需要回答 F5、F6、F9 的問題。

F1 性別 1. 男 2. 女

F2 國籍 _____

F3 年齡 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歲以上

F4 母語(最常使用的語言) _____語

F5 日語學習經歷 _____年 _____個月 (在日本的學習經歷 _____年 _____個月)

【細分】 大學 大學院 _____年 _____個月
 四年制技術學院 _____年 _____個月
 二年制技術學院 _____年 _____個月
 專科學校
 1. 五年制 _____年 _____個月
 2. 二年制 _____年 _____個月
 高中 _____年 _____個月
 中學 _____年 _____個月
 小學 _____年 _____個月
 其他的教育機構 _____年 _____個月
 企業 _____年 _____個月
 其他 _____年 _____個月

F5-1 其他的外語學習經歷 _____語 _____年 _____個月
 _____語 _____年 _____個月

F6 有去過日本嗎? 1. 有(一請按 F6-1・F6-2) 2. 沒有(一請按 F7)

F6-1 有去過日本者請作答。請寫出去日本的次數與期間。

次數 _____次 期間(總共) _____年 _____個月 _____天

F6-2 去日本的目的為何? (可複選)

1. 觀光
2. 工作
3. 短期留學(未滿6個月)
4. 短期留學(6個月以上~未滿1年)
5. 長期留學(1年以上)
6. 企業研修
7. 國際交流
8. 探訪親友
9. 家人搬回日本
10. 其他 _____

F7 日語教學經歷（到目前為止共教了幾年）共 _____年_____個月

※請寫出在各級教育機構所教的年數

【編分】 大學 大學院 _____年_____個月
 四年制技術學院 _____年_____個月
 二年制技術學院 _____年_____個月
 專科學校
 1. 五年制 _____年_____個月
 2. 二年制 _____年_____個月
 高中 _____年_____個月
 中學 _____年_____個月
 小學 _____年_____個月
 其他的教育機構 _____年_____個月
 企業 _____年_____個月
 其他 _____年_____個月

F8 日語以外的教育經歷 _____年 科目名稱 _____

F9 現在的日文能力為何？(①) 希望將來達到怎樣的程度？(②) 分別針對「聽」「說」「讀」「寫」四技能選出最適當的選項，填寫於右表中。

【讀】

1. 不知道，沒想過。
2. 若是學習者用之教材可以大致了解。
3. 能大致讀懂簡單的文章。
4. 如果有字與輔助，能大致了解報章雜誌或自己感興趣領域的書。
5. 可以像讀母語一樣流暢。

①現在	②將來

【寫】

1. 不知道，沒想過。
2. 會寫簡短的文章。
3. 能寫與好友間的簡單書信或電子郵件。
4. 能寫正式的書信、報告等等有條理性的文章。
5. 能寫得母語一樣流暢。

①現在	②將來

【聽】

1. 不知道，沒想過。
2. 能聽得懂日常生活常用之簡單表現、指示等。
3. 能大致理解對話中，對方的想法或意見。
4. 能大致理解電視新聞、學校課程等等有條理性的內容。
5. 能像聽母語一樣。

①現在	②將來

【說】

1. 不知道，沒想過。
2. 會簡單的自我介紹。
3. 會日常生活中所需之必要表現。
4. 能有條理性地表達自己的意見或想法。
5. 可以說得和母語一樣。

①現在	②將來

F10 成為日語教師的理由為何？（請自由發揮）

F11 有參加過有關日語教育的學會、研究會、教師會嗎？

1. 有（→選擇F11-1）
2. 沒有（→選擇F12）

F11-1 寫出曾參加過的學會、研究會、教師會名稱，並在參加、發表或幹部欄處以自身情況打圈。

學會、研究會、教師會名稱	只參加	有發表過	當過幹部

F12 成為教師後有參加過日語教育的研修嗎？

1. 有（→選擇F12-1）
2. 沒有（→選擇Q1）

F12-1 總共參加過幾次研修？ _____次

F12-2 寫出其中較主要的研修名稱。

研修名稱	期間(如：2天、1個月)

1 接下來想請教您的教學情形。

Q1 在課堂上使用哪些東西？

使用這些東西的頻率為何，請一一作答。

	很常用	常用	偶爾用	用過1、2次	不使用
1. 市面上販售的教科書	5	4	3	2	1
2. 生活實際教材〈日本人日常生活所接觸之各種媒體〉 〈請參照Q2.「生活實際教材」的種類〉	5	4	3	2	1
3. 問題集	5	4	3	2	1
4. 講義（自製）	5	4	3	2	1
5. 錄音帶（市面上販售）	5	4	3	2	1
6. 錄音帶（自製）	5	4	3	2	1
7. 錄影帶（市面上販售）	5	4	3	2	1
8. 錄影帶（自製）	5	4	3	2	1
9. 圖畫	5	4	3	2	1
10. 文字卡/圖、字卡	5	4	3	2	1
11. 實物	5	4	3	2	1
12. 其他 _____	5	4	3	2	1

Q2 有使用「生活實際教材」的人請回答。

使用哪些教材呢？(可複選)

1. 報紙 2. 雜誌 3. 書籍 4. 電視節目 5. 錄影帶 6. 網際網路
7. 照片 8. 漫畫 9. 錄音帶 - CD 10. 其他 _____

Q2-1 為何使用這些教材？請從以下選項選出較接近您想法的答案。(可複選)

1. 因為想讓學習者接觸真正的日語材
2. 因為想讓學習者接觸日本事物或文化
3. 因為這是提高日文能力所不可或缺的
4. 因為想要引起學習者的興趣
5. 因為順應學習者的希望
6. 其他 _____

Q3 在 Q1 圈選自製教材者請作答。

使用哪些自製教材呢？(可複選)

1. 活動用輔助卡 (課題卡、角色扮演卡等等)
2. 紙卡 (圖卡、字卡等等)
3. 含練習問題等內容的講義
4. 讀解用的講義
5. 音聲教材 (錄音帶)
6. 說明學習項目的講義等
7. 自製日文學習之電腦教學教材
8. 其他 _____

Q4 在課堂上有使用器材嗎？ 1. 有 (一請檢 Q4-1) 2. 沒有 (一請檢 Q5)

Q4-1 若有用器材者是使用哪些器材呢？(可複選)

1. 錄影帶 2. 錄放音機 3. 投影機 4. 電腦 5. 其他 _____

Q5 在課堂上用多少日文呢？請依程度打圈。

		初級	中級	高級
全用日文				
有使用日文的部分	招呼語			
	例句或課文			
	作出指示			
	說明字句的意思或文法解釋			
	說明活動			
其他 _____				

Q6 為了備課或為了了解日本或日語，有使用哪些東西或是請教誰呢？請在以下選擇的 () 內打圈，

並在幫使用的東西或商談的對象打雙圈 ⊙。(可複選)

- () 1. 沒有特別做些什麼 () 2. 教科書
() 3. 教科書附的指導手冊 () 4. 文法解說書
() 5. 參考書 () 6. 日語字典(書名: _____)
() 7. 漢字字典(書名: _____) () 8. 錄影帶
() 9. 學習日語的錄音帶 () 10. 學習日語的電腦軟體
() 11. 網際網路 () 12. 電視節目
() 13. 電影 () 14. 日文歌 (卡帶、CD)
() 15. 參加研習會的資料等 () 16. 其他的台灣人教師
() 17. 其他的日本人教師 () 18. 日本人的助教
() 19. 教師以外的人 () 20. 之前的教案
() 21. 其他 _____

Q7 關於日文教師的能力，您認為下列 6 項的重要性為何？

	非常重要	重要	一般	不重要
1. 日語的運用能力	5	4	3	2
2. 語言教育的能力	5	4	3	2
3. 日語的知識	5	4	3	2
4. 帶班能力	5	4	3	2
5. 有關日本的知識	5	4	3	2
6. 其他 _____	5	4	3	2

Q8 為增進身為日文教師應有的資質・能力，有以下的 7 種方法，您從事的頻率為何？

答「幾乎不做」者，其理由請由下面 _____ 中選項選出，並填在理由 _____ 處上。

	常做	偶爾	幾乎不做	理由
1. 參加研習會或學習會	3	2	1	理由 _____
2. 研讀參考書或專門的書籍	3	2	1	理由 _____
3. 與其他教師商談	3	2	1	理由 _____
4. 觀摩其他教師的上課情形	3	2	1	理由 _____
5. 請別人來看自己上課	3	2	1	理由 _____
6. 檢討與施行不同的教法・教材	3	2	1	理由 _____
7. 選定一個主題研究它	3	2	1	理由 _____

<「幾乎不做」的理由>

1. 因為不知道有研習會等	6. 因為就現在的工作來說沒有問題
2. 因為沒有研習會的機會	7. 因為有足夠的日語教育能力
3. 因為要花費金錢	8. 因為很忙
4. 因為研習會的場地很遠	9. 其他 _____
5. 因為沒興趣	

Q8-1 為增進日語教師的資質・能力，還有哪些是有助益的呢？如果有的話，請寫下來，並在有過經驗處的號碼上打圈。

1. _____ 2. _____
3. _____ 4. _____

Q9 平常使用電腦嗎?

1. 有 (一題按 09-1)
2. 沒有 (一題按 10)

Q9-1 平常用電腦做些什麼事呢? 有做的請全部打圈。

1. 使用電腦軟體來製作教材
2. 利用網路來收集情報
3. 傳送電子郵件
4. 上網聊天 (msn 等)
5. 使用簡報用軟體 (Power point 等) 來教學或報告
6. 使用製作網頁的軟體來做網頁
7. 使用電腦製作日文學習教材 (CAI 教材/網路學習教材)
8. 其他 _____

Q10 在日語教育上, 您認為使用電腦是必要的嗎?

- | | | |
|------|------|-----|
| 非常必要 | 可有可無 | 不重要 |
| 5 | 4 | 3 |
| | 2 | 1 |

Q11 為增進台灣日文教師的資質・能力, 請在今後希望充實的項目上打圈, 並在特別強烈希望充實的項目上打雙圈◎。(可複選)

- () 1. 文法說明書 一是下面的那一種呢? | 1. 初級 2. 中級 3. 上級
- () 2. 字典 一是下面的那一種呢? | 1. 中-日 2. 日-中 3. 其他 _____
- () 3. 漢字字典 一是下面的那一種呢? | 1. 用中文說明 2. 用日文說明
- () 4. 教師用的指導手冊 一是怎樣的書呢? _____
- () 5. 日文的語言學習錄音帶
- () 6. 日語學習的電腦軟體 一是下面的那一種呢?
| 1. 作文 2. 發音 3. 漢字 4. 文法 5. 其他 _____
- () 7. 有系統的綜合日文學習教材 一是怎樣的教材呢? _____
- () 8. 日語的電視節目
- () 9. 日文的電影
- () 10. 使用日文的遊戲軟體
- () 11. 與日本人交流
- () 12. 與日本人作語言交換
- () 13. 到日本人家拜訪、寄宿
- () 14. 有關日本・日語・日語教育的相關活動
- () 15. 日本教師培訓班・研修課程 (大學・研究所)
- () 16. 教師間的人際網絡
- () 17. 研修會
- () 18. 訪日研修
- () 19. 其他 _____

Q12 為了日語教學, 您認為還有哪些必要或需要加強的地方呢? (請自由發揮)

II *請非日語母語者填寫以下問題。

Q13 有在日文課之外使用日文(會話、電話、信、電子郵件等)嗎?

1. 有 (一題按 013-1-013-2)
2. 沒有 (一題按 013-3)

Q13-1 在日文課之外和怎樣的人使用日文呢? 在使用日文的對象之數字上打圈, 並圈出其使用方法。(可複選)

O	方法	談話	信	電話	電子郵件	上網聊天 (msn 等)
1	對象					
1	日語老師					
2	日語老師以外的老師					
3	日本人助教					
4	日本人留學生					
5	商店及餐廳的店員					
6	家人・親戚等					
7	認識的人					
8	日本機構的人					
9	其他 _____					

Q13-2 在 Q13-1 題打圈的對象中, 最常使用日文的對象是哪個人或是哪些人呢? 請作答。

①那個人是 Q13-1 中 1~9 的那一個呢? *請選擇一個, 並在其號碼上打圈。								
1	2	3	4	5	6	7	8	9
②請問他是哪一國人?								
1. 台灣人 2. 日本人 3. 其他 _____								
③性別								
1. 男 2. 女								
④和對方使用日文時, 您的日文程度為何?請打圈。								
1. 幾乎不大會 2. 會一點點 3. 日常會話程度 4. 程度很好 5. 和日本人一樣								
⑤多久一次和對方使用日文? 請選擇一個。								
1. 一年 2. 3次 2. 一個月 2. 3次 3. 一星期 1次 4. 一星期 2. 3次 5. 每天								
⑥與對方使用日文的主要方式為何? (可複選)								
1. 見面談話 2. 打電話 3. 寫信 4. 傳電子郵件								
5. 上網聊天 (msn 等) 6. 其他 _____								
⑦和對方溝通時, 使用多少日文?								
1. 全都用日文 2. 大部份是用日文 3. 日文和其他語言參半 4. 大部份是其他語言								

④大部分是談哪些話題呢? (可複選)					
1. 有關日文	2. 讀書	3. 工作	4. 生活		
5. 興趣	6. 社會	7. 其他			
⑤和對方溝通時, 為什麼使用日文呢?在下列各選項中, 選出符合自己程度的數字, 如果有選項外的理由時, 請寫在「其他」處, 並也依程度標示。					
	完全符合				完全不符合
1. 因為使用日文很有趣	5	4	3	2	1
2. 因為想和以日文為母語的人說話	5	4	3	2	1
3. 因為想增進或維持日文能力	5	4	3	2	1
4. 因為是工作需要所以得用日文	5	4	3	2	1
5. 因為日文是雙方最能理解的語言	5	4	3	2	1
6. 因為對方使用日文	5	4	3	2	1
7. 因為已成為習慣	5	4	3	2	1
8. 其他	5	4	3	2	1

Q13-3 (在Q13回答「1」的人, 不需要作答.)

除上日文課外, 不使用日文的原因為何? 請在下列選項中, 選出一個最接近您想法的答案。

- 因為沒有使用日文的對象
- 因為沒有想要使用日文
- 因為自己的日文能力不夠好
- 因為覺得不好意思
- 因為沒有自信
- 因為用中文等其他語言會更方便
- 其他

Q14 在您身旁有使用日文 (以日文書寫或發音) 的東西嗎? (日文學習教材除外)

- 有 (一請按 Q14-1)
- 沒有 (一請按 Q15)

Q14-1 在日文課的時間外, 有聽或看使用日文的東西嗎?

- 有 (一請按 Q14-2・Q14-3)
- 沒有 (一請按 Q14-4)

Q14-2 在日文課外有聽或看 (使用日文的東西) 嗎? 只要是符合的選項請全打圈。(可複選)

- 報紙
- 雜誌
- 書
- 漫畫・卡通
- 商品的盒子・說明書
- 電視 (新聞、日劇等)
- 廣告
- 錄影帶・DVD
- CD
- 錄音帶
- 電腦 (網際網路等)
- 遊戲軟體
- 路上的招牌或店內的日語標示
- 其他

Q14-3 在 Q14-2 打圈的選項中, 請針對您最常聽或看的哪一項作下列的回答。

①是 Q14-2 選項中 1~14 的那一個呢? *請選擇一個, 並在其號碼上打圈。													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
②頻率是多久一次? 請打圈。													
1. 一年 2、3次			2. 一個月 2、3次			3. 一星期 1次			4. 一星期 2、3次			5. 每天	
③那東西是誰的?													
1. 自己的		2. 家人的		3. 朋友或認識的人的		4. 學校的							
5. 公司的		6. 其他											
④主要是哪方面的內容? (可複選)													
1. 政治・經濟		2. 社會・生活		3. 科學技術		4. 文化・藝術		5. 運動・興趣					
6. 日文・日文學習		7. 日本人		8. 日本		9. 其他							
⑤聽或看它的理由為何? 在下列各選項中, 選出符合自己程度的數字, 如果有選項外的理由時, 請寫在「其他」處, 並也依程度標示。													
					完全符合								完全不符合
1. 因為很有趣	5	4	3	2	1								
2. 因為想接觸日文	5	4	3	2	1								
3. 因為想測試自己的日文能力	5	4	3	2	1								
4. 因為想增進或維持日文能力	5	4	3	2	1								
5. 因為可以得到各式各樣的情報	5	4	3	2	1								
6. 因為可以了解日本或日本人	5	4	3	2	1								
7. 因為工作上的需要	5	4	3	2	1								
8. 因為研究的需要	5	4	3	2	1								
9. 其他	5	4	3	2	1								

Q14-4 (在 Q14-1 回答「1」的人, 不需要回答.)

除日文課外, 不聽或不看使用日文的東西的理由為何? 請從下面的選項中, 選一個最接近您想法的的答案。

- 因為沒有想要聽它或看它
- 因為沒有時間
- 因為自己的日文能力不夠
- 因為要花錢才能使用它
- 因為很難到手
- 其他

Q15 在過去的3年內，在台灣或日本有去過（如下表 Q15-1）等地方和日本人交流或與日文接觸嗎？

- 1 有（請按 015-1・015-2） 2 沒有（回卷到此結束）

Q15-1 請在有經歷過之經驗選項上打圈，並圈出其經歷之地點。若此地點並非在台灣或日本時，請填寫於「其他」欄處。

	機會・場所	台灣	日本	其他
1	參加與日本人的交流會			
2	到日本人家拜訪・寄宿			
3	有日本人到您家拜訪・寄宿			
4	日文演說比賽			
5	在使用日文的工作場合打工・工作			
6	參加有關日本・日語的活動			
7	到有日本人的地方 日本人聚集的場所			
8	有關日本・日語的資料中心・圖書館 (如：交流協會的日語中心 國家圖書館的日韓閱覽室)			
9	日文的卡拉OK			
10	其他 _____			

Q15-2 在上述曾有的經驗中，有還想再體驗一次或還想一直持續下去的事嗎？從 Q15-1 的選項中，選出一個您最想要再體驗的事，並填於下表中。

- 1 有 一從 015-1 的 10 個選項中選出一個。
2 沒有

感謝您協助填寫此份問卷，謝謝您！

■担当者

杉戸清樹（国立国語研究所日本語教育部門長）
金田智子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）
小河原義朗（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）
笠井淳子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）

■刊行物検討委員会

杉戸清樹（委員長：国立国語研究所日本語教育部門長）
山口昌也（国立国語研究所研究開発部門第一領域）
森本祥子（国立国語研究所情報資料部門第二領域）
井上優（国立国語研究所日本語教育部門第一領域長）
金田智子（国立国語研究所日本語教育部門第一領域）

■学習手段海外委員会

李徳奉（韓国・同徳女子大学校）
工藤節子（台湾・東海大学）
ロビン・スペンス・ブラウン（オーストラリア・モナシュ大学）
阿久津智（拓殖大学／元日本マレーシア高等教育大学連合）
佐藤純（タイ・タイ商工会議所大学）
石井恵理子（東京女子大学）

■所外協力

〈調査協力機関〉

財団法人交流協会台北事務所

〈研究協力者〉

木山登茂子（独立行政法人国際交流基金日本語国際センター）
タナサーンセーニー美香（タイ・アサンブション大学）
藤井彰二（台湾・台湾大学）
吉田真宏（マレーシア・国際交流基金クアラルンプール日本文化センター）

〈調査協力者：台湾〉

顔幸月（世新大学）
上條純恵（財団法人交流協会台北事務所）
服部美貴（台湾大学）
李金娟（東海大学）
李若筠（東海大学）
林美智（中山女子高校）
林明煌（嘉義大学）
王慧珍（中山医学大学）

■調査委託会社

藤田茂（株式会社ストーム）

■協力

中山健一　劉乃青　辻聖子　伊藤啓子　黄瓊芸　菊田綺嘉　李佩嫻

平成 16 年度
日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究
台湾アンケート調査集計結果報告書

平成 17 年 3 月 31 日

独立行政法人 国立国語研究所 日本語教育部門
〒190-8561 東京都立川市緑町 3591-2

TEL : 042-540-4300 (代表)

FAX : 042-540-4333

URL : <http://www.kokken.go.jp>

(平 16-20)